科目名	教　養　演　習	単位数	1	担当教員	西山・鯛谷・堀内

授業の内容	この授業は、広い意味での「教養」を身につけるためのものであり、大きく分けて「身体」や「生命」についての理解を深め、「生活常識」を身につけることを学んでもらう。 保育者は子どもに生命の大切さを教え、子ども達の生活や行動の模範となることが求められる仕事である。そのためには、まず自分自身の身体や生命を大切にし、美しい立ち居振る舞いや言葉遣いで日常生活を送るよう努める必要がある。この事を真剣に受け止めた上で受講してもらいたいと思う。
到達目標	①若い女性としての自分の身体や生命についての理解ができる。 ②社会人としてのマナーや礼儀作法を身につけることができる。

授業計画		
	第１回	授業内容や評価方法等のガイダンス
	第２回	人間の体のつくり
	第３回	女性ライフサイクルと体の変化
	第４回	月経について・小テスト
	第５回	妊娠出産について
	第６回	性感染症と健康への影響
	第７回	女性の病気について
	第８回	総括：命を守るという事・レポート
	第９回	社会人としてのマナー①：立ち居振る舞いの基本・応対の基本姿勢
	第 10 回	社会人としてのマナー②：職場のルールとマナー
	第 11 回	訪問と応対のマナー、もてなしのマナー
	第 12 回	言葉づかいと人間関係のマナー
	第 13 回	電話・手紙・文書マナー
	第 14 回	食事のマナーと日本食への理解
	第 15 回	まとめと小テスト

授業に対する予習・復習		
	予習：　事前にテキストを読んでくること	復習：　日常生活で活用してみること 授業で学んだことは確実に理解し、自分の知識・技術として身につけること。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない ２回から８回：小テスト・レポート（８０％）、授業態度（２０％） ９回から１５回：小テスト（５０％）、実技・授業態度（５０％） この二つの評価を合計して評価する。
教科書	『新生活教養』（近喰晴子他、建帛社）
参考文献	『保育のマナーと言葉』（長島和代編、わかば社）
注意事項	授業は第２週～第８週（担当：西山）はクラスごとに行い、第９週～第１５週（担当：鯛谷・堀内）はクラスを２つにわけた少人数グループで行う。 卒業および資格取得のための必修科目なので、全員が履修すること。

科目名	基　礎　演　習	単位数	1	担当教員	宮内・中村・清水
授業の内容	保育者として必要な専門科目を十分に理解し、効果的に学習を進めるための基礎力を身につけることを目標とする。第１に文章表現力を身につける。第２にコミュニケーション能力を向上させる。第３に小学校、中学校、高校で学んだ基本的な知識を復習し、保育士や幼稚園教諭などの採用試験に役立つ基礎学力を強化する。				
到達目標	①実習日誌や指導案作成に必要な文章力を身につける。 ②人前で自分を表現する能力を身につける。 ③専門科目の学習の準備としての数的処理能力と時事問題の知識を身につける。 ④自治体の保育士採用試験の教養問題について、学んだ分野については６割から７割が解答できる。				

授業計画		
	第１回	文章表現①：良い文章と悪い文章・主語と述語の配置
	第２回	文章表現②：センテンスの区切り方・ 修飾語と被修飾語の配置
	第３回	文章表現③：敬語の使い方・丁寧語の使い方
	第４回	文章表現④：語彙の習得
	第５回	文章表現⑤：漢字を学ぶ
	第６回	文章表現⑥：文書マナー（プリントによる演習①）
	第７回	文章表現⑦：文書マナー（プリントによる演習②）
	第８回	プレゼンテーション①：自分を知ろうーエゴグラム分析による性格診断
	第９回	プレゼンテーション②：いまの私と理想の私ーどんな保育者になりたいか
	第 10 回	プレゼンテーション③：グループワークー討論と発表
	第 11 回	中学校の数学の復習。まずは、簡単な計算、簡単な方程式、簡単な文章題を中心に。政治経済の復習１回目
	第 12 回	採用試験によく出題される文章題。塩水問題、列車のすれ違い問題などを中心に。政治経済の復習２回目
	第 13 回	図形問題を中心に、やや難しい問題に取り組む。簡単な地理（各国問題）の復習
	第 14 回	高校１年の範囲の数学の基礎を学ぶ。簡単な日本史の復習。
	第 15 回	実際に試験に出題された数学の問題に取り組む。簡単な世界史の復習

授業に対する予習・復習	予習：　各担当教員が授業中に指示する。	復習：　各担当教員が授業中に指示する。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 課題（４０％）、発表（３０％）、授業態度（３０％）
教科書	特になし
参考文献	授業注意に適宜指示する
注意事項	各クラスを 2 グループに分け、1 つのグループは上記授業計画の第 1 週目の授業内容から始め、もう 1 つのグループは第 8 週目の授業内容からスタートする形で進める。演習科目なので、聴講するだけでなく積極的に参加すること。また、卒業及び資格必修科目なので、全員が履修すること。

科目名	日本国憲法	単位数	2	担当教員	平田　陽一

授業の内容	私達の国家は市民の良識により公正な社会を作ることを目指している。この目的を実現するために政府を作り、そして政府の守るべき規範として制定された法が憲法である。この視点から憲法の基本的な考え方を説明する。
到達目標	①　憲法が制定された目的を理解することができる ②　憲法が前提としている「自律した市民」としての自覚を持つことができる ③　自己の判断により国の政策を選択できる

授業計画		
	第１回	憲法について（憲法は政府の守るべき法であること）
	第２回	近代立憲主義（憲法が政治権力の濫用を防止するための法であること）
	第３回	近代国家と憲法（政府の役割が国民の人権の保障であること）
	第４回	平和主義（国際紛争を平和的手段で解決するということ）
	第５回	国民主権主義（国家の政策は国民が決めるということ）
	第６回	人権尊重主義（政府は国民の人権を侵害してはならないということ）
	第７回	権力分立主義（政治権力の濫用を防止するため分割するということ）
	第８回	人権（人間が人間として生まれながらに当然有する権利であること）
	第９回	自由権（政府の人権侵害からの国民の自由について）
	第 10 回	社会権（国民の人権を実現するために政府のなすべきことについて）
	第 11 回	参政権など（国民の意思の表明などについて）
	第 12 回	立法機関（国会の役割について）
	第 13 回	行政機関（内閣の役割について）
	第 14 回	司法機関（裁判所の役割について）
	第 15 回	憲法の現代的諸問題

授業に対する予習・復習		
	予習：　予習は困難と思われるので、特に必要としない。	復習：　単なる復習ではなく、基本的な問題を心に留めて考え続けることが望まれる。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない レポート（６０％）、授業態度（４０％）
教科書	『現代社会の法と民法』（小野幸二編著、八千代出版）
参考文献	
注意事項	一般教養として憲法を勉強するという意識ではなく、よい社会は自分達で作るという積極的な心構えで勉強すること。

科目名	体育実技	単位数	1	担当教員	塩崎　みづほ

授業の内容	本講義では、生涯にわたって運動・スポーツと親しむための基礎的技能の習得、正しい知識、実践方法について学ぶとともに、運動・スポーツを通して他者との関り方について考えることをねらいとする。さらに、将来幼児教育者として適切に動け、子どもを援助指導できるように、学生の運動に関する資質の向上を図る。
到達目標	①　運動・スポーツに親しむための基礎的技能を習得する ②　自己の身体に関心をもち、健康の維持・向上を実践していく知識・方法を習得する ③　運動・スポーツを通して協調性・社会性を身に付ける ④　幼児教育者として必要な身体運動に関する基本的な知識と技能の習得ができる

授業計画

第１回	オリエンテーション 次にあげる３つのコースから選択できる。（第１０時限までは共通） １）　平常コース ２）　スケート教室（９月上旬、３日間） ３）　スキー教室（３月中旬以降予定３泊４日） 上記コースの説明 履修方法、受講上の注意事項等について説明	第 14 回	ソフトバレーボール②
		第 15 回	バドミントン①
		第 16 回	バドミントン②
第２回	身体ほぐし、心ほぐし 豆袋を使って遊ぶ	第 17 回	卓球①
第３回	リズミカルに動く「ダンス」①	第 18 回	卓球②
第４回	リズミカルに動く「ダンス」② －友達と関わって－	第 19 回	バレーボール①
第５回	リズミカルに動く「ダンス」③ －動きの発見－	第 20 回	バレーボール②
第６回	リズミカルに動く「ダンス」④ －作品を創る－	第 21 回	縄跳び
第７回	リズミカルに動く「ダンス」⑤ －発表会－	第 22 回	幼児体操を考えよう①
第８回	ドッチボール	第 23 回	幼児体操を考えよう②
第９回	ポートボール		
第 10 回	バスケットボール①		
第 11 回	バスケットボール②		
第 12 回	フリスビー、リングボールを作って遊ぼう		
第 13 回	ソフトバレーボール①		

授業に対する予習・復習	予習：　ストレッチ、簡単な運動を毎日実践する	復習：　授業内に行った幼児体操の動きをノートに記録し、動きの復習をする ルールについて復習し記憶する
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない レポート（２０％）、課題（１０％）、作品（１０％）、発表（１０％） 実技（２０％）、授業態度（３０％）	
教科書		
参考文献	『保育の中の運動あそび』（石井美晴編、萌文書林）、『幼児の動きづくり』（桐生良夫編、杏林書院） 『０歳からはじめるうごきづくり』（太田昌秀他著、幻冬舎ルネサンス）	
注意事項	実技の時は、必ず指定の運動着を着用して受講すること 出席を重視する 意欲をもって積極的に取り組む姿勢を評価する ＊２）スケート、３）スキーコースに係る各諸費用については、全額学生負担となる。	

科目名	体育実技	単位数	1	担当教員	岡　芳郎

授業の内容	授業では、身体活動の体験を通して心身の調和を図り、健康な身体の保持増進に努めることによって、生涯にわたって豊かな生活を営むために必要な運動の技能や知識を習得すること。また、将来の社会生活において運動やスポーツを通じて、さまざまな身体コミュニケーションを行うことの意義について理解を深めることを目的に授業を実施する。
到達目標	1）運動・スポーツを通して主体性・協調性・社会性・道徳性など身につける。 2）幼児教育者として必要な身体運動に関する基本的な知識と技能を習得し、自ら動ける身体を作り、体力の維持増強を図ることができる。 3）幼児教育者として適切に動け、子どもを援助指導できるように学生の運動に関する資質の向上を図ることができる。

授業計画

第１回	授業ガイダンス 履修方法、受講上の注意事項について説明	第 16 回	フットサル③ （Ａ・Ｂブロック総当たり　リーグ戦）
第２回	からだほぐし （なわとび・ボールを使って）	第 17 回	卓球① （各種ストロークの練習　簡易ゲーム）
第３回	ドッチボール① （クラス内対抗マッチ）	第 18 回	卓球② （Ａ・Ｂブロック総当たり　リーグ戦）
第４回	ドッチボール② （クラス内対抗マッチ）	第 19 回	テニス① （各種ストロークの練習　簡易ゲーム）
第５回	バドミントン① （各種ストロークの練習　簡易ゲーム）	第 20 回	テニス② （各種ストロークの練習　簡易ゲーム）
第６回	バドミントン② （ダブルスゲーム　リーグ戦）	第 21 回	短なわとび検定① （両足とび・綾とび・交差とび　前・後１０回）
第７回	バドミントン③ （ダブルスゲーム　リーグ戦）	第 22 回	短なわとび検定② （二重とび　前・後１０回　ハヤブサ　前・後１０回）
第８回	バスケットボール① （パス・ドリブル・シュート練習　簡易ゲーム）	第 23 回	
第９回	バスケットボール② （Ａ・Ｂブロック総当たり　リーグ戦）	第 24 回	
第 10 回	バスケットボール③ （Ａ・Ｂ・ブロック総当たり　リーグ戦）	第 25 回	
第 11 回	ソフトバレーボール① （パス・アタック・サーブ練習　簡易ゲーム）	第 26 回	
第 12 回	ソフトバレーボール② （Ａ・Ｂブロック総当たり　リーグ戦）	第 27 回	
第 13 回	ソフトバレーボール③ （Ａ・Ｂブロック総当たり　リーグ戦）	第 28 回	
第 14 回	フットサル① （パス・ドリブル・シュート練習　簡易ゲーム）	第 29 回	
第 15 回	フットサル② （Ａ・Ｂブロック総当たり　リーグ戦）	第 30 回	

授業に対する予習・復習	予習：　授業で実施する実技について基本技術やルールを把握しておくこと。	復習：
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない レポート（１０％）、課題（２０％）、実技（３０％）、授業態度（４０％）	
教科書		
参考文献		
注意事項	授業は３つのコースから選択できる（１．平常コース　２．スケート教室　３．スキー教室） ※スケート・スキー教室にかかる各諸費用については全額学生負担となる。 指定された体操着を着用すること。　シューズは体育館用・外用を準備すること。 ※欠席回数が全授業の３分の１を超えた場合は評価の対象外となる。	

科目名	体　育　講　義	単位数	1	担当教員	塩崎　みづほ

授業の内容	健康や運動に関する情報があふれている現代社会。それらに対応していく力をつけることが望まれるだろう。よって、本講義では健康・運動・体力について正しい知識を学び、自ら健康の維持増進の方法を考え、実践していく力を養うことがねらいである。
到達目標	①　健康に関する正しい知識を学び、健康的なライフスタイル実践する力を身に付ける ②　幼児期、学童期、青年期の運動発達発達の特徴について理解できる ③　将来幼児教育者とし自己の健康管理、子どもたちの健康・運動の援助指導を適切に行えるよう基礎的知識を習得する

授業計画		
	第１回	受講上の留意事項について 人間の健康と運動
	第２回	体力について 体力概念、体力低下について考える
	第３回	幼児期・学童期・青年期の発達の特徴と運動
	第４回	トレーニングの基礎理論
	第５回	私たちの心と身体　心身の発達の特徴
	第６回	青年期の性とＳＴＤ
	第７回	応急手当の基礎知識
	第８回	現代社会と運動遊びの意義について まとめ
	第９回	
	第 10 回	
	第 11 回	
	第 12 回	
	第 13 回	
	第 14 回	
	第 15 回	

授業に対する予習・復習	予習：　次時の授業に関連する箇所の教科書、配布プリントを熟読してくる。	復習：　小テストの内容について、配布プリント、教科書を見てしっかり覚えてくる。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（〇）する／（　）しない 筆記試験（５０％）、レポート（１０％）、課題（１０％）、授業態度（３０％）
教科書	「体育実技」の授業内で指示する
参考文献	『健康づくりのための運動科学』（鵤木秀夫編、化学同人）
注意事項	11 月から実施する

科目名	体　育　講　義	単位数	1	担当教員	岡　芳郎

授業の内容	本講義では、「健康」「運動」「スポーツ」の実践の基盤となる理論的な事柄について理解を深めていくことを目的に、健康・体力・運動について正しい知識を学び健康的なライフスタイルを目指せるようにする。 また、さまざまな生活習慣病について学び、運動・栄養・休養との関係について考えていく。
到達目標	１）健康とは何かについて自分の考えが述べられる。 ２）生活習慣病とその対策について理解することができる。 ３）自らの健康の保持増進方法を考え、実践することができる。

授業計画		
	第１回	授業ガイダンス 性格について（性格の形成　　性格の分類　　性格診断）
	第２回	血液について（血液の役割　　血液の成分　　血液型の比率） 血液型の遺伝システム　　輸血について
	第３回	人体のしくみ （各器官系の働きについて）
	第４回	運動器系の構造と働き （骨格系・筋肉系・関節の働きについて）
	第５回	神経系の構造と働き （脳の構造・機能　　右脳左脳の働きについて）
	第６回	体力・運動能力の定義 （種類・構造・基本的な体力要素について）
	第７回	健康の定義・健康の考え方 （食事・運動・休養との関係について）
	第８回	生活習慣病と健康 （体型・体格の３要素　　標準体重　　BMI について）
	第９回	全体のまとめ
	第 10 回	
	第 11 回	
	第 12 回	
	第 13 回	
	第 14 回	
	第 15 回	

授業に対する予習・復習		
	予習：　授業で扱うテーマに関連する記事（雑誌・新聞等）をスクラップする。	復習：

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 筆記試験（５０％）、レポート（１０％）、課題（１０％）、授業態度（３０％）
教科書	「体育実技」の授業内で指示する
参考文献	
注意事項	授業開始は１１月からである。 授業中の飲食禁止　　授業中の携帯電話の使用禁止 ※欠席回数が全授業の３分の１を超えた場合は評価の対象外となる。

科目名	宗　教　と　文　化	単位数	2	担当教員	宮内　淳平

授業の内容	私達は常日頃いろいろな宗教とふれ合っている。本講義では、日常生活に横たわっている宗教に関する主要なテーマを取りあげ、それらの宗教行事に流れる思想・文化等多角的に検討し、日本人と文化について考えてみる。また、それぞれのテーマの中で、具体的に日本の民族宗教である神道、中国の民族宗教である道教・儒教等にもふれ、民間伝承宗教行事の具体例をも取りあげ、、死生観を含み宗教の役割及び機能について総合的に考えてみる。
到達目標	・宗教とは何かということについての基礎的な知識を得それらの知見や考え方を理解する。 ・世界で起きている宗教に関する諸問題について理解し、それらについて考える能力を身につける。 ・上記のような知識と理解に基づいて、感謝の気持ちと思いやりの心を身につけ、幼児教育者としての心豊かな宗教情操を身につけ、宗教は文化の重要な一要素であることを学ぶ。

授業計画		
	第１回	日常の宗教的考えについて
	第２回	日本人の宗教に対する考えと信仰の自由について
	第３回	宗教の誕生と起源
	第４回	原始宗教とアニミズム・シャーマニズム・トーテミズム
	第５回	宗教の定義・宗教の分類
	第６回	宗教儀礼と通過儀礼
	第７回	日本神話の歴史と神道について
	第８回	呪術と祈りについて
	第９回	生活の中の宗教と民間信仰
	第 10 回	天の思想と中国民族宗教及び儒教について
	第 11 回	中国道教について生活
	第 12 回	日本人の死生観『地蔵十王経』を読む
	第 13 回	日本人の死生観『地蔵十王経』の意味
	第 14 回	宗教と科学の関係について及び現代社会のでの宗教問題について
	第 15 回	現代社会と宗教と生き甲斐について

授業に対する予習・復習	予習：　レジュメを配布するので必ず事前に読んで授業を受けること。	復習：　レジュメをよく読み，わからないことは次回に質問する。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 課題（７０％)、授業態度（３０％）
教科書	レジュメを配布予定。
参考文献	
注意事項	

科目名	現代社会事情	単位数	2	担当教員	松木　久子

授業の内容	教養として必要と思われる一般常識や、知っておくべき時事問題を取り上げ、認識力を高められるように指導する。
到達目標	各自、社会を見る目を養い、容易にだまされないような認識力を高めていくことができる。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション：履修上の注意、講義内容の説明等
	第２回	地球温暖化問題について(1)　何が問題か
	第３回	地球温暖化問題について(2)　今後、どうするか
	第４回	日本の政治について：与党と野党、各政党の特徴等
	第５回	日本の選挙制度について：大・中・小選挙区制等
	第６回	憲法改正問題について：日本国憲法を見直す
	第７回	戦争について考える(1)　世界大戦
	第８回	戦争について考える(2)　民族紛争
	第９回	戦争について考える(3)　核の問題
	第 10 回	オリンピックについて(1)　古代オリンピック
	第 11 回	オリンピックについて(2)　近代オリンピック
	第 12 回	アメリカ大統領選挙について(1)　日本との相違点
	第 13 回	アメリカ大統領選挙について(2)　日本との類似点
	第 14 回	日本の将来について考える
	第 15 回	これまでのまとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：　授業に関連する事柄について事前に調べる。	復習：　必要に応じて発表や小テストに対応できるようにしておく。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 筆記試験（５０％）、発表（２５％）、授業態度（２５％）
教科書	特に指定はしません。
参考文献	必要に応じて紹介します。
注意事項	図書館を活用し、積極的に調べることを通して主体的に学ぶ態度を養うようにしてほしい。 必ず新聞に目を通し、ニュースに耳を傾け、何が起きているかあるいは何が起きようとしているかに敏感になってほしい

科目名	エコロジー入門	単位数	2	担当教員	中村　陽一

授業の内容	エコロジー（ecology）は「生態学」と訳され、本来は「生物と環境の関わりを研究する学問」である。近年、地球環境問題が深刻化する中、人間と自然との共存を目指す思想や活動を表す言葉として使われるようになった。本講では、人間活動が地球環境に及ぼした影響と歴史的をエコロジーの視点から検証する。
到達目標	１．人類が地球環境に与えてきた影響について、エコロジーの視点から理解している。 ２．現在の地球環境問題について、その概要を知り説明できる。 ３．地球環境問題を克服するためには何が必要か、また何が出来るか、自分の意見を述べることができる。

授業計画		
	第１回	エコロジー（生態学）とは何かーその思想と歴史、地球環境問題の概要
	第２回	エコロジーから見た世界史①ーイースター島の悲劇
	第３回	エコロジーから見た世界史②－古代文明と森林破壊
	第４回	エコロジーから見た世界史③－西欧文明と環境破壊
	第５回	エコロジーから見た日本史①－持続可能な社会だった江戸時代
	第６回	エコロジーから見た日本史②－エコロジーから見た伊勢神宮の式年遷宮
	第７回	エコロジーから見た日本史③－公害問題と環境問題
	第８回	環境問題の現状①－地球温暖化の現状
	第９回	環境問題の現状②－温暖化は何をもたらすか
	第 10 回	環境問題の現状③－ヒートアイランド現象
	第 11 回	環境問題の現状④－オゾン層破壊
	第 12 回	環境問題の現状⑤－生物種の絶滅
	第 13 回	再生可能エネルギーとエコロジー①－太陽光発電と風力発電
	第 14 回	再生可能エネルギーとエコロジー②－地熱発電とバイオマス利用
	第 15 回	地球の未来はどうなるかー限界に達した地球環境

授業に対する予習・復習		
	予習：　毎回の授業の終わりに次回の内容と予習の方法について伝える。	復習：　授業中に示す重要事項を中心に復習すること。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 課題（７０％）、授業態度（３０％）
教科書	なし
参考文献	必要に応じて紹介する。
注意事項	日頃から環境問題について関心を持ち、問題意識をもって授業に臨むこと。

科目名	情報機器操作	単位数	2	担当教員	金　宰郁

授業の内容	教育に関連する文書業務・情報交換・情報収集等は、コンピュータによりその多くが行われていると考えられます。本科目では、幼児教育を行う方法の上での技術として、情報機器を利用するには、どのような考え方でどのような情報機器を用いて行うことが最も適切なのかについて理解を図ります。
到達目標	情報分野の基本的なスキルであるコンピュータリテラシーを身につけ、コンピュータを使いこなすことができる。 １）ワープロソフト「Word」の習得によりそれぞれの文書作成に対応 ２）プレゼンテーションソフトの習得により卒論に対応 ３）情報処理検定及びワープロ検定試験への資格証取得

授業計画		
	第１回	この授業科目に関するガイダンスおよび自己紹介文作成・提出
	第２回	Windows の基本操作(1)：OS，GUI など
	第３回	Windows の基本操作(2)：ファイル管理，種類，文書の保存・読込み，その他
	第４回	絵の作成の基礎：絵描きソフト（ペイント）による文化表現関連課題の作成および提出
	第５回	日本語ワープロソフト「Word」の基礎(1)：文書形式，文書のコピー・移動・削除の関連課題の作成および提出
	第６回	日本語ワープロソフト「Word」の基礎(2)：文字サイズの変更，文字揃えなどの関連課題の作成および提出
	第７回	日本語ワープロソフト「Word」の基礎(3)：均等割付・段組，縦書き文字などの関連課題の作成および提出
	第８回	日本語ワープロソフト「Word」の基礎(4)：表作成と編集①の関連課題の作成および提出
	第９回	日本語ワープロソフト「Word」の応用：表作成と編集②の関連課題の作成および提出
	第 10 回	日本語ワープロソフト「Word」の応用：クリップアート，ワードアートの関連課題作成，及び提出
	第 11 回	日本語ワープロソフト「Word」の応用：図形描画の関連課題作成，及び提出
	第 12 回	日本語ワープロソフト「Word」の応用：段組み，ドロップキャップ，ページ罫線の関連課題作成，及び提出
	第 13 回	プレゼンテーション「PowerPoint」１：発表の構成とスライド，オブジェクトの編集，その他
	第 14 回	プレゼンテーション「PowerPoint」２：発表の準備，その他
	第 15 回	プレゼンテーション発表：グループごとに PowerPoint で１つの作品を作り，発表

授業に対する予習・復習		
	予習：　ワープロソフトの基礎知識（定義）を事前に調べてから、教科書の例題および課題を解いてみる。	復習：　教科書の例題および当日の課題をもう一度解いてみて確認する。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 課題（４０％）、作品（２０％）、発表（１０％）、授業態度（３０％）
教科書	『文科系学生のための情報活用』（立野貴之、共立出版）
参考文献	『知りたい操作がすぐわかる Word2013 全機能 Bible』（西上原裕明、技術評論社）
注意事項	出席時間数が授業時間数の３分の２以上であり、かつ、課題、最終作品、発表、平常点等の成績を総合して合格と判断された場合、所定の単位が与えられます。

科目名	情　報　機　器　操　作	単位数	2	担当教員	榎本　功子

授業の内容	パソコンの基本的な操作方法と、よく使われるアプリケーションソフトの使い方は、社会人として必要不可欠なものである。幼児教育の現場においても、園だよりやクラスだよりなど、さまざまな印刷物を作成したり、教育上必要な情報収集などのスキルが求められる。本講ではまず、コンピューターのしくみ、コンピューター用語の解説、アプリケーションソフト（ワード、エクセル、インターネットエクスプローラー、メールソフトなど）について解説し、パソコンの基本的な操作法を学ぶ。次いで、ワードによるさまざまな文書の作成法を習得する。
到達目標	ワードの機能を使って、さまざまな文書を作成できる。

授業計画		
	第１回	コンピューターのしくみ　コンピューター用語の解説　アプリケーションソフトの解説（ワード、エクセル、インターネットエクスプローラー、メールソフト）
	第２回	ワードの使い方 文字の入力、簡単な文章の作り方、整え方
	第３回	ワードによる文書作成①　文字の設定
	第４回	ワードによる文書作成②　ワードアート
	第５回	ワードによる文書作成③　ページ設定
	第６回	ワードによる文書作成④　ハガキの設定
	第７回	ワードによる文書作成⑤　表の作り方
	第８回	インターネットの使い方①「行き先を調べる」「路線を調べる」「地図を見る」
	第９回	インターネットの使い方②「保育に使える素材を探し、保存する」
	第 10 回	インターネットの使い方③　素材を使って文書を作成する
	第 11 回	メールの送受信とメールの書き方、写真の添付
	第 12 回	多くの人に、一斉にメールを出す（メルマガ、お知らせメール）
	第 13 回	ウイルスの予防と対策
	第 14 回	クリスマスカードの作成
	第 15 回	ポスターを作る

授業に対する予習・復習		
	予習：　実践的な授業なので、未経験者も経験者も、スキルアップを目指して積極的に取り組むこと。授業に出席することで、特に予習の必要はない。	復習：　覚えたことを繰り返し復習することは、スキルアップにつながることなので、おすすめします。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 課題（８０％）、授業態度（２０％）
教科書	とくになし。 授業に合わせた課題を教師パソコンに表示する。
参考文献	必要に応じて随時紹介する。
注意事項	授業に出席すること。

科目名	英　語（1）	単位数	2	担当教員	中島　尚樹

授業の内容	この授業は、実践的な英語力の基礎を身につけるためのものです。日常生活の身近な話題に関して英語で理解、表現できるように、基本的な文法、語彙の学習から読解、リスニング、英作文に至るまでの発信型の練習をしていきます。また、月の名前の由来など文化的な話題や英語の素朴な疑問などにも触れたいと思っています。
到達目標	１年間の学習を通して、英語で簡単なコミュニケーションができるようになる。 （１）BE 動詞の構文（現在と過去）を使えるようにする （２）一般動詞の構文（現在と過去）を使えるようにする （３）日常生活の出来事を言い表すのに必要な基本的な語彙を身につける

授業計画

第１回	授業説明	第 16 回	Unit 9 ジェスチャー
第２回	文法：名詞と代名詞	第 17 回	Unit 10 観光案内
第３回	Unit 1 自己紹介	第 18 回	文法：現在進行形と過去進行形
第４回	文法：Be 動詞の現在形	第 19 回	Unit 11 航空券を Net で Get
第５回	Unit 2 家族・ペット	第 20 回	文法：一般動詞の過去形(規則動詞)
第６回	文法：Be 動詞の過去形	第 21 回	Unit 12 E-mail を送る
第７回	Unit 3 趣味	第 22 回	文法：一般動詞の過去形(不規則動詞)
第８回	文法：一般動詞の現在形	第 23 回	Unit 13 機内で
第９回	Unit 4 大学生活	第 24 回	文法：一般動詞の過去形(疑問文・否定文)
第 10 回	文法：一般動詞の現在形(疑問文・否定文)	第 25 回	Unit 14 空港で
第 11 回	Unit 5 食べ物	第 26 回	文法：未来の表現
第 12 回	Unit 6 コンサート	第 27 回	Unit 15 ホテル
第 13 回	Unit 7 道案内	第 28 回	Unit 16 レストランで
第 14 回	Unit 8 日本文化紹介	第 29 回	Unit 17 ショッピング
第 15 回	まとめ：be 動詞と一般動詞の現在形 文法問題の練習と英作文	第 30 回	まとめ：一般動詞の過去形，現在・過去進行形，未来表現 文法問題の練習と英作文

授業に対する予習・復習	予習：　テキストにＣＤが付いているので、家で聞いて事前に聞き取り問題をやってみることを勧めます。家でなら何度でもゆっくり聞き返すことができます。	復習：　授業で出てきた構文がすべて理解できたかどうか、また出てきた単語の意味がすべて分かるかどうかを毎回確認すること。課題として出された英作文をやること。
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 筆記試験（７０％）、課題（２０％）、授業態度（１０％）	
教科書	『*Forerunner to Power-Up English*（総合英語パワーアップ入門編　リスニングからリーディング）』 （JACET リスニング研究会、南雲堂）	
参考文献		
注意事項	この授業は英語で発信できる(英文が作れる)ようになるための総合的な授業で、読解を主とした授業ではありません。理解するだけでなく、英語が書けて、話せるようになるためには、その課で学んだ構文を毎回確実に覚えていくことが最も重要です。少しずつでもいいので、テキストとプリントに出てくる単語や例文を毎回必ず覚えていってください。当然のことながら、試験の結果はそういった努力に大きく左右されます。	

科目名	英　語（1）	単位数	2	担当教員	須釜　幸男

授業の内容	「英語とコンピュータが出来れば食いっぱぐれない」という台詞が一昔前によく語られましたが、グローバル化時代に入って、それはより切実なものになってきました。これからは一先ず、英語に対する得意・不得意、好き・嫌いは脇に置いておくことにしましょう。この授業を通じて、皆さんが英語というものに関わり、親しみながら、そのイロハを体得していきましょう。
到達目標	①英語圏と日本の間にある文化・マナーの違いを考え、会話力を磨くことが出来る。 ②自分の意見をまとめるだけでなく、周囲に分かりやすく英語で発信力を高めることが出来る。 ③仕事で欠かせない TOEIC®では 600 点、英検では２級・準１級程度の英語力を身に付けることが出来る。

授業計画

第１回	前期ガイダンス	第 16 回	後期ガイダンス
第２回	TOEIC® Part 1 の解説・演習（基礎編） ：写真描写問題	第 17 回	TOEIC® Part 1 の解説・演習（応用編） ：写真描写問題
第３回	TOEIC® Part 2 の解説・演習（基礎編） ：応答問題	第 18 回	TOEIC® Part 2 の解説・演習（応用編） ：応答問題
第４回	TOEIC® Part 3 の解説・演習（基礎編） ：会話問題	第 19 回	TOEIC® Part 3 の解説・演習（応用編） ：会話問題
第５回	TOEIC® Part 4 の解説・演習（基礎編） ：説明文問題	第 20 回	TOEIC® Part 4 の解説・演習（応用編） ：説明文問題
第６回	TOEIC® Part 5 の解説・演習（基礎編） ：短文穴埋め問題	第 21 回	TOEIC® Part 5 の解説・演習（応用編） ：短文穴埋め問題
第７回	TOEIC® Part 6 の解説・演習（基礎編） ：長文穴埋め問題	第 22 回	TOEIC® Part 6 の解説・演習（応用編） ：長文穴埋め問題
第８回	TOEIC® Part 7 の解説・演習（基礎編） ：一つ/複数の文章	第 23 回	TOEIC® Part 7 の解説・演習（応用編） ：一つ/複数の文章
第９回	上半期のまとめ	第 24 回	上半期のまとめ
第 10 回	時事英語 ：政治分野	第 25 回	時事英語 ：芸術分野
第 11 回	時事英語 ：経済分野	第 26 回	時事英語 ：スポーツ分野
第 12 回	時事英語 ：社会分野	第 27 回	時事英語 ：エンターテイメント（芸能）分野
第 13 回	時事英語 ：文化分野	第 28 回	時事英語 ：国際分野
第 14 回	下半期のまとめ	第 29 回	下半期のまとめ
第 15 回	前期授業全体のまとめ	第 30 回	後期授業全体のまとめ

授業に対する予習・復習	予習：　・前回の授業を復習 ・既習プリントのファイリング	復習：　・既習文法や語彙を確認・理解 ・既習テーマに関する新聞や雑誌をチェック ・これまでの学習範囲との位置付け ・自分の社会観や時代感覚を形成・展開
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 筆記試験（５０％）、授業態度（５０％） （注）単元の終了ごとに小テストを行なう。	
教科書		
参考文献		
注意事項	英語力は授業だけでは向上しませんので、日頃からの意欲的な学習を期待します。また、何も文法や会話ばかりが英語力だとは限りません。例えば、英語圏の文化や歴史を知るのも、立派な英語力向上です。英語が苦手な人は映画や旅行、食事、ファッション、海外事情といった側面からのアプローチをお勧めします。インターネットを存分に駆使して、海外の新しい情報を収集し、日本と海外の文化に違いに触れてみましょう。	

科目名	英　語（2）	単位数	2	担当教員	須釜　幸男

授業の内容	英語（2）では、既習の英語（1）の基礎を土台にして、使える英語や英語文化を学んでいきます。そこで、皆さんの専門の保育や子どもにテーマを合わせ、文学や映画、アニメーション、時事問題、会話等から英語を学習していきます。受講に際しては英語が苦手だから、不得意だからとの心配はいりません。英語（2）は（1）よりも難易度の高い上級編という意味ではなく、英語で社会を広く学ぼうという意味の（2）です。
到達目標	①英語圏と日本の間にある文化・マナーの違いを考え、会話力を磨くことが出来る。 ②自分の意見をまとめるだけでなく、周囲に分かりやすく英語で発信力を高めることが出来る。 ③仕事で不可欠な TOEIC®では 600 点、英検では２級・準１級程度の英語力を身に付けることが出来る。

授業計画

第１回	前期ガイダンス	第 16 回	後期ガイダンス
第２回	幼児向け文学に触れる（基礎編） ：欧州	第 17 回	幼児向け文学に触れる（応用編） ：欧州
第３回	幼児向け文学に触れる（基礎編） ：米国	第 18 回	幼児向け文学に触れる（応用編） ：米国
第４回	幼児向け文学に触れる（基礎編） ：日本	第 19 回	幼児向け文学に触れる（応用編） ：日本
第５回	幼児向け映画を鑑賞する（基礎編） ：欧州	第 20 回	幼児向け映画を鑑賞する（応用編） ：欧州
第６回	幼児向け映画を鑑賞する（基礎編） ：米国	第 21 回	幼児向け映画を鑑賞する（応用編） ：米国
第７回	幼児向け映画を鑑賞する（基礎編） ：日本	第 22 回	幼児向け映画を鑑賞する（応用編） ：日本
第８回	まとめ	第 23 回	まとめ
第９回	保育をめぐる海外事情を知る：欧州（基礎編）	第 24 回	保育をめぐる海外事情を知る（応用編） ：欧州
第 10 回	保育をめぐる海外事情を知る：米国（基礎編）	第 25 回	保育をめぐる海外事情を知る（応用編） ：米国
第 11 回	保育をめぐる海外事情を知る：日本（基礎編）	第 26 回	保育をめぐる海外事情を知る（応用編） ：日本
第 12 回	保育・子どもに用いる会話（基礎編） ：喜怒哀楽の表現	第 27 回	保育・子どもに用いる会話（応用編） ：喜怒哀楽の表現
第 13 回	保育・子どもに用いる会話（基礎編） ：家庭生活での表現	第 28 回	保育・子どもに用いる会話（応用編） ：家庭生活での表現
第 14 回	保育・子どもに用いる会話（基礎編） ：集団生活での表現	第 29 回	保育・子どもに用いる会話（応用編） ：集団生活での表現
第 15 回	まとめ	第 30 回	まとめ

授業に対する予習・復習	予習：　・前回の授業を復習 ・既習プリントのファイリング	復習：　・既習文法や語彙を確認・理解 ・既習テーマに関する新聞や雑誌をチェック ・これまでの学習範囲との位置付け ・自分の社会観や時代感覚を形成・展開
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 筆記試験（５０％）、授業態度（５０％） （注）単元の終了ごとに小テストを行なう。	
教科書		
参考文献		
注意事項	英語力は授業だけでは向上しませんので、日頃からの意欲的な学習を期待します。また、何も文法や会話ばかりが英語力だとは限りません。例えば、英語圏の文化や歴史を知るのも、立派な英語力向上です。英語が苦手な人は映画や旅行、食事、ファッション、海外事情といった側面からのアプローチをお勧めします。インターネットを存分に駆使して、海外の新しい情報を収集し、日本と海外の文化に違いに触れてみましょう。	

科目名	音　楽（1）基　礎　音　楽	単位数	2	担当教員	平島　美保

授業の内容	幼児教育者としての必要な音楽の基礎知識を学ぶと共に、こどもたちと一緒に歌うためにコードによる伴奏法を身に付ける。また、机上における学習だけでなく、「ダルクローズリトミック」という手法を用いながら、音楽の諸要素を体得する。
到達目標	・音楽理論を学び、音楽をより深く理解し、自分の音楽作りに役立たせる。 ・和音やコードを習得する。 ・コードを用いたこどものうたの伴奏法を身に付ける。

授業計画

第１回	授業ガイダンス 音楽経験についてのアンケート調査	第 16 回	黒鍵 5 音音階を用いた即興演奏
第２回	楽譜の読み方①　楽典を中心に「譜表、音部記号等」	第 17 回	5 音音階で成るこどものうたの演奏発表
第３回	楽譜の読み方②　楽典を中心に「音符」	第 18 回	和音①「長 3 和音・短 3 和音・増 3 和音・減 3 和音」
第４回	楽譜の読み方③　楽典を中心に「休符」	第 19 回	和音②「4 種類の和音の構成」について
第５回	楽譜の読み方④　基本となる音符を中心にした「リズム・リズムフレーズ」	第 20 回	コード、及びコードネームとその表記法について
第６回	楽譜の読み方⑤　リズムを中心に「拍の分割形」	第 21 回	コードを用いた伴奏法①　コードをつかむ練習
第７回	拍子①「拍のグループと 1 拍目への意識」	第 22 回	コードを用いた伴奏法②　セブンスコードについて、「C、G、G7 コード」の進行方法について
第８回	拍子②「指揮と呼吸の関係」	第 23 回	コードを用いた伴奏法③ 「C、G、G7 コード」によるこどものうたへのコード付
第９回	拍子③「弱起への意識と指揮と呼吸」指揮法の発表	第 24 回	コードを用いた伴奏法④　第 23 回の内容をさらに深める 「C、G、G7 コード」によるこどものうたへのコード付
第 10 回	調と音階について①「音名と音階」	第 25 回	コードを用いた伴奏法⑤「C→F.」「F→G,G7」の進行方法
第 11 回	調と音階について②「長音階の成り立ち」	第 26 回	コードを用いた伴奏法⑥「C→F.」「C→G,G7」によるこどものうたへのコード付
第 12 回	調と音階について③「長音階作成」	第 27 回	コードを用いた伴奏法⑦「C→F.」「C→G,G7」「F→G,G7」によるこどものうたへのコード付
第 13 回	前期のまとめとして、リズムアンサンブルの準備「リズム譜作成」	第 28 回	音楽理論の振り返り①　小テストを含む 楽譜の読み方、音符、休符、拍子、拍の分割形
第 14 回	前期のまとめとして、作成したリズムのアンサンブル練習	第 29 回	音楽理論の振り返り②　小テストを含む 音階、和音、コード
第 15 回	前期のまとめとして、作成したリズムのアンサンブル仕上げと演奏発表	第 30 回	コードを用いたこどものうたの演奏発表

授業に対する予習・復習	予習：　特に指示がない限り、予習をする必要はありませんが、シラバスを参考にしてテキストを読んでおくことは大切です。	復習：　授業で行ったことは課題があってもなくても、必ず復習してください。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 筆記試験（３０％）、発表（５０％）、授業態度（２０％）
教科書	『小学校教諭・幼稚園教諭・保育士をめざす　音楽の基礎』(荒井弘高　他、圭文社)
参考文献	必要に応じて資料を配布します。
注意事項	授業は積み重ねによる内容で行います。授業内で把握できなかったことはそのままにしないようにしましょう。質問を歓迎します。 授業では５線ノートを使用します。必ず準備して臨んでください。

科目名	図　画　工　作	単位数	２	担当教員	小口　偉

授業の内容	乳幼児期の造形的表現方法は、発達段階を踏まえ、適切な素材提供をすることが、活動に広がりと奥行きをもたらす。子どもの活動をもとにした活動体験をすることから、「素材、道具について」の造形的側面と、「乳幼児の表現活動について」の心身の発達における側面から、造形を通した表現について理解、関心を深める。
到達目標	保育所、幼稚園における造形表現活動の支援のための視点と方法を身につけ、子どもたちと豊かな触れ合いが出来る保育者となる基礎をつくる。 ①　子どもたちの表現活動の意義をとらえる。 ②　年齢やクラス編成ごとに変化する活動内容を理解し、適切な環境づくりをするための基礎を養う。 ③　子どもたちと活動が楽しめる技術、視点、方法を身につける。

授業計画

第１回	オリエンテーション 授業内容説明	第 16 回	表現について１「モチーフを探そう」 表現のきっかけとなる装置をつくる
第２回	素材体験１　紙について 質感で遊ぶ	第 17 回	表現について２「具体化しよう」 テーマや想い（モチーフ）を形や色に置き換える
第３回	素材体験２　紙について２ 空間を使って遊ぶ	第 18 回	表現について３「工夫しよう」 素材の扱いや形について自分なりに工夫する
第４回	素材体験３　クレヨン、パスについて	第 19 回	表現について４「発表会」 発表と鑑賞
第５回	素材体験４　粘土について	第 20 回	ポップアップカード１ 試作から仕組みを理解する
第６回	道具体験１　ハサミについて	第 21 回	ポップアップカード２ 本制作仕上げ
第７回	道具体験２　ステープラーについて	第 22 回	工作２　「まわる」をテーマとしたおもちゃ作り
第８回	テープ、のり、などの接着について	第 23 回	工作３　「風で遊ぶ」をテーマとしたおもちゃ作り
第９回	応用１　構成遊びについて１ 色画用紙での構成遊び	第 24 回	仕掛けを用いた指導教材制作１ 試作から仕組みを理解する
第 10 回	応用２　構成遊びについて２ 与えられたきっかけから画面構成１	第 25 回	仕掛けを用いた指導教材制作２ 本制作開始
第 11 回	応用３　構成遊びについて３ 与えられたきっかけから画面構成２	第 26 回	仕掛けを用いた指導教材制作３ 本制作仕上げ
第 12 回	応用４　様々な技法遊び デカルコマニー／スクラッチ	第 27 回	正月遊び カルタ、たこづくり
第 13 回	立体の扱いについて「紙立体」 合同制作と共同制作を体験する	第 28 回	紙粘土をつかって プレート制作
第 14 回	工作１　動かして遊ぶ「紙工作」	第 29 回	紙粘土をつかって プレートに着色
第 15 回	振り返り	第 30 回	まとめ 振り返り、レポート作成

授業に対する予習・復習	予習：　子どもの造形的表現に関心を向ける。身の回りの自然や造形物に関心を向ける。	復習：　授業中の制作物について振り返り、ねらいや制作手順に関することなどをノートにまとめておく。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない レポート（２０％）、課題（４０％）、授業態度（４０％）
教科書	『楽しい造形表現』（子ども造形表現研究会、圭文社）
参考文献	『保育園・幼稚園の造形あそび』（鮫島良一・馬場千晶、成美堂出版）、 『造形と子ども　子どもの造形表現ドキュメント』（加藤裕之・鮫島良一・菅原順一、すずき出版）
注意事項	出来映えは重視しません。誠実に、積極的に取り組むこと。 ※　作品制作に関わる道具、材料費は個人負担です。（年間３５００円） ※　スケッチブック、色画用紙、絵具、筆、パレット、紙粘土は上記代金の中から学校で一括購入します。

科目名	図　画　工　作	単位数	２	担当教員	市瀬　恭子

授業の内容	子どもたちの造形活動を理解し、支援するために必要な造形の基礎技能の習得を目的とする。
到達目標	１、造形活動を通して感性を磨き、創造活動への関心を深める。 ２、美しさや良さを大切にする気持ち、自発的に取り組む態度を培う。 ３、子ども一人ひとりの表現をしっかりと受け止められる保育者になるための実践力を身に着ける。

授業計画

第１回	オリエンテーション （授業の趣旨説明、自己紹介カードの作成）		第 16 回	紙工作	身近な紙から　「切り絵」
第２回	「つくる」とは	講義	第 17 回	紙工作	紙の積み木
第３回	文字とデザイン	レタリングの基礎・活用	第 18 回	紙工作しりとり絵本１	文字と絵の構成
第４回	描く表現の基礎	形のとらえ方　描画材料	第 19 回	紙工作しりとり絵本２	コラージュ
第５回	描く表現の基礎	鉛筆デッサン	第 20 回	紙工作しりとり絵本３	製本
第６回	描く表現の基礎	クレヨン画	第 21 回	季節の素材をつかって	自然物のコラージュ
第７回	いろいろな技法１	クレヨンの技法	第 22 回	季節の素材をつかって	森のアクセサリー
第８回	いろいろな技法２	絵具の技法	第 23 回	季節の素材をつかって	木のモビール
第９回	技法のまとめ	活用方法	第 24 回	ポップアップカード	しくみ
第 10 回	色彩のしくみ	色の混色・色相環	第 25 回	ポップアップカード	制作
第 11 回	色彩の輝き	絵具をつかって	第 26 回	ポップアップカード	完成　評価
第 12 回	色の世界	色を見つける･組み合わせる	第 27 回	グループ制作　壁面構成	企画　話し合い
第 13 回	かたちと向き合う	描く	第 28 回	グループ制作　壁面構成	共同制作
第 14 回	光の利用	グラシン紙を使って	第 29 回	グループ制作	完成　評価
第 15 回	光の利用	トランスペーパーを使って	第 30 回	まとめと自己評価	

授業に対する予習・復習	予習：　次回の制作道具　準備 制作のイメージを組み立てる	復習：　授業で学んだことを、再び実践しながら 自分の知識、技術として身につける

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない レポート（３０％）、作品（３０％）、授業態度（４０％）
教科書	『楽しい造形表現』（子ども造形表現研究会、圭文社）
参考文献	『幼稚園教育要領、保育指針』（チャイルド社）
注意事項	作品重視ではなく、美術が好きになれるよう、分かりやすく、楽しく、身近なものの不思議さ、おもしろさに気付くような授業を考えています。自発的に誠実に授業に取り組む態度を望みます。 ※制作に関する用具や材料費は個人負担です。 材料費　　年間　５００円 制作用具（スケッチブック、アクリル絵の具、筆、パレット）　学校で一括購入は（約２７００円）

科目名	幼　児　体　育	単位数	２	担当教員	茗井　香保里

授業の内容	人生の土台づくりにあたる幼児期に、正しい動き方を身につけたり、運動することの楽しさを味わせたりすることは、幼児の運動経験や健康生活を豊かに充実させることはもとより、これからの超高齢社会を健康に且つ高い質を保って生活するための基礎となる。それらをふまえ、本講義では、幼児の発育発達の特性と幼児の動きづくりと運動あそびの重要性を理解することを目的とする。
到達目標	・様ざまな遊具の特性を知り、それらを活用した運動遊びが実践できる ・巧技台の特性を理解し正しい動き方を身に付ける ・目的にあった運動遊びや身体表現活動を開発できる

授業計画

第１回	基本の運動	第 16 回	自分の体を知る
第２回	簡単なルールのある運動あそび	第 17 回	心と身体の解放
第３回	フープを使った運動あそび	第 18 回	「曲線」の身体表現
第４回	短縄を使った運動あそび	第 19 回	「直線」の身体表現
第５回	長縄を使った運動あそび	第 20 回	「曲線」+「直線」の身体表現
第６回	ボールを使った運動あそび	第 21 回	働く乗り物
第７回	生活用品を使った運動あそび	第 22 回	はらぺこあおむし
第８回	マットを使った運動あそび	第 23 回	ライフキャリア発達と健康
第９回	文献を使って運動遊びを調べる	第 24 回	「生涯健康」と運動遊び
第 10 回	簡単なルールのある運動あそび を創る	第 25 回	作品の創作（１） 動き
第 11 回	フープを使った運動あそびを創る 短縄を使った運動あそびを創る	第 26 回	作品の創作（２） 衣装
第 12 回	長縄を使った運動あそびを創る ボールを使った運動あそびを創る	第 27 回	作品の創作（３） 音
第 13 回	マットを使った運動あそびを創る 生活用品を使った運動あそびを創る	第 28 回	作品を演じるとは、作品を観るとは
第 14 回	「生涯健康」と運動遊び	第 29 回	作品発表会
第 15 回	まとめ	第 30 回	まとめ

授業に対する予習・復習	予習：　教科書をしっかり読むこと。また、「運動遊び」を実践し、その体験からオリジナルな「運動遊び」の創作を行うので、運動遊びに関する文献を読んでおくこと。	復習：
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない レポート（３０％）、課題（３０％）、授業態度（４０％）	
教科書	『ライフキャリア発達の視点からの生涯健康と運動あそび』（茗井香保里、推敲舎）	
参考文献	『子どもの運動・表現あそび～動きを通して育む心とからだ～』（宮下恭子他、大学図書出版）	
注意事項	出席重視。 体操着を着用のこと。フード付上着、ジーンズパンツなどは避けて下さい。 運動靴をはき、裸足、スリッパ履きでは、受講しないこと。 意欲や関心、態度の観点からプラスポイントする。	

科目名	幼　児　体　育	単位数	２	担当教員	塩崎　みづほ

授業の内容	子どもの生活は遊びが中心にあるといわれるくらい遊びによって成長し、生きていくのに必要なことを真似し学んでいきます。本講義では、子どもの発育発達の特徴を理解し、それに即した運動遊びについて学び、さらには指導法について実践的に学びます。そこでは、グループで決められた題材を用いて、ロールプレイを行います。
到達目標	①　子どもの発育発達段階に応じた運動遊びの意義とその内容を理解する ②　運動遊びの指導法について理解する ③　幼児教育者として自ら動ける身体づくりと、体力の維持・向上に努める力を習得する

授業計画

第１回	乳幼児期の運動遊びの意義	第 16 回	運動遊びの実際
第２回	鬼ごっこについて考えよう	第 17 回	とび箱を使った遊び
第３回	豆袋を使った遊び	第 18 回	ボールを使った遊び
第４回	フープを使った遊び	第 19 回	巧技台を使った遊び
第５回	縄を使った遊び	第 20 回	サーキット遊び
第６回	マットを使った遊び	第 21 回	身近なものをつかった遊び
第７回	乳幼児の運動発達の特徴	第 22 回	表現遊びの指導法
第８回	表現遊び① －リズミカルな表現遊びを体験しよう－	第 23 回	運動遊び・表現遊びの指導案を作成してみよう
第９回	表現遊び② －シンメトリーの動きを体験しよう－	第 24 回	指導の実践①表現遊び
第 10 回	表現遊び③ －群の動きを創ってみよう－	第 25 回	指導の実践②マット遊び
第 11 回	表現遊び④ －だんだんできあがりを体験しよう－	第 26 回	指導の実践③巧技台を使った遊び
第 12 回	表現遊び⑤ －小作品を創ろう－	第 27 回	指導の実践④ボールを使った遊び
第 13 回	表現遊び⑥ －小作品の踊りこみをしよう－	第 28 回	指導の実践⑤とび箱を使った遊び
第 14 回	表現遊び⑦ －発表会－	第 29 回	絵本を使った表現発表
第 15 回	発表会の振り返り 授業のまとめ	第 30 回	幼児期の運動遊びの必要性についてディスカッションしよう

授業に対する予習・復習	予習：　次回に備え教科書の該当する箇所を熟読してくる。 ストレッチ等を日々の生活に取り入れ、実践する。	復習：　本時行った活動内容をノートにまとめる。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない レポート（２０％）、課題（１０％）、作品（１０％）、発表（１０％） 実技（２０％）、授業態度（３０％）
教科書	『子どもの運動・表現遊び』（宮下恭子編、大学図書出版）
参考文献	『保育と幼児期の運動あそび』（岩崎洋子編、萌文書林）『０歳からはじめるうごきづくり』（太田昌秀他著、幻冬舎ルネサンス）『保育の中の運動あそび』（石井美晴他編、萌文書林） 『０～５歳児のたのしい運動あそび』（黒井信隆・山本秀人編著、いかだ社）
注意事項	実技の際は、学校指定の体操着を必ず着用すること 出席を重視する 意欲をもって積極的に取り組む姿勢を評価する

科目名	子どもの保健Ⅰ	単位数	4	担当教員	尾近　千鶴

授業の内容	子どもの心と身体の健康について総合的に理解できるよう学習する。 保育現場で、集団の健康と安全を考えるとともに、子ども一人ひとりの心身の状態や発達の過程を踏まえた保健的対応について学習する。
到達目標	子どもの発育・発達の特徴を知り、適切な時期に適切な対応が必要なことを理解できる。 子どもの心の健康や栄養、かかりやすい病気について知り、対処法を理解できる。 子どもをとりまく環境について知り、家族への対応や事故への対処法を理解できる。 専門機関や地域との連携について知り、子どもの育ちを多方面から支える視点をもつことを理解できる。

授業計画

第１回	保育における子どもの健康と保健の意義 子どもの心と身体の健康を保持・増進する保健活動	第 16 回	子どもの病気と保育 ①子どもの健康状態を把握するポイント
第２回	健康の概念と小児保健統計　人口動態 子どもの健康状態を評価する指標	第 17 回	子どもの病気と保育 ②子どもの健康状態の確認　体温　脈拍　呼吸
第３回	子どもの発育・発達と評価 ①身体の発育　発達曲線	第 18 回	子どもの病気と保育 ③体調のよくない子どもへの対応　園での対応
第４回	子どもの発育・発達と評価 ②生理機能　体温、呼吸、循環	第 19 回	子どもの病気と保育 ④子どものかかりやすい病気　感染症　呼吸器
第５回	子どもの発育・発達と評価 ③生理機能　排泄、睡眠	第 20 回	子どもの病気と保育 ⑤子どものかかりやすい病気　耳・鼻・のどの病気
第６回	子どもの発育・発達と評価 ④脳神経系　神経ネットワーク	第 21 回	子どもの病気と保育 ⑥子どものかかりやすい病気　皮膚・眼・泌尿器
第７回	子どもの発育・発達と評価 ⑤運動機能　反射　粗大運動　微細運動	第 22 回	子どもの病気と保育 ⑦子どものかかりやすい病気　脳・神経　循環器
第８回	子どもの発育・発達と評価 ⑥感覚機能　五感	第 23 回	子どもの病気と保育 ⑧子どものかかりやすい病気　アレルギー性疾患
第９回	子どもの発育・発達と評価 ⑦言語・情緒	第 24 回	子どもの病気と保育 ⑨子どものかかりやすい病気　その他
第 10 回	子どもの発育・発達と評価 ⑧社会性　社会的行動	第 25 回	子どもの病気と保育 ⑩健康診断　予防接種　出席停止と登園許可
第 11 回	子どもの心の健康 ①特別な配慮が必要な子ども　心身症　問題行動等	第 26 回	子どもの事故 子どもに多い事故　園で起きやすい事故　事故の対策
第 12 回	子どもの心の健康 ②特別な配慮が必要な子ども　慢性疾患　発達障害	第 27 回	保育環境と安全 環境　衛生　安全対策
第 13 回	子どもの食と栄養 ①乳汁栄養　離乳食　歯の健康	第 28 回	健やかな育ちのために　母子保健と保育 保健だより　職員の健康管理
第 14 回	子どもの食と栄養 ②幼児食　食中毒　歯の健康	第 29 回	家庭・専門機関・地域との連携 これからの子どもの保健と保育
第 15 回	前期の総まとめ・復習 1 から 14 回の目標達成の総括	第 30 回	後期の総まとめ・復習 16 から 29 回の目標達成の総括

授業に対する予習・復習	予習：　授業の前にテキストを読んでおくこと。	復習：　授業の後は習った箇所の振り返りをしておくこと。
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 筆記試験（６０％）、課題（２０％）、授業態度（２０％）	
教科書	『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健Ⅰ』（鈴木美枝子編著、創成社）	
参考文献	授業の中で適時紹介する。	
注意事項	子どもの保健に関するニュースなど情報を得ておくこと。課題として扱うことがある。	

科目名	子どもの保健Ⅰ	単位数	4	担当教員	浅野　路子

授業の内容	子どもの心身の発達・発育を促し、健康増進を支援するためには、乳幼児期の発達過程や発達課題を理解することが重要である。子どもの生理機能・運動機能・こころの仕組みの発達について学び、子どもの健康状態に応じた保育活動や支援ができるように基本的な知識について学ぶ。
到達目標	①子どもの身体的発達、こころの発達を理解し、健康的な生活を支援できる。 ②子どもが罹りやすい病気とその予防法を理解し、緊急時に適切な対応ができる。 ③子どもの安全や健康を守るために、子どもの発達・生活・健康を理解し、保育者として考える力、判断する力、支援する力を身に付ける。

授業計画

第１回	健康と保健の意義 子どもの保健の重要性を学ぶ。	第 16 回	子どもの精神保健① 精神保健の意義と子どもの心身の健康について学ぶ。
第２回	わが国の小児保育水準① 公衆衛生学的側面から保健の特徴を捉える。	第 17 回	子どもの精神保健② 子どもがかかえるこころ問題を考察する。
第３回	わが国の小児保健水準② 人口統計学的側面から保健の特徴を捉える。	第 18 回	子どもの精神保健③ 発達障害のある子どもとその対応について考察する。
第４回	母子保健 母子保健の歴史と仕組みを学ぶ。	第 19 回	子どもの精神保健④ 母親のメンタルヘルスと精神保健について捉える。
第５回	身体発育 新生児期～思春期までの身体発達の特徴を捉える。	第 20 回	子どもの生活と健康① 乳児期、1,2 歳児、3～5 歳児の生活面の成長を捉える。
第６回	身体発育の評価① 身体の発育評価の意義と評価方法を学ぶ。	第 21 回	子どもの生活と健康② 集団生活の基礎と養護と教育の一体性を学ぶ。
第７回	身体発育の評価② 身体発育に影響する要因を学び、考察する。	第 22 回	子どもの疾病① 呼吸器疾患、感染症、消化器疾患
第８回	生理機能の発達① 自律神経、体温、水分代謝と発熱	第 23 回	子どもの疾病② 泌尿・生殖器疾患、中枢神経系疾患、代謝、内分泌疾患
第９回	生理機能の発達② 循環、呼吸、心拍、血圧、消化吸収	第 24 回	子どもの疾病③ 血液・腫瘍性疾患、アレルギー、整形外科疾患、その他
第 10 回	生理機能の発達③ 排泄、睡眠、感覚器官、免疫	第 25 回	子どもの疾病と保育① SIDS、感染症対策、予防接種について学ぶ。
第 11 回	運動機能の発達① 新生児期～乳児期の運動機能の発達を学ぶ。	第 26 回	子どもの疾病と保育② 身体障害の分類と保育について学び、考察する。
第 12 回	運動機能の発達② 幼児期～学童期以降の運動機能の発達を学ぶ。	第 27 回	子どもの疾病と保育③ 保育環境整備と保育現場における衛生管理を考察する。
第 13 回	精神機能の発達① 言語発達、社会性の発達、情緒の発達を捉える。	第 28 回	事故の特徴と安全対策 事故と安全教育について学び、環境との関連を考察する。
第 14 回	精神機能の発達② 精神発達の遅れとその評価方法を学ぶ。	第 29 回	緊急時の対応 保育園での緊急時の対応とその原因を学ぶ。
第 15 回	精神機能の発達③ 精神発達に影響する要因を学び、考察する。	第 30 回	災害時の対応 命を守るための心構え危機管理能力を身に付ける。

授業に対する予習・復習	予習：　指定する箇所を読んでくること。	復習：　講義内容・配布資料などまとめ、復習すること。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 筆記試験（４０％）、レポート（１０％）、課題（２０％）、授業態度（３０％）
教科書	『よくわかる子どもの保健［第３版］』（竹内義博・大矢紀昭編、ミネルヴァ書房）
参考文献	
注意事項	講義中の携帯電話の使用および私語の厳禁

科目名	社　会　福　祉	単位数	2	担当教員	志濃原　亜美

授業の内容	この授業では、福祉専門職である保育士が学ぶべき社会福祉の基礎的な知識を習得することをねらいとする。子どもの福祉のみならず、現代社会のニーズに即したあらゆる人々のウェルビーイング（福祉）をいかに実現させるかという視点に立ち広い視野で社会福祉について学ぶ。
到達目標	・保育と社会福祉の関係がわかる。 ・わが国の社会福祉の制度が理解できる。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション（授業の概要の説明、持ち物確認、履修上の注意、自己紹介、授業を受けるに当たっての心構えについての確認等）
	第２回	保育と社会福祉（私たちが暮らす社会と保育をめぐる社会問題）
	第３回	社会福祉の概念①（社会福祉の意味、定義）
	第４回	社会福祉の概念②（社会福祉の理念、社会福祉の構造等）
	第５回	社会保障の概念と体系（我が国における社会保障の概念）
	第６回	社会保険①（社会保険制度の概要）
	第７回	社会保険②（医療保険、年金保険、介護保険、労働保険）
	第８回	公的扶助①（公的扶助の概要、公的扶助と社会保険の違い）
	第９回	公的扶助②（生活保護の原理と原則、保護施設、その他の低所得者施策）
	第 10 回	高齢者福祉　※中間レポート提出
	第 11 回	障害者福祉
	第 12 回	相談援助の意味と方法①（保育士に求められるソーシャルワーク、ソーシャルワークの意味と原則、）
	第 13 回	相談援助の意味と方法②（ソーシャルワークの視点、ソーシャルワークに貢献した人）
	第 14 回	小テスト、ＶＴＲ（生活保護）、感想文
	第 15 回	小テスト返却及びまとめ

授業に対する予習・復習				
	予習：	予習・復習シートをはじめに配布します。それに従い、毎時間次回の授業内容の予習を指示します（教科書を読んでくる、プリント穴埋め等）。	復習：	授業で習った内容の復習（シートへの記入）

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 筆記試験（４０％）、レポート（３５％）、課題（１５％）、授業態度（１０％）
教科書	『保育と社会福祉　第２版』（橋本好市・宮田徹編集、（株）みらい）
参考文献	適宜紹介する
注意事項	新聞やニュースなどを通じて社会福祉に関心を持つこと。 教員が作成したプリントを整理するためのファイルを用意しておくこと。

科目名	社　会　福　祉	単位数	2	担当教員	萬燈　章雄

授業の内容	社会の変容とニーズの動向によって、全ての社会福祉制度は日々刻々と変化し続けている。このことは保育士としての待遇面から処遇上の技術的な面に至るまで、業務に多少に関わらず影響を与える。このため福祉の実践者としての必要な幅広い社会福祉の知識を習得する。
到達目標	1　今日までの社会福祉の変遷や社会政策の動向を理解する。 2　保育士として必要な、幅広い社会福祉の基礎知識を習得する。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション～法律や条文の位置づけや読み方について学ぶ。 条約・法律・施行規則・要綱・通知・ガイドライン・条例など
	第２回	社会福祉の基礎 社会福祉と人権・男女格差・申請の原則と職権主義など
	第３回	社会福祉の歴史と変遷 貧困救済から最低生活保障へ。大規模集約型福祉から小規模個別処遇型へ。
	第４回	現在の社会問題と社会福祉 少子高齢社会、家族形態の変化、子どもの貧困など。
	第５回	社会福祉の仕組みと運営 社会福祉の法体系・措置制度・契約制度・社会福祉法人など
	第６回	社会福祉援助技術① 援助原理について。ソーシャルワークの手法、種類など。
	第７回	社会福祉援助技術② ケースワーク・グループワーク。介入的アプローチと受容的アプローチ。
	第８回	中間のまとめ
	第９回	社会保障制度・公的扶助 主に医療保険制度と生活保護について学習する。
	第 10 回	精神障害者福祉制度の変遷。 「疾病」と「障害」の狭間で。アディクションについて。
	第 11 回	障害者福祉の変遷 コロニー思想からノーマライゼーションへ　障害者総合支援法について
	第 12 回	女性への福祉的支援 DV 相談とその支援。婦人相談センター、母子支援施設について。
	第 13 回	高齢者福祉の概要 主に介護保険制度と公的年金制度について学習する。
	第 14 回	人口減と地域格差
	第 15 回	まとめと復習チェック

授業に対する予習・復習			
	予習：	ニュースなど福祉に関する社会問題について日頃から関心を持って情報収集してください。	復習：　配付した資料によく目を通しておくこと。不明な点があれば次の授業以降で構わないので質問してください。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 筆記試験（４０％）、レポート（３０％）、授業態度（３０％） まとめのところでレポートと理解度テストを実施します。
教科書	プリントを配布します。
参考文献	必要に応じ適宜紹介します。
注意事項	学習範囲が幅広く、事例など交えてできるだけわかりやすく説明したいと思いますが、理解が難しいところもあるかと思いますので、不明な点は遠慮なく質問してください。福祉全般に関心を持つとともに授業マナーを守り積極的な受講を期待します。

科目名	児童家庭福祉	単位数	2	担当教員	志濃原　亜美

授業の内容	児童家庭福祉の歴史的変遷と現代社会における児童家庭福祉の意義を理解する。そのうえで、児童家庭福祉の制度や実施体系など具体的なことを学ぶ。 また、少子化・母子保健・児童虐待・社会的養護・障害のある児童の対応などをはじめとする児童家庭福祉の現状と課題について理解し、特に児童家庭福祉と保育の関連性や児童の権利擁護などについて理解を深める。
到達目標	・児童に関する法や施設など基本的なことが理解できる。 ・児童をとりまく問題についての理解を深めたうえで、それらの早期発見の方法や解決への道筋を知ることができる。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション（授業の概要の説明、持ち物確認、履修上の注意、自己紹介、授業を受けるに当たっての心構えについての確認等）
	第２回	児童家庭福祉に関する法律①（児童福祉法の概要）
	第３回	児童家庭福祉に関する法律②（児童福祉法の具体的内容）
	第４回	児童に関する権利思想の流れ
	第５回	児童家庭福祉の歴史①（明治期）
	第６回	児童家庭福祉の歴史②（明治期から戦前）
	第７回	ＶＴＲ（澤田美喜物語・・・福祉施設創設者の物語）課題感想文
	第８回	児童家庭福祉専門職としての保育士
	第９回	児童福祉施設及び里親の概要①（施設の種類）
	第 10 回	児童福祉施設及び里親の概要②（施設の目的）　※中間レポート提出
	第 11 回	児童家庭福祉の行政機関（児童相談所を中心に）
	第 12 回	児童虐待①（児童虐待の種類、法制度）
	第 13 回	児童虐待②（児童虐待の実際）
	第 14 回	小テスト、ＶＴＲ（子どもの貧困）、感想文
	第 15 回	小テスト返却及びまとめ（これからの児童家庭福祉）

授業に対する予習・復習		
	予習：　予習・復習シートをはじめに配布します。それに従い、毎時間次回の授業内容の予習を指示します（教科書を読んでくる、プリント穴埋め等）。	復習：　授業で習った内容の復習（シートへの記入）

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 筆記試験（４０％）、レポート（３５％）、課題（１５％）、授業態度（１０％）
教科書	『新　保育ライブラリ　児童家庭福祉』（植木信一編著、北大路書房）
参考文献	『最新保育資料集 2015』（ミネルヴァ書房）
注意事項	普段から新聞・ニュースその他のメディアを通して児童家庭福祉の問題や課題について関心をもつこと。 教員が作成したプリントを整理するためのファイルを用意しておくこと。

科目名	児　童　家　庭　福　祉	単位数	2	担当教員	萬燈　章雄

授業の内容	子どもを取り巻く環境の変遷と現在の児童家庭福祉について、幅広い観点から学習していく。保育士として必要な児童家庭福祉全般にわたる知識の習得を目指す。特に地域での子育て支援や保育士の役割などを時に事例を交えながら重点的に学んでいく。
到達目標	1　児童家庭福祉の歴史と現状や課題について理解する。 2　地域での保育士としての役割について理解する。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション～「子育て観」について 子どもの視点に立った支援者であることの意味
	第２回	児童家庭福祉の歴史① 主にイギリスと日本の児童福祉。児童福祉法成立まで
	第３回	児童家庭福祉の歴史② 戦後の日本の家庭児童福祉の変遷
	第４回	子育てを取り巻く状況 少子化・育てにくい子・子どもの貧困・児童虐待など
	第５回	子どもの権利保障 児童の権利に関する条約・子どもの権利ノート・スマイルネットなど
	第６回	親権について 親権とは何か　養子縁組とは何か
	第７回	子ども家庭福祉支える制度と仕組み 子ども家庭福祉サービスの概要
	第８回	中間のまとめ
	第９回	児童相談所と児童福祉施設 児童相談所の機能と仕組み及び児童福祉施設について
	第 10 回	子どもと家庭のためのサービスについて 児童家庭支援センター・ファミリーサポート・保健・保育のサービスなど
	第 11 回	保育所・幼稚園・認定こども園について 対象・施設・職員・認可外保育など
	第 12 回	児童虐待の構造と地域での支援について 虐待予防と早期発見・早期支援
	第 13 回	障害のある子どもとその支援について 知的障害や発達障害など
	第 14 回	地域での養育と子育て支援　計画的な推進のあり方について 保育所と保育士不足について考える
	第 15 回	まとめと復習チェック

授業に対する予習・復習		
予習：	ニュース等において特に児童に関わる社会問題が取り上げられた際は日頃から関心を持って目を通しておいてください。	復習：　配付した資料によく目を通しておくこと。不明な点があれば次の授業以降で構わないので質問してください。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 筆記試験（４０％）、レポート（３０％）、授業態度（３０％） まとめのところでレポートと理解度テストを実施します。
教科書	『よくわかる子ども家庭福祉　第９版』（山縣文治編、ミネルヴァ書房） その他、必要に応じプリントを配布します。
参考文献	必要に応じ適宜紹介します。
注意事項	学習する範囲が広く、事例など交えてできるだけわかりやすく説明したいと思いますが、理解が難しいところもあるかと思いますので、不明な点は遠慮なく質問してください。保育士として必ず必要となる知識・情報が含まれていますので、常に問題意識を持って授業マナーを守り積極的な受講を期待します。

科目名	音　楽（1）　ピ　ア　ノ	単位数	2	担当教員	鹿戸　一範　他

授業の内容

この授業では、保育現場で求められているピアノの演奏技術、その習得のために必要な音楽の基礎的な知識（楽典）、歌唱・伴奏法を学ぶ。各ピアノ担当につき６名前後のグループに分かれ、その半数が個別の実技指導を受ける。それ以外の半数はクラス授業でピアノ演奏に必要となる楽典やソルフェージュおよび保育現場で使用されているこどものうたについて学び、45 分で交代する。

到達目標

・基礎的な練習曲等を学習することで、保育現場で求められるピアノ演奏技術を習得することができる。
・実習や保育現場での実践に対応できるよう、こどものうたの弾き歌いができる。
・保育の中の音楽に必要な楽典やソルフェージュへの理解の深めることによって、楽譜の読み書きができ、自らの力でピアノで演奏することができる。

授業計画

第１回	オリエンテーション〔授業内容、進め方について〕	第 16 回	臨時記号と半音階 季節のうた（春）弾き歌い①　教本　No.68~69
第２回	ハ長調の和音・分散和音の伴奏形① 教本　No. 1~ 8	第 17 回	16 分音符を用いたリズム 季節のうた（春）弾き歌い②　教本　No.70~72
第３回	分散和音の伴奏形②・③ 教本　No. 9~16	第 18 回	イ短調の主要三和音 季節のうた（春）弾き歌い③　教本　No.73~76
第４回	分散和音の伴奏形④ ４分音符と８分音符　教本　No.17~24	第 19 回	6 度・3 度の重音 季節のうた（夏）弾き歌い①　教本　No.77~78
第５回	ハ長調の下属和音 教本　No.25~26	第 20 回	3 連符 季節のうた（夏）弾き歌い②　教本　No.79~80
第６回	へ長調の主和音・下属和音・属和音 教本　No.27~32	第 21 回	へ長調よりハ長調への転調 季節のうた（夏）弾き歌い③　教本　No.81
第７回	ト長調の主和音・下属和音・属和音 教本　No.33~38	第 22 回	3 度の重音と 8 度の跳躍 季節のうた（秋）弾き歌い①　教本　No.82
第８回	いろいろな伴奏形①・②・③・④ 教本　No.39~42	第 23 回	弱起の曲 季節のうた（秋）弾き歌い②　教本　No. 83~84
第９回	高い音の練習 教本　No.43~46	第 24 回	ニ長調とニ短調の主要三和音 季節のうた（秋）弾き歌い③　教本　No. 85~86
第 10 回	3/8 拍子と 6/8 拍子 生活のうたの弾き歌い①　教本　No.47~48	第 25 回	装飾音 季節のうた（冬）弾き歌い①　教本　No. 87~90
第 11 回	付点 4 分音符を用いたリズム 生活のうたの弾き歌い②　教本　No.49~54	第 26 回	複付点音符 季節のうた（冬）弾き歌い②　教本　No.91
第 12 回	ハ長調の音階 生活のうたの弾き歌い③　教本　No.55~58	第 27 回	季節のうた（冬）弾き歌い③　教本　No.92~94
第 13 回	へ長調の音階 生活のうたの弾き歌い④　教本　No.59~61	第 28 回	マーチ、その他① 教本　No. 95~ 98
第 14 回	ト長調の音階 生活のうたの弾き歌い⑤　教本　No.62~67	第 29 回	マーチ、その他② 教本　No. 99~102
第 15 回	これまでの授業のまとめと発表	第 30 回	マーチ、その他③ 教本　No.103~107

授業に対する予習・復習

予習：　限られた個人レッスンの時間を有効に活用できるよう、与えられた課題を中心に十分に練習をしたうえで受講する。

復習：

成績評価の方法

試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない

発表（２０％）、実技（５０％）、授業態度（３０％）

教科書

『教職課程のための大学ピアノ教本』（大学音楽教育研究グループ、教育芸術社）
『簡易伴奏による　実用　こどものうた』（田口雅夫・高崎和子共編、カワイ出版）

参考文献

注意事項

科目名	音　楽（2）　ピ　ア　ノ	単位数	2	担当教員	鹿戸　一範　他

授業の内容	音楽（1）で学んだ内容をもとに、教育実習や保育所実習、採用試験で重要視されるこどもの歌の弾き歌いを重点的に学ぶ。各クラスを担当する約４名の教員より指導を受ける。
到達目標	・音楽（1）で身につけた知識、演奏技術を更に深めることができる。 ・教育実習や保育現場での実践に対応できるよう、より多くのこどものうたの弾き歌いができる。 ・コードネームを用いた楽譜から、簡単な伴奏付けをすることができる。

授業計画

第１回	オリエンテーション	第 16 回	季節のうた　9 月① 「とんぼのめがね」「つき」他
第２回	園生活のうた　弾き歌い① 「おはよう」「おはようのうた」他	第 17 回	季節のうた　9 月② 「きらきら星」「どんぐりころころ」他
第３回	園生活のうた　弾き歌い② 「おべんとう」「おかえりのうた」他	第 18 回	季節のうた　10 月① 「やきいもグーチーパー」「きのこ」他
第４回	園生活のうた　弾き歌い③ 「さよならのうた」他	第 19 回	季節のうた　10 月② 「小さい秋みつけた」「まつぼっくり」他
第５回	季節のうた　4 月①　他 「あくしゅでこんにちは」「せんせいとおともだち」	第 20 回	季節のうた　11 月① 「大きなくりの木の下で」「まっかな秋」他
第６回	季節のうた　4 月② 「チューリップ」「ちょうちょう」「めだかの学校」他	第 21 回	季節のうた　11 月② 「夕やけこやけ」「たきび」他
第７回	季節のうた　5 月① 「手をたたきましょう」「こいのぼり」他	第 22 回	季節のうた　12 月① 「あわてんぼうのサンタクロース」他
第８回	季節のうた　5 月② 「ぶんぶんぶん」「むすんでひらいて」他	第 23 回	季節のうた　12 月② 「ジングルベル」他
第９回	季節のうた　6 月① 「あめふりくまのこ」「あまだれぽったん」他	第 24 回	季節のうた　1 月① 「お正月」「雪」他
第 10 回	季節のうた　6 月② 「とけいのうた」「すてきなパパ」他	第 25 回	季節のうた　1 月② 「雪のこぼうず」「雪のぺんきやさん」他
第 11 回	季節のうた　7・8 月① 「たなばたさま」「うみ」他	第 26 回	季節のうた　2 月① 「まめまき」「」他
第 12 回	季節のうた　7・8 月② 「おばけなんてないさ」「シャボン玉」他	第 27 回	季節のうた　2 月② 「春がきた」「どこかで春が」他
第 13 回	あそびのうた① 「グーチョキパーでなにつくろう」他	第 28 回	季節のうた　3 月① 「うれしいひなまつり」「思い出のアルバム」他
第 14 回	あそびのうた② 「とんとんとんとんひげじいさん」他	第 29 回	季節のうた　3 月② 「さよならぼくたちのほいくえん」「一年生になったら」
第 15 回	あそびのうた③ 「むすんでひらいて」「こぶたぬきつねこ」他	第 30 回	コードネームを用いた伴奏づけ

授業に対する予習・復習	予習：　毎日の練習を積み重ねることが上達の重要なポイントとなるため、授業に向けて各自２～３曲を選択し練習しておく。	復習：

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 発表（３０％）　実技（４０％）、授業態度（３０％）
教科書	『簡易伴奏による　実用　こどものうた』（田口雅夫・高崎和子共編、カワイ出版） ・必要に応じてプリントを配布する。
参考文献	
注意事項	

科目名	国　語　教　育	単位数	2	担当教員	柳井　まどか

授業の内容	この授業では、将来保育者として国語教育に携わる上で必要な「読解力」や「文章表現力」、「話す力・聞く力」を育成する。 具体的には、社会生活で使われている様々な言語表現について考え、言葉の規範を知り、適切で的確な表現法について学習する。敬語の使い方、手紙の書き方等の基本ルールを確認した後、論理的思考力・表現力をレポートの書き方を通して習得する。さらに、保育現場で必要となるコミュニケーション能力を、グループディスカッション等を通して向上させていく。
到達目標	1. 敬語の使い方、手紙の書き方等に関する知識を理解し、実践的な活用ができる。 2. 与えられた文章を正確に読み取り、短時間で的確に要約できる。 3. 段落の役割を理解し、構成を立て、論理的な文章を作成することができる。 4. 話し合いの場で、論理的かつ簡潔に自分の意見を述べ、他の参加者と協力して議論を進めることができる。

授業計画		
	第１回	言葉とコミュニケーション：　保育者として必要なコミュニケーション能力とは何か
	第２回	敬語の種類と使い方①：　敬語の基本ルール
	第３回	敬語の種類と使い方②：　敬語の応用編　―ビジネス敬語―
	第４回	書簡文の書き方①：　書簡文の基本ルール
	第５回	書簡文の書き方②：　書簡文演習
	第６回	論理的文章の書き方①：　論理的文章の構造を理解する
	第７回	論理的文章の書き方②：　文章の的確な要約
	第８回	論理的文章の書き方③：　構成の立て方と段落の役割
	第９回	論理的文章の書き方④：　レポートの書き方
	第 10 回	推敲の仕方と相互批評　：日本語の正しい使い方
	第 11 回	口頭表現：　口頭表現と文章表現の違い、言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの特徴
	第 12 回	ディスカッション①：　様々なディスカッションの目的と方法、意見と根拠の述べ方
	第 13 回	ディスカッション②：　自由討論方式
	第 14 回	ディスカッション③：　インバスケット方式
	第 15 回	国語教育まとめ：　幼児に対する国語教育

授業に対する予習・復習		
	予習：　具体的な予習課題については、授業時に指示する。	復習：　授業で学んだ内容を確認し、提出課題に取り組むこと。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない レポート（５０％）、課題（３０％）、授業態度及びディスカッション等での貢献度（２０％）
教科書	必要に応じてプリントを配布する。
参考文献	必要に応じて授業中に紹介する。
注意事項	語彙力・漢字力向上のため、毎回小テストを実施するが、間違えた箇所を必ず確認すること。

科目名	数　量　教　育	単位数	2	担当教員	中村　陽一

授業の内容	幼児の数に対する感覚は、日常生活の体験を通じて培われる。そのため、幼児が生活体験の中から、自然に数に対する興味や関心・感覚が身につくような環境構成と援助が必要である。本講では、そのための保育者の役割について考える。また、小学校算数科の概要と、幼児教育との連続性についても学ぶ。
到達目標	１．幼児がどのように数を知り、興味や関心を持つかを理解している。 ２．幼児が数的感覚を身につけるための適切な環境設定について、自分の考えを述べることができる。 ３．小学校算数科の概要を学び、幼児教育との学び連続性を理解している。

授業計画		
	第１回	保育内容と数量教育－「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」における数量教育の位置づけ
	第２回	子どもと数量環境－「幼稚園教育要領」に示されている数量と図形の取り扱い
	第３回	子どもと数量理解①－子どもは数をどのように覚えるか
	第４回	子どもと数量理解②－子どもが生活で出会う数と種類
	第５回	子どもの生活と遊びのなかの数①－3 歳児の事例
	第６回	子どもの生活と遊びのなかの数②－4 歳児の事例
	第７回	子どもの生活と遊びのなかの数③－5 歳児の事例
	第８回	小学校算数科の目標と内容①－第 1 学年
	第９回	小学校算数科の目標と内容②－第 2 学年
	第 10 回	小学校算数科の目標と内容③－第 3 学年
	第 11 回	小学校算数科の目標と内容④－第 4 学年
	第 12 回	小学校算数科の目標と内容⑤－第 5 学年
	第 13 回	小学校算数科の目標と内容⑥－第 6 学年
	第 14 回	子どもの学びの連続性-幼児の数量教育と小学校算数科教育の連続性について
	第 15 回	授業の振り返りとまとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：　授業の終わりに次回の内容と予習の方法について伝える。	復習：　授業中に示す重要事項を中心に復習すること。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 課題（７０％）、授業態度（３０％）
教科書	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針（原本）』(内閣府・文部科学省・厚生労働省、チャイルド本社) 『幼稚園教育要領解説』(文部科学省、フレーベル館) 『小学校学習指導要領』(文部科学省、東京書籍)
参考文献	必要に応じて紹介する。
注意事項	保育者としての自覚と問題意識を持って授業に臨むこと。

科目名	数　量　教　育	単位数	2	担当教員	星野　治

授業の内容	この授業では、身の回りのあらゆる事象を「数」・「量」・「形」の観点から見つめ直すことを通して、「数」・「量」・「形」の意味するものや、「数」・「量」・「形」の取り扱われかたを考察する。
到達目標	・私たちの社会が「数」・「量」・「形」を抜きにしては、成り立たないことを確認できる。 ・幼少時から慣れ親しんできた「数」・「量」・「形」が、私たち自身の社会感覚の形成過程に際して重要な鍵の一つであることを、各人なりに理解できる。 ・幼児の将来の学校活動（例：算数授業への参加など）や社会活動（例：買い物など）に無理なく結び付けられるような、数量教育指導のありかたを考えることができる。

授業計画		
	第１回	数の面白さ・不思議さ “数”のもつ魅力を概観する。
	第２回	言葉としての数 “数”が言葉の一種であることを確認する。
	第３回	数の種類 実際に使われている、いろいろな“数”を概観する。
	第４回	数量と図形との関係 “かず”と“かたち”との対応を概観する。
	第５回	生活の中の数・量・形 日常の諸活動の中に登場する“数”を概観する。
	第６回	遊びの中の数・量・形① いろいろな遊びの中に垣間見られる“数”を概観する。
	第７回	数・量に関する先人の知恵① 実用されている様々な“単位”の意味を概観する。
	第８回	数・量に関する先人の知恵② これまでに考案されてきた、実用的な数値処理手法について概観する。
	第９回	文芸作品の中の数・量・形① “数”の観点から、往年の名作（主に文章作品）を鑑賞し直す。
	第 10 回	文芸作品の中の数・量・形② “数”の観点から、往年の名作（主に映画作品）を鑑賞し直す。
	第 11 回	小・中学校の算数・数学① 文部科学省の学習指導要領のうち、小学校の算数に関する内容を概観する。
	第 12 回	小・中学校の算数・数学② 文部科学省の学習指導要領のうち、中学校の数学に関する内容を概観する。
	第 13 回	遊びの中の数・量・形② 数遊びそのものを通して、“数”の面白さを概観する。
	第 14 回	幼児教育における数・量・形 未就学児にとって必要な“数”とは何かを見直す。
	第 15 回	全体のまとめ 「数」・「量」・「形」に対する教育のありかたを、各自なりに整理する。

授業に対する予習・復習		
	予習：　予習が必要とされる事項については、担当教員が指示する。	復習：　復習が必要とされる事項については、担当教員が指示する。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 筆記試験（７０％）、授業態度（３０％）
教科書	必要に応じて随時指定する。
参考文献	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（内閣府・文部科学省・厚生労働省）、『幼稚園教育要領』（文部科学省）、『小学校学習指導要領』（文部科学省）、『中学校学習指導要領』（文部科学省）、その他必要に応じて随時紹介する。
注意事項	・授業は講義形式であるが、解題一辺倒だけではなく、算数（・数学）に関する話題や文芸作品についても取り扱う。 ・小学校レベルの算数問題は、一見単純そうであるが、いざ解こうとすると案外手こずることが多い。決して油断しないこと。 ・他の授業で使用する教科書や参考文献を、この授業でも使用する場合がある。 ・この授業で取り扱う話題（問題）は、いわゆる算数・数学の問題とは異なり、解答が一つだけであるとは限らない。また、個々の話題の内容を理解するには、幅広い背景知識が求められる。“自分自身ならばこう考える”という能動的な態度で、授業に参加してほしい。

科目名	子どもの食と栄養	単位数	2	担当教員	平山素子・堀美稚

授業の内容	子どもを取り巻く食環境を把握し、胎児期から思春期の発育発達と栄養・食事との関係を理解する。子ども一人ひとりの心理状態や食事の摂取状況を観察し、適切な食事の提供と介助、さらには食生活のあり方について援助できる力を身につけることを目的とする。
到達目標	子どもの発育・発達と食生活・栄養について理解することができる 月年齢に見合った適切な食事提供と介助を行う力を身につけることができる 自分自身の望ましい食生活の構築に取り組むことができる

授業計画

第１回	オリエンテーション、調理室の使い方	第 16 回	調理実習・・・離乳期④
第２回	子どもの発育・発達と栄養	第 17 回	保育現場における食事を考える
第３回	授乳期の栄養①　母乳栄養	第 18 回	幼児期の栄養①成長と食事・栄養について
第４回	授乳期の栄養②　人工栄養	第 19 回	幼児期の栄養②保育士・保護者の悩みを通して考える
第５回	調理実習・・・授乳期①	第 20 回	児童福祉施設の食事と栄養
第６回	調理実習・・・授乳期②	第 21 回	調理実習・・・幼児食（弁当）①
第７回	離乳の必要性について	第 22 回	調理実習・・・幼児食（弁当）②
第８回	離乳期の栄養①（5,6 か月頃）	第 23 回	体調不良時の食事と栄養
第９回	離乳期の栄養②（7,8 か月頃）	第 24 回	障害児の食事と栄養
第 10 回	食物アレルギーについて	第 25 回	調理実習・・・幼児食（行事食）①
第 11 回	調理実習・・・離乳期①	第 26 回	調理実習・・・幼児食（行事食）②
第 12 回	調理実習・・・離乳期②	第 27 回	学童期の食事と栄養
第 13 回	離乳期の栄養③（9~11 か月頃）	第 28 回	妊娠・授乳期の食事と栄養
第 14 回	離乳期の栄養④（12~18 か月頃）	第 29 回	食事のマナー・箸の使い方等について
第 15 回	調理実習・・・離乳期③	第 30 回	食べることの意義と栄養・食品の知識

授業に対する予習・復習	予習：　教科書に目を通す	復習：　調理実習毎に以下をレポート作成し提出する ・調理実習の結果・考察をまとめる ・講義内容をまとめる ・テーマについて調べる
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない レポート（６０％）、授業態度（４０％）	
教科書	『子どもの食と栄養』（岡﨑光子 編、光生館）	
参考文献	『新版 子どもの食生活-栄養・食育・保育-』（上田玲子 編、ななみ書房）	
注意事項	授業を通して、自分自身の望ましい食生活の構築にも取り組んで欲しい。	

科目名	食　教　育　論	単位数	2	担当教員	平山　素子

授業の内容	保育園、幼稚園において積極的に食教育を行うことが求められている。食の営みは生きる力であり、子ども達の食生活を健康的に演出できるかどうかは、大人の意識にかかっている。 子ども達に基本的な食知識を伝え、様々な体験保育を行うための技術を身につけることを目的とする。 加えて、保護者へのアプローチの方法を学ぶ。
到達目標	子どもを取り巻く食を含めた生活環境を把握できる。 子どもに、食の知識を伝える技術、実践するための技能を獲得する。 保護者に食の重要性を伝え、実践を促すことができる。

授業計画		
	第１回	食教育の目的と必要性
	第２回	食教育の方法
	第３回	小児期の食をめぐる問題を考える　1. 食物アレルギー
	第４回	2. 欠食
	第５回	3. 孤食
	第６回	4. 食習慣
	第７回	5. 歯磨きとむし歯
	第８回	6. 咀しゃく
	第９回	子どもの発達に即した食教育を考える　1. 食のマナー
	第 10 回	2. 食と栄養の知識
	第 11 回	3. 偏食
	第 12 回	4. 調理保育
	第 13 回	保護者への啓発の方法
	第 14 回	媒体作成－給食便り
	第 15 回	工場見学 または 調理実習

授業に対する予習・復習		
	予習：　前もって授業内容を予告するので、テーマについて調べ、自分の考えをまとめておく	復習：　課題（給食便り作成）に向けて、授業内容について考察し、資料を集める

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 課題（６０％）、授業態度（４０％）
教科書	
参考文献	『子どもの食事』（根岸宏邦著、中央公論新社）
注意事項	授業の中で随時ディスカッションを行うので、積極的に参加して欲しい。

科目名	子どもの保健Ⅱ	単位数	1	担当教員	尾近　千鶴

授業の内容	「子どもの保健Ⅰ」では、子どもの心と身体の健康を保持・増進するための理論を学んだ。「子どもの保健Ⅱ」では、その知識を活かして実践できるように演習を行い、技術の習得を目指す。また、子育ての実際を見る機会の少なくなった保護者に対し、保健的な助言や精神的なサポートを行えるような知識や能力を身につけることを目指す。
到達目標	子どもの心と身体の健康を保持・増進するための知識を、演習を通して、実践の場で生かせる能力や技術を身につけることができる。 保護者へのサポートを行えるような能力を身につけることができる。

授業計画		
	第１回	子どもの保健に関する演習について、演習を行う際の心構え、 子どもの養護と教育①だっこ・おんぶ・寝かせ方
	第２回	子どもの発育・発達の観察と評価①　計測方法
	第３回	子どもの発育・発達の観察と評価②　発育・発達の評価 健康観察　バイタルサイン測定
	第４回	子どもの発育・発達の観察と評価③　発育・発達の評価 バイタルサイン測定　健康診断
	第５回	子どもの養護と教育②　おむつ
	第６回	子どもの養護と教育③　衣類の着脱　身体の清潔
	第７回	子どもの養護と教育④　調乳と授乳　離乳食
	第８回	子どもの養護と教育⑤　手洗い・うがい　歯磨き 生活習慣への援助と教育
	第９回	子どもの体調不良などへの対応① 主な症状への対応　感染症対策
	第 10 回	子どもの体調不良などへの対応② 主な症状への対応　与薬
	第 11 回	子どもの体調不良などへの対応③ 主な症状への対応　アレルギー　与薬
	第 12 回	個別の配慮を必要とする子どもへの対応 身体疾患　発達障害　知的障害　虐待
	第 13 回	保育における応急手当 応急手当　医療機関
	第 14 回	望ましい保育環境と安全対策 安全管理　防災対策
	第 15 回	子どもの心とからだの健康づくり　保健活動 保護者への健康教育と支援

授業に対する予習・復習		
	予習：　授業の前後にテキストを読んでおくこと。	復習：　授業の後は習った箇所の振り返りをしておくこと。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 筆記試験（３０％）、課題（４０％）、実技（２０％）、授業態度（１０％）
教科書	『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健Ⅱ』（鈴木美枝子編著、創成社）
参考文献	授業の中で適時紹介する。
注意事項	演習には原則として前回出席すること。 提示された教材を持参すること。 グループ演習では、協力し合うこと。

科目名	子　ど　も　の　保　健　Ⅱ	単位数	1	担当教員	山口　さとみ

授業の内容	保育において子どもの健康と安全を守り支援していくことは大切な役割である。身体的な発育や運動機能や精神機能の発達がめざましく成長する過程において、保育者としての保健活動や保護者への支援のための知識を学ぶ。さらに、健康上の配慮を必要とする子どもへの対応や事故・救急時の対応について学ぶ
到達目標	1）保健活動に必要な知識を理解できる 2）演習を通して保育者に必要な実践能力を身につける 3）体調不良や個別的な配慮を必要とする子どもへの対応、また、救急時の対応について理解できる

授業計画		
	第１回	オリエンテーション　演習についての注意事項　子どもの発育・発達の観察と評価①　（発育・発達）
	第２回	子どもの発育・発達の観察と評価②　（身体計測演習）
	第３回	子どもの健康観察と健康管理　（バイタルサインの測定　評価方法）
	第４回	子どもの養護と教育①　（抱っこ　おんぶ　排泄）
	第５回	子どもの養護と教育②　（清潔）
	第６回	子どもの養護と教育③　（沐浴・衣類の着脱・おむつ交換演習）
	第７回	子どもの養護と教育④　（栄養）
	第８回	子どもの生活習慣　（睡眠　生活リズムの形成）
	第９回	体調不良の子どもへの対応①　（発熱　下痢　嘔吐　咳　発疹　腹痛）
	第 10 回	体調不良の子どもへの対応②　（けいれん　脱水　頭痛　鼻汁・鼻閉など）
	第 11 回	体調不良の子どもへの対応③　（感染性疾患　など　園における薬の取り扱い）
	第 12 回	個別な配慮を必要とする子どもへの対応　（アレルギー疾患　喘息　アトピー性皮膚炎など）
	第 13 回	子どもの心と体の健康づくりのために　（保健活動計画　演習）
	第 14 回	望ましい保育環境と安全対策　（衛生管理　安全管理）
	第 15 回	保育における応急手当　（出血　やけど　骨折など）

授業に対する予習・復習		
	予習：　授業計画を参考に教科書で内容を確認する	復習：　授業・演習で習得した知識を確認する

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 筆記試験（５０％）、課題（２５％）、実技（１０％）、授業態度（１５％）
教科書	『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健Ⅱ』（鈴木美枝子　編著、創成社）
参考文献	必要時資料配布
注意事項	・筆記用具、掲示された教材は忘れずに持参すること ・グループ演習は、メンバー同士協力し全員が積極的に演習に取り組むこと ・授業中の私語、飲食、携帯電話は禁止

科目名	家　庭　支　援　論	単位数	2	担当教員	北澤　明子

授業の内容	家族、家庭のあり方が変化し、多様化した現在、保育者は家庭や地域と連携しながら、子育てを支援していくことが求められている。本講では、子育てにおける「家庭支援」の背景や目的、方法について学ぶとともに家族、家庭のあり方や保育者として必要な家庭支援について考えていく。
到達目標	①　家族の意義とその機能について説明することができる。 ②　現在の子育て家庭を取り巻く環境について説明することができる。 ③　子育て支援の法的根拠や支援政策について説明することができる。 ④　子育て支援の実際について学び、説明することができる。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション－授業の進め方・参考文献の紹介等－
	第２回	家庭の意義と機能
	第３回	家族・家庭・子育ての歴史や文化・変遷について―国や文化による違い―
	第４回	家族・家庭・子育ての歴史や文化・変遷について―我が国の家族や子育ての歴史―
	第５回	現在の家庭を取り巻く状況①－図や表を読み取る―
	第６回	現在の家庭を取り巻く状況②－読み取りから考える―
	第７回	子育て家庭支援の必要性
	第８回	現在の子どもを取り巻く状況
	第９回	子育て支援の法的根拠
	第 10 回	我が国の子育て支援・政策
	第 11 回	子育て支援の実際①－保育所・幼稚園における子育て支援の取組－
	第 12 回	子育て支援の実際②－地域における子育て支援の取組－
	第 13 回	子育て支援の実際③－民間機関による支援の取組　他－
	第 14 回	保育の場における具体的な事例紹介
	第 15 回	まとめ－子どもを産むこと・育てるということについて考える－

授業に対する予習・復習		
	予習：　出された課題は授業の予習・復習をかねるので真摯に取り組んでください。	復習：　授業で配布された資料を整理し、前回の授業内容を復習すること。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない レポート（８０％）、授業態度（２０％）
教科書	適宜必要な資料を配布します。
参考文献	『子ども・子育て白書』（内閣府） 『子どもを知る　家庭支援論【新版】』（小田豊　他編、北大路書房）
注意事項	・配布された資料はファイリングして（Ａ４ファイルは各自用意すること。）毎回授業に持参してください。前の授業で配布したものを使う場合もあるため忘れることのないようにしてください。

科目名	相　談　援　助	単位数	1	担当教員	小室　泰治

授業の内容	相談援助において必要な方法や技術を学び、援助者としての自己への理解を深め、保育現場において相談援助の理論や方法を活用できる技術を身につけることをねらいとし、具体的展開について演習を交えながら解説する。
到達目標	1　相談援助の意義、機能、対象を説明することができる。 2　相談援助の方法、技術を説明することができる。 3　地域にある社会資源や活用を説明することができる。

授業計画		
	第１回	相談援助とは何かについて学ぶ 保育実践の中でなぜ相談援助が必要になったのかを理解する
	第２回	相談援助の理論と歴史的変遷 相談援助の定義と理論を理解する
	第３回	相談援助の基本的枠組み 相談援助には、直接援助技術、間接援助技術があることを理解する
	第４回	相談援助の理念と価値 バイステックの援助関係を成立させるための７つの原則を学ぶ
	第５回	相談援助の展開過程 面接の開始から問題解決の終結までの過程を学ぶ
	第６回	相談援助を行う上での倫理 専門職としての倫理綱領を学ぶ
	第７回	保育現場における直接援助技術の実際 保育現場での面接やグループワークの方法について事例をとおして修得する
	第８回	保育所におけるコミュニティ―ワーク 地域に根ざした保育所のあり方を探求する
	第９回	地域にある社会資源 事例をとおして地域にある社会資源の活用について学ぶ
	第 10 回	事例研究 育児不安とストレスに関する相談事例を通して、傾聴や受容の仕方を学ぶ
	第 11 回	事例研究 母子関係と母親の自立に関する相談事例を通して、傾聴や受容の仕方を学ぶ
	第 12 回	事例研究 母子分離不安に関する相談事例を通して、傾聴や受容の仕方を学ぶ
	第 13 回	自己覚知とスーパービジョン 援助者の自己覚知を育てるための方法としてのスーパービジョンを学ぶ
	第 14 回	保育の場面とソーシャルワーク活用の可能性 日々の保育実践の“意識”的な積み重ねであることを学ぶ
	第 15 回	相談援助における課題 まとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：　日ごろからニュースや新聞報道に目をとおし、子育ての悩みや地域の課題について考えておくこと。	復習：

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 筆記試験（５０％）、発表（４０％）、　授業態度（１０％）
教科書	『子どもたちの生活を支える相談援助』（小野澤昇・田中利則・大塚良一編著、ミネルヴァ書房．2015 年）
参考文献	『ケースワークの原則』（F･P バイステック著、誠信書房）
注意事項	

科目名	相　談　援　助	単位数	1	担当教員	齋藤　新一

授業の内容	相談援助を行なう上で必要なソーシャルワーク（ケースワーク・グループワーク）について学ぶ。具体的には、保育とソーシャルワークのかかわり、対人援助の方向性を示す価値、クライエントとの援助関係の形成を図るバイスティックの７原則、相談援助の各展開過程の内容、相談援助面接方法、グループの人と人との相互作用の働きによって個人の課題解決を図るグループワーク、総合的事例分析により実践的相談援助の実際、相談援助に於けるリスクマネジメント等について学習していく。
到達目標	・相談援助の意義と機能について理解する。 ・相談援助の原理・原則について理解する。 ・相談援助の展開過程について理解する。 ・個別援助技術と集団援助技術について理解する。

授業計画		
	第１回	相談援助の意義と機能
	第２回	相談援助とソーシャルワーク
	第３回	相談援助の価値と倫理
	第４回	相談援助の原理・原則①（ラポールの形成・ノーマライゼーション・エンパワメント・自立支援・利用者本位等の理解）
	第５回	相談援助の原理・原則②（医学モデル・生活モデル・自己覚知・パターナリズム等の理解）
	第６回	個別援助技術の定義と原則①（ケースワーク誕生の経緯・個別援助技術と集団援助技術の違い）
	第７回	個別援助技術の定義と原則②（バイスティクの７原則）
	第８回	相談援助の展開過程
	第９回	相談援助の展開過程の事例演習
	第 10 回	相談援助の面接技法①（面接形態・かかわり技法・位置取り条件・ドアノブ効果・時間的条件・電話相談の方法等）
	第 11 回	相談援助の面接技法②（相談面接の事例演習）
	第 12 回	個別援助技術の総合事例分析
	第 13 回	集団援助技術の定義と原則①（グループとは何か・集団の効果・援助モデル・グループの形態）
	第 14 回	集団援助技術の定義と原則②（集団援助技術の基本的原則・構成要素・事例演習）
	第 15 回	相談援助に於けるリスクマネジメント

授業に対する予習・復習	予習：	復習：
	現在の社会の中で起きている、さまざまな福祉の問題について、学生自身があらかじめ、新聞や雑誌等により、事前調査を行い、その実態について学ぶ。	

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 筆記試験（５０％）、レポート（２０％）、授業態度（３０％）
教科書	特に指定しない。
参考文献	『保育者のための相談援助』（小林育子　小舘静枝　日高洋子、萌文書林） 『演習・保育と相談援助』（佐藤伸隆　中西遍彦、みらい） 『社会福祉援助技術』（松本寿昭（編著）、同文書院） 『相談援助の理論と方法Ⅰ』（社会福祉士養成編集委員会、中央法規） この他の文献を引用・参考とする場合は、その都度提示する。
注意事項	授業を妨げる行為（私語・携帯電話等）については、本人確認の上、最前列への席替え、その他の処置を講ずる。このような行為を行なう学生の成績評価は、授業態度の評価となる。 尚、授業の各回の内容は、授業の進捗状況等により、順番が前後・教授内容を変更する場合もありうる。

科目名	保育相談支援	単位数	1	担当教員	小室　泰治

授業の内容	保育者は保育相談支援の主な担い手として求められている。近年の社会状況の変化に伴い、子育てについて身近に相談できる人が以前より少なくなってきている。 授業では保育相談支援の意義や基本について考え、保育士の専門性を生かした支援とは何かを考えることを目的とする。また、保育現場や児童福祉施設での支援の実際を通して、保育士として保護者を支援するために必要な視点を身につける。
到達目標	1　保育者が子育て相談支援を行うことの意義を説明することができる。 2　保育相談支援の実施方法を解説することができる。 3　保育所などの児童福祉施設において、保護者支援のあり方について説明ができる。 4　自己理解を深め、保育者として自分自身のあり方を考える。

授業計画		
	第１回	保育相談とは何か 保育相談の意義について学ぶ
	第２回	保育相談支援の方法 人間の尊厳を重視した支援の原則を理解する
	第３回	保護者支援の流れ 相談受理から終結までの流れを理解する
	第４回	保護者との関係づくり 保護者に信頼される保育者像を考えていく
	第５回	保育の環境構成を生かした支援 環境構成の原理について学び、基本となる支援のあり方について事例を通して理解する
	第６回	地域の資源活用と関係機関との連携 地域で相談事業を行っている関係機関の役割を学ぶ
	第７回	地域子育て支援における保育相談支援の実際 3 歳児未満の家庭で育つ子どもとその保護者の姿を把握し、親子への地域での支援について学ぶ
	第８回	相談実践事例から考える グループワーク　　子育てに関する相談事例を通して傾聴のあり方、支援のあり方を学ぶ
	第９回	保護者の養育力向上支援 保護者の養育力を高める支援には保育者の資質が重要であることを学ぶ
	第 10 回	苦情対応から始まる支援の実際 保護者からの苦情にどのように対応すればよいか、事例を通して考える
	第 11 回	障がいのある子どもをもつ保護者支援の実際 保育所における特別な配慮を要する子どもと家庭への支援を学ぶ
	第 12 回	要保護児童の家庭に対する支援の実際 児童虐待の現状を踏まえて、それが危ぶまれる子どもと家族に対す援助について、保育者に何ができるか考えていく
	第 13 回	保育園で行われるケースカンファレンスの実際 課題を抱える子どもと保護者への支援のあり方についてカンファレンスを通して学ぶ
	第 14 回	子育てサロンや育児サークルの実際 地域子育て支援センター等で行われている子育てサロンや育児サークルの意義を考える
	第 15 回	乳児院・母子生活支援施設における相談支援 保育園とは異なる保護者支援について理解を深める　　まとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：　日ごろからニュースや新聞報道などに目を通し、母親の子育てに関する悩みなどについて把握しておくこと。	復習：

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 筆記試験（５０％）、発表（４０％）、授業態度（１０％）
教科書	『実践・保育相談支援』（青木紀久代　編著、（株）みらい．2.000 円+税）
参考文献	『子育てアドバイス実践ノート』（日本子育てアドバイザー協会、ぎょうせい出版） 適宜プリントを配布する
注意事項	後半はグループワークで事例研究を行う。グループごとに相談事例について討議し発表してもらうので、積極的に発言できるよう心掛けること。

科目名	保育相談支援	単位数	1	担当教員	齋藤　新一

授業の内容	保育士は児童の保育のみでなく、児童の保護者支援も業務となっている。保育相談支援とはどのようなものか、何故、保育相談支援が必要なのか、保育相談支援はどのような技術を用いて、また、どのように展開して行なっていくのか。保育相談支援の記録技法(ジェノグラム含む)、援助内容と方法及び支援を行った後の自分たちの保護者支援の効果測定・評価方法について事例を通して学習していく。さらに、保育所以外の児童福祉施設の保護者支援についても学習していく。
到達目標	・保育相談支援の意義・原則について理解する。 ・保護者支援の基本を理解する。 ・保育相談支援技術(観察・紹介・行動見本の提示・伝達・情報提供・対応の提示等々)について理解する。 ・さまざまな記録文体技法を演習方式により理解する。 ・保育所以外の児童福祉施設の保護者支援について理解する。

授業計画		
	第１回	保護者に対する保育相談支援の意義
	第２回	保育相談支援の原則、保育と保育相談支援の違い及び相互関連性
	第３回	保育相談支援と相談援助の違いと相互関連性
	第４回	保育相談支援の基本１(子どもの最善の利益と福祉の重視/子どもの成長の喜びの共有)
	第５回	保育相談支援の基本２(保護者の養育力の向上支援/保護者との信頼関係の構築/地域の関係機関の連携)
	第６回	保育相談支援の展開過程
	第７回	保育相談支援技術の実際１（演習:観察・情報収集・状態の読み取り・共感/同館）
	第８回	保育相談支援技術の実際２（演習:承認・支持・気持ちの代弁・伝達・解説・情報提供）
	第９回	保育相談支援技術の実際３（演習:方法の提案・物理的環境の構成・行動見本・体験の提供）
	第 10 回	保育相談支援の実際１（演習:環境を通した保育相談支援）
	第 11 回	保育相談支援の実際２（演習:記録技法に於ける記録文体）
	第 12 回	保育相談支援の実際３（演習:マッピング技法）
	第 13 回	保育所での日常場面に於ける保育相談支援
	第 14 回	児童福祉施設における保育相談支援の実際（演習）
	第 15 回	保育相談支援のまとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：　授業に関連した事例などについて、学生自身があらかじめ新聞・雑誌等での事前調査を行う。	復習：

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 筆記試験（５０%）、レポート（２０%）、授業態度（３０%）
教科書	特に指定しない。
参考文献	『保育相談支援』(柏女霊峰・橋本真紀、ミネルヴァ書房)、『保育相談支援』(小林育子、萌文書林)、『保育所における家庭支援』(金子恵美、全国社会福祉協議会)、『保育所保育指針解説書』(ひかりのくに)、その他の文献・資料等を参考・引用とする場合はその都度紹介していく。
注意事項	授業を妨げる行為（私語・携帯電話等）については、本人確認の上、最前列への席替え、その他の処置を講ずる。このような行為を行なう学生の成績評価は、授業態度の評価となる。 尚、授業の各回の内容は、授業の進捗状況等により、順番が前後・教授内容を変更する場合もありうる。

科目名	教　育　原　理	単位数	2	担当教員	松木　久子
授業の内容	「教育」や「学校」について本質的に理解するために必要な基礎的知識や考え方を習得するように指導します。				
到達目標	学生が自分なりの保育観や教育観を形成していくことができる。				
授業計画	第１回	オリエンテーション：履修上の諸注意や説明等			
	第２回	普通のことや常識を疑う			
	第３回	人間の特質			
	第４回	教育の可能性と限界			
	第５回	教育とは何か(1)　教育の語義			
	第６回	教育とは何か(2)　教育の意義			
	第７回	学校の誕生とその歩み			
	第８回	近代学校の成立と性格(1)　良い点			
	第９回	近代学校の成立と性格(2)　改善していくべき点			
	第 10 回	幼稚園と保育所の誕生			
	第 11 回	幼稚園と保育所の歩み			
	第 12 回	教育制度			
	第 13 回	教育の内容と方法			
	第 14 回	教育の評価と経営			
	第 15 回	これまでのまとめ			
授業に対する予習・復習	予習：　教科書の指定部分を事前に熟読しておく。		復習：　必要に応じて小テストに対応できるようにしておく。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 筆記試験（５０％）、レポート（２５％）、授業態度（２５％）				
教科書	保育者養成シリーズ『教育原理』（林　邦雄・谷田貝　公昭［監修］、大沢　裕［編著］、一藝社）				
参考文献	必要に応じて紹介します。				
注意事項	子どもや教育そして学校について常識とされていることを大いに疑ってほしいと思う。 文字の読み書きや文章を読むことに慣れてほしい。 専門用語等について図書館等を利用するなどして調べ、積極的にそして主体的に学ぶ態度を養ってほしい。				

科目名	保　育　原　理	単位数	2	担当教員	富山　大士

授業の内容	１．保育の制度・思想・歴史について学び、保育の意義および今日の保育のあり方について考える。 ２．育ちや学びの連続性を見つめつつ、保育の内容・保育の方法・保育の計画について学ぶ。 ３．保育・子育てに関する現状を理解し、今日的課題について考える。
到達目標	１．保育の制度・思想・歴史の知識をベースとし、保育の意義について理解し、自ら考えることができる。 ２．就学後の姿も視野に入れつつ、保育の計画、実践、省察・評価、改善の過程の循環による保育の質の向上について理解を通して、保育の展開に関する技能の基礎を習得する。 ３．保育・子育てを取り巻く社会情勢・制度の現状について知識を得るとともに、今日的課題について自ら考えることができる。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション 「保育」とは
	第２回	「保育」についての捉え方 （子どもの最善の利益・保育所保育指針の理解・子どもの理解・保育者の保育観）
	第３回	保育の思想・歴史を学ぶ （西洋・日本における保育の歴史）
	第４回	保育の場について知る （保育所、幼稚園、認定こども園、家庭的保育等）
	第５回	保育制度 （日本の保育制度、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領）
	第６回	保育環境、保育の内容 （物的・人的環境、環境による保育、五領域）
	第７回	保育方法 （遊びを通しての指導、子どもの自発性と保育者の意図性、保育形態）
	第８回	保育計画 （保育課程・教育課程、指導計画、保育実践と計画）
	第９回	多様化する保育ニーズ、および特別な配慮を要する子どもと家庭 （多様化する保育の形態、乳児保育について、外国人の受け入れ、障害をもつ子どもへの対応、連携機関とのかかわり）
	第 10 回	育ちや学びの連続性 （保幼小の連携・「幼児期」から「児童期」への育ちの連続性と非連続性・保幼小の連携の課題）
	第 11 回	保育者に求められる子育て支援 （子育て支援の概念と必要性、子育て支援の実際、子育て支援のこれから）
	第 12 回	保育者の専門性 （保育者の成長、自己評価、研修制度、キャリアパス）
	第 13 回	「私の理想の保育施設を考える」　趣旨説明、およびグループ討議 （これまでの学びを活かし、望ましい保育のあり方・保育観についてグループ討議を行い、考えをまとめる）
	第 14 回	「私の理想の保育施設を考える」　グループ討議、および発表資料まとめ （望ましい保育のあり方・保育観についてグループ討議を行い、発表資料としてまとめていく）
	第 15 回	「私の理想の保育施設を考える」　グループ発表 （自分の所属するグループの発表をするとともに、他のグループの発表を聞き、保育観を再構築する）

授業に対する予習・復習		
	予習：　ノートの先頭頁にシラバスのコピーを貼りつけ、授業内容について毎回確認をした上で授業に臨むこと。	復習：　授業開始時に行う前回授業内容の確認小テストに向けて、毎回の授業の復習を必ず行うこと。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 筆記試験（５０％）、レポート（２０％）、授業態度（３０％）
教科書	『保育原理』（佐藤康富編著、大学図書出版）
参考文献	『保育所保育指針解説書』（厚生労働省、フレーベル館）、『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館）
注意事項	１）授業の開始時に、前回授業の理解度を確認する小テストを行う。 ２）ノートの先頭頁にシラバスのコピーを貼りつけて授業内容について毎回確認するとともに、ノートは丁寧にまとめて書くこと。

科目名	教育心理学	単位数	2	担当教員	大熊　美佳子

授業の内容	幼児教育において、子どもの発達や学習過程を理解し、子どもへの対応を考えることは非常に重要です。本講義では、教育に関わる子どもの発達、学習のメカニズム、動機づけなど教育心理学の基礎知識を習得することを目的とします。
到達目標	①教育心理学の基本用語を正確に理解する ②子どもの発達や行動を理解するために必要な心理学的視点の基礎を身につける ③教育者として必要な心理学的な関わり方を学ぶ

授業計画		
	第１回	教育心理学とは ガイダンスと導入として教育心理学を学ぶ意味，子どもにとって教育とは何かを考える。
	第２回	子どもの発達① 発達とは何か
	第３回	子どもの発達② 発達過程について
	第４回	認知発達 ピアジェの認知発達理論，ヴィゴツキーの最近接領域などの発達理論について
	第５回	学習理論① 学習とは何か
	第６回	学習理論② 条件づけ
	第７回	学習理論③ 社会的学習理論について
	第８回	子どものやる気① 動機づけ理論について
	第９回	子どものやる気② 意欲と無気力
	第 10 回	子どものやる気③ 褒めること，叱ること
	第 11 回	子どもの個性を理解する① パーソナリティ理論
	第 12 回	子どもの個性を理解する② 知能について
	第 13 回	教育環境 移行期への対応
	第 14 回	教育方法① 教授方法について
	第 15 回	教育方法② 評価について

授業に対する予習・復習		
	予習：	復習：　配布するプリントを中心に，各回の授業内容を復習し，疑問点があれば次回に確認すること。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（〇）する／（　）しない 筆記試験（６０％）、課題（２０％）、授業態度（２０％）
教科書	特になし
参考文献	講義の中で適宜紹介します。
注意事項	講義形式で行います。 将来教育現場で子どもに関わるために必要な知識を身につけるために，講義の内容を具体的にイメージしながら理解を深めてください。

科目名	教育心理学	単位数	2	担当教員	大谷　智子

授業の内容	幼児教育において、人間の発達や学習について理解を深めることは重要である。この講義をきっかけに、各人が教育方法や幼児に対する理解・考え方を深め、これからの教育とはどうあるべきかを考えてもらいたい。
到達目標	こどもの発達、学習、個人差のとらえ方等いくつかの領域に焦点を絞り、保育の現場において重要な教育心理学の基礎的知識を習得できる。

授業計画		
	第１回	ガイダンス、導入 担当講師の自己紹介と講義の進め方、なぜ教育心理学を学ぶ必要があるのかについて解説する。
	第２回	現代社会と子どもの発達 現代の子どもの特徴はどんなところにあるのかを、環境の変化や人間関係のあり方を通して考える。
	第３回	発達のとらえ方 人間の発達の特徴や、その過程に教育はどのように関わることができるのか、遺伝と環境の役割を通して考える。
	第４回	論理的思考 子どもの論理的に考える力がどのように発達していくか、ピアジェの理論の紹介や近年の研究を通して学ぶ。
	第５回	覚えること 記憶の基本的なメカニズムや発達過程について学ぶ。
	第６回	社会性 子どもが社会の規範や慣習に沿った行動をどのように身につけていくのか、社会性の発達について学ぶ。
	第７回	自己概念とパーソナリティ 自己認識・自己概念の発達とパーソナリティの形成および、パーソナリティの測定法について学ぶ。
	第８回	学習への動機づけ やる気、すなわち動機づけについて取り上げ、どうすればやる気を育むことができるのか考える。
	第９回	こどもの自己制御 心理学における自己制御について学ぶとともに、保育の視点からこどもの自己制御について考える。
	第 10 回	学級という集団 学級集団の特徴や機能、測定について取り上げ、学級集団の仲間との関係や教師との関係について学ぶ。
	第 11 回	学習と学習形態 学習の原理について取り上げるとともに、学習効果や学習方法について学び、学習指導法の紹介を行う。
	第 12 回	発達障害と学習支援 発達障害をいくつか取り上げ、基本的な症状や事例、学習支援について解説する。
	第 13 回	知能 知能検査やその歴史、能力の発達的な変化や最近の知能理論を紹介する。
	第 14 回	教育評価 学力の測定と評価について学び、評価の多様性についても考える。
	第 15 回	第 1 回～第 14 回の総まとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：	復習：　講義時に配布されたプリントを参照し、復習しておくこと。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 筆記試験（６０％）、課題（３０％）、授業態度（１０％）
教科書	特になし。
参考文献	『やさしい発達と学習』(外山紀子・外山美樹、有斐閣) 『子どものこころ―児童心理学入門』(櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代、有斐閣) 講義テーマやリアクションペーパーに書かれた質問に応じて、その都度紹介も行う。
注意事項	

科目名	保　育　者　論	単位数	2	担当教員	松木　久子
授業の内容	保育者として知らなければならない基本的な事柄や実習に向けての心構えとなるような内容を指導していきます。				
到達目標	学生が各自自覚して実習に臨めるような態度形成や、認識を増やすことができる。				

授業計画		
	第１回	オリエンテーション：履修上の諸注意と説明等
	第２回	幼稚園教諭と保育士の仕事と役割(1)　それぞれの違い
	第３回	幼稚園教諭と保育士の仕事と役割(2)　保育士とは
	第４回	幼稚園教諭と保育士の仕事と役割(3)　幼稚園教諭とは
	第５回	日本の教職の特質(1)　キーワードは何か
	第６回	日本の教職の特質(2)　アメリカとの比較
	第７回	指導と懲戒(1)　体罰の定義
	第８回	指導と懲戒(2)　体罰是非
	第９回	子どものしつけをめぐる問題(1)　今昔の違い
	第 10 回	子どものしつけをめぐる問題(2)　国際化の中で
	第 11 回	安全と事故防止(1)　事故の定義等
	第 12 回	安全と事故防止(2)　保育者としての対応
	第 13 回	保育者としての服務と望ましい資質(1)　服務とは
	第 14 回	保育者としての服務と望ましい資質(2)　資質とは
	第 15 回	これまでのまとめ

授業に対する予習・復習	予習：　教科書の指定部分を熟読しておく。 事前に必要事項について調べておく。	復習：　必要に応じて小テストに対応できるようにしておく。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 筆記試験（５０％）、レポート（２５％）、授業態度（２５％）
教科書	『これだけは身につけたい小学校教員の常識６７』（村越晃　編、一藝社）
参考文献	必要に応じて紹介します。
注意事項	保育者になることの自覚をもって自分自身をよく見つめてほしい。 知らないことを知ることに一生懸命になってほしい。 図書館等を利用し、積極的にそして主体的に学ぶ態度を養ってほしい。

科目名	社会的養護	単位数	2	担当教員	志濃原　亜美

授業の内容	社会福祉、児童家庭福祉の中の社会的養護の位置を理解し、特に施設における日常生活援助、施設における専門職について学びを深める。また、施設保育士の専門性と特別な配慮を要する子どもや家庭への援助について学び、さらに施設の中で行われるリービングケア、アフターケアなどの現状についても学習する。
到達目標	・施設養護の体系や援助過程について理解できる ・レジデンシャル・ソーシャルワークの視点から施設保育士の専門性、特別な配慮を要する子どもへの援助や保護者への相談の在り方など理解できる

授業計画		
	第１回	オリエンテーション
	第２回	子どもの社会的養護
	第３回	日本における社会的養護のしくみ
	第４回	子どもの権利と社会的養護
	第５回	施設養護の種類
	第６回	施設養護に関わる専門職
	第７回	アドミッションケアとインケア
	第８回	リービングケアとアフターケア
	第９回	中間レポート
	第 10 回	家庭的養護の理念と里親制度　※レポート提出
	第 11 回	里親制度（ＶＴＲ）
	第 12 回	子育て困難家庭への支援行政の仕組みとソーシャルワーク
	第 13 回	ＤＶケースと虐待ケースへのソーシャルワーク
	第 14 回	小テスト、ＶＴＲ、感想文
	第 15 回	まとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：　次回の講義項目について教科書やプリントを用いて予習する。	復習：　社会福祉や児童家庭福祉で学んだ専門用語などの復習。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 筆記試験（５０％）、レポート（３０％）、課題（１０％）、授業態度（１０％）
教科書	『子どもの社会的養護』(望月彰編著、建帛社)
参考文献	適宜紹介する
注意事項	特別なケアを要する子どもについての書籍等を積極的に読むこと

科目名	社会的養護	単位数	2	担当教員	萬燈　章雄

授業の内容	社会的養護を必要としている子どもたちへの理解を深める。また、社会的養護の支援フレームについて学習するとともに、特有の課題及び特性についても理解する。そこで生活する子どもたちが本来もつ権利を守りながら、保育士としてどのように関わっていくのかを学習する。
到達目標	1　社会的養護を必要としている子どもたちの現状を理解する。 2　社会的養護の支援フレームについて理解する。 3　支援者としての保育士の職務と倫理について理解する

授業計画		
	第１回	オリエンテーション～「社会的養護」とは 社会的養護に携わる保育士としての基本的スタンスについて学ぶ
	第２回	子ども観と社会的養護の歴史 子どもが歴史的にどのように扱われきたか
	第３回	社会的養護の仕組み また、現在の社会的養護の抱える課題について
	第４回	児童相談所の役割について 児童相談の実際と措置制度について
	第５回	児童虐待と社会的養護 虐待を受けてきた子供たちについて理解する
	第６回	児童福祉施設の種類と専門職 適切な施設の選択、配置すべき専門職などを学ぶ
	第７回	里親制度・養子縁組について なぜ今里親委託推進なのかを理解する
	第８回	社会的養護理論① レジデンシャルソーシャルワーク、パーマネンシープランニングなど理解する
	第９回	社会的養護理論② アタッチメント理論「子どもの安全基地」を学ぶ
	第 10 回	家族再統合と施設からの自立支援に向けて 家族支援プログラム・スタートダッシュ応援事業・希望の家事業など
	第 11 回	児童福祉施設での基本技術 アセスメント（ジェノグラム・エコマップ）と記録の書き方について
	第 12 回	児童の権利擁護について（子どもの権利ノート） 子どもの生い立ちの整理を支援する
	第 13 回	演　習Ⅰ 事例を使って絵と言葉で生い立ちを説明する（W&Ｐ）
	第 14 回	演　習Ⅱ（被措置児童虐待について） 事例を使って保育士としての倫理観を考える
	第 15 回	これからの社会的養護 厚生労働省通知「家庭的養護の推進について」

授業に対する予習・復習		
	予習：　事前に資料配布した場合は、課題に沿ってよく読んでおくこと。	復習：　配布した資料を読み返すとともに、メモなども含め管理を徹底すること。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 筆記試験（５０％）、発表（２０％）、授業態度（３０％）
教科書	『よくわかる社会的養護　第２版』（山縣文治、林浩康編、ミネルヴァ書房） その他、必要に応じプリントを配布します。
参考文献	必要に応じ適宜紹介します。
注意事項	どの現場においても個人情報の管理は極めて重要なファクターになります。個人情報が漏れれば少なからず処分の対象になります。そのことを踏まえ、配布する事例（実際の事例ではありません）及び資料また授業中のメモなど、その管理について日頃から常に意識し自己管理を徹底してください。 受講マナーは守り、積極的な参加を期待します。

科目名	発　達　心　理　学	単位数	2	担当教員	大熊　美佳子
授業の内容	発達とは，人と，人をとりまく社会との交互作用による共有事象です。発達を捉える広い視野を身につけるために，発達過程を正しく理解し，子どもの発達にまつわる事例について，理論的背景を確認しながら，必要な知識と工夫を身につけ，子育てや教育の現場に活かしていけるように，学びを深めていくことを目的とします。				
到達目標	①生涯発達の考え方を基本に，人間の発達過程について理解を深める。 ②子どもの発達を理解するために必要な基礎知識を身につける。 ③保育者としての自己理解を深める。				

授業計画		
	第１回	発達とは何か
	第２回	ヒトの生物学的特徴
	第３回	系統発達過程
	第４回	個体発達の過程①（胎児期・新生児期・乳児期）
	第５回	個体発達の過程②（タドラー期・幼児期）
	第６回	個体発達の過程③（児童期・思春期））
	第７回	個体発達の過程④（青年期・成人期・老年期）
	第８回	フロイトの発達理論
	第９回	エリクソンの発達課題
	第 10 回	ピアジェの認知発達理論
	第 11 回	遺伝と環境
	第 12 回	人間関係の発達①（愛着理論と対人関係）
	第 13 回	人間関係の発達②（仲間関係）
	第 14 回	感情・情動の発達
	第 15 回	まとめ

授業に対する予習・復習	予習：	復習：　授業ノート，プリントを中心に，各回の授業内容を復習し，興味を持った内容について自ら調べるなど理解を深めてください。疑問点は次回に確認すること。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（〇）する／（　）しない 筆記試験（６０％）、課題（２０％）、授業態度（２０％）
教科書	特になし
参考文献	講義の中で適宜紹介します。
注意事項	講義形式で行います。

科目名	保育の心理学	単位数	1	担当教員	三好　力

授業の内容	既習の知識を基に、様々な保育場面における対応を考えていく。 演習形式で授業を行うため、個人でのワーク、グループワーク、発表などを行っていく。 自ら考えることと集団で考えることで多様な価値観を身につけていけるようにしていく。
到達目標	発達心理学や教育心理学の知識を基に保育実践に対して応用していく力を身につける。 １．子どもの心身の発達と保育実践について理解を深め、現場で応用することができる。 ２．生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解し、対応することができる。 ３．保育における発達援助について自ら考えることができる。

授業計画		
	第１回	イントロダクション：保育者を目指す者
	第２回	①子どもの発達と保育実践１(子ども理解における発達の把握)
	第３回	①子どもの発達と保育実践２(環境としての保育者と子どもの発達)
	第４回	①子どもの発達と保育実践３(子ども相互の関わりと関係作り：言葉の発達)
	第５回	①子どもの発達と保育実践４(子ども相互の関わりと関係作り：仲間関係の発達)
	第６回	①子どもの発達と保育実践５(自己主張と自己統制)
	第７回	①子どもの発達と保育実践６(子ども集団と保育の環境：社会性の情緒発達)
	第８回	②生活や遊びを通した学びの過程１(子どもの生活と学び)
	第９回	②生活や遊びを通した学びの過程２(子どもの遊びと学び)
	第 10 回	②生活や遊びを通した学びの過程３(生涯にわたる生きる力の基礎を培う)
	第 11 回	③保育における発達援助１（基本的生活習慣の獲得と発達援助）
	第 12 回	③保育における発達援助２（発達の課題に応じた援助や関わり：子どもの個人差に配慮した保育）
	第 13 回	③保育における発達援助３（発達の連続性と就学への支援：就学に向けた支援）
	第 14 回	③保育における発達援助４（発達援助における協働：特別なニーズの子への支援）
	第 15 回	③保育における発達援助５（現代社会における子どもの発達と保育の課題：家族支援・保育におけるカウンセリングマインド）

授業に対する予習・復習		
	予習：　授業内で適宜アナウンスします。	復習：　授業内で考えたことについて、発達心理学などの既修の知識を見直し、より深いものへと高めてください。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 課題（３０％）、発表（４０％）、授業態度（３０％）
教科書	『実践・発達心理学ワークブック』（青木紀久代・矢野由佳子編、株式会社みらい）
参考文献	
注意事項	出席時間数が授業時間数の　２／３以上であり、かつ、課題および発表等の成績を総合して合格と判断された場合、所定の単位が与えられます。 授業中の私語、携帯電話、飲食は禁止。好ましくない者は注意の上で平常点を減点し、場合によっては退出させることもありますので注意してください。 積極的な授業参加を評価します。ディスカッションなどの参加が見られない場合は減点します。

科目名	保育の心理学	単位数	1	担当教員	大熊　美佳子

授業の内容	発達心理学の学習を踏まえ，保育現場で要求される適切な発達援助を行う実践力を養うために，実践的な演習を行います。具体的な保育場面を想定し，子どもの心身の発達に即した保育者の関わり方や配慮について解説し，学びを深めるために事例検討，グループワーク等を行います
到達目標	①子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める ②保育における発達援助を行う実践力を養う ③事例について自ら考え，話し合うことができるようになる

授業計画		
	第１回	ガイダンス
	第２回	子ども理解における発達の把握
	第３回	個人差や発達過程に応じた発達の把握
	第４回	身体感覚を伴う多様な経験と環境の相互作用
	第５回	環境としての保育者と子どもの感覚
	第６回	子ども相互の関わりと関係づくり
	第７回	子ども集団と保育の環境
	第８回	子どもの生活・遊びと学び
	第９回	自己主張と自己制御
	第 10 回	基本的生活習慣の獲得と発達援助
	第 11 回	事故の主体性の形成と発達援助
	第 12 回	発達の課題に応じた援助や関わり
	第 13 回	発達の連続性と就学への援助
	第 14 回	現代社会における子どもの発達と保育の課題
	第 15 回	まとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：　授業内容に合わせて，配布資料をもとに事前学習，必要資料の収集を行うこと。	復習：　各回の授業内容を復習し，興味を持った内容について自ら調べるなど理解を深めること。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない レポート（６０％）、課題（２０％）、授業態度（２０％）
教科書	特になし
参考文献	授業の中で適宜紹介します。
注意事項	授業に積極的に取り組み，日頃から，乳幼児に関心を持ち，実習等での経験を授業の内容と照らし合わせて心理学的な視点を養うように意識してください。

科目名	教育社会学	単位数	2	担当教員	小澤　昌之

授業の内容	教育社会学は、社会学という学問的立場から教育事象に対しアプローチを行う学問である。最近では、教育が社会生活に広く浸透して、多様な取り組みがなされるようになった。この授業では、保育者を目指す学生に対し、＜教育社会＞に関する話題を取り上げ、現代の子どもが置かれた状況に理解を深めることを目的とする。
到達目標	①子どもが置かれている現代の社会状況を理解する。 ②子どもと学校・家庭の関係を多面的に理解する。 ③社会学的思考を身につける。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション：子どもと教育社会学の関係
	第２回	子どもの生きる生活世界の変容
	第３回	子どもと家族・学校の社会化
	第４回	教育改革と学校①：学習指導要領の成立と新しい学力観
	第５回	教育改革と学校②：ゆとり教育の成立と現在の学校現場
	第６回	学校のもつ社会的機能
	第７回	家族と教育：家庭教育の社会化機能
	第８回	育児・子育てを取り巻く社会環境の現在
	第９回	社会・企業による子育て支援：ワークライフ・バランス
	第 10 回	地域による子育て支援：ファミリー・サポート・センター事業
	第 11 回	学校による子育て支援：学童保育
	第 12 回	電子メディアと子ども
	第 13 回	子どもの生活世界を取り巻く問題：児童虐待、いじめ・不登校
	第 14 回	子どもの貧困
	第 15 回	まとめ

授業に対する予習・復習	予習：　レジュメ・参考書を事前に読んでおくこと	復習：　配布資料を熟読して授業内容を理解する。授業でわからないことがある場合は、コメントカードに書いたり、授業後質問したりして理解を深める。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 筆記試験（５０％）、レポート（２０％）、授業態度（３０％）
教科書	特になし（授業担当者が毎回レジュメを配布する） ただし以下の文献は授業でよく使うので、購入しておくことが望ましい。 『地域に生きる子どもたち』（小堀哲郎編、創成社）
参考文献	『現代教育社会学』（岩井八郎・近藤博之編、有斐閣）、『越境する家族社会学』（渡辺秀樹・竹ノ下弘久編、学文社）、『学校と社会』（岩内亮一・陣内靖彦編、学文社） 授業中に他の参考書も適宜紹介する。
注意事項	○　遅刻・欠席については減点の対象とし、成績評価基準に基づいて総合的に評価する。 ○　授業期間中に１度～２度ほど任意でレポート課題を課す場合があるが、提出した受講者は追加点として上記の成績評価とは別に評価を行う。

科目名	臨　床　心　理　学	単位数	2	担当教員	伊藤　明芳

授業の内容	臨床心理学は応用心理学の一つである。臨床心理学は心の悩みを解決し、人間を幸せにする学問ともいわれている。 現代社会にはさまざまな心の問題が存在する。私たちが、人の心を理解しようとしたり、心の問題に向き合おうとするとき、臨床心理学はそれらの試みをサポートしてくれる。 本講義では、臨床心理学の基礎的知識の習得と現場で活きる臨床心理学の実践的能力の育成を図る。さらに、保育者自身の心の安定と成長にもアプローチしたいと考えている。
到達目標	①臨床心理学の基礎的知識を習得できる。 ②学んだ知識を活用して、心の問題について、自分なりに考えられる力を身につける。 ③学んだ知識を使って、子どもや保護者の心の問題理解と支援に役立てられる。

授業計画		
	第１回	１．イントロダクション
	第２回	２．心の発達
	第３回	３．臨床心理学の心の捉え方と心理療法 精神分析①　[心の構造等]
	第４回	精神分析②　[精神分析的心理療法]
	第５回	行動主義①　[学習等]
	第６回	行動主義②　[行動療法]
	第７回	人間性心理学①　[自己実現等]
	第８回	人間性心理学②　[来談者中心療法]
	第９回	４．心理アセスメント
	第 10 回	５．心の問題の理解と対応
	第 11 回	６．心と脳
	第 12 回	７．発達障害
	第 13 回	８．心の病気
	第 14 回	９．保育者自身のメンタルヘルスを考える 臨床心理学の理論の活用
	第 15 回	まとめと今後へのアドバイス

授業に対する予習・復習		
	予習：　事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。	復習：　学んだ知識の定着を図ること。理解が困難な場合は遠慮なく担当教員に尋ねること。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 筆記試験（６０％）、課題（４０％）
教科書	『事例で学ぶ保育のための相談援助・支援～その方法と実際』（須永進　編、同文書院．2013）
参考文献	他の参考図書等については、講義の中で必要に応じて適宜紹介する
注意事項	講義を中心におこなう。実際の事例（ケース）などをあげ、受講生にわかりやすい内容を心がけたい。 受講者には自ら学び考える意欲をもって講義に参加する態度が求められる。

科目名	臨　床　心　理　学	単位数	2	担当教員	今水　豊

授業の内容	保育園や幼稚園において相談のニーズが増える昨今、先生が子どもや保護者を理解し、良好な援助関係を築くために、臨床心理学は有用な分野である。臨床心理学とは、心理的問題に悩む人を援助するための学問である。いわば、心の問題を抱えている人の痛みを共有し、援助に活かす試みである。授業では、心理的問題のとらえかたや心理療法の実際について論理的・実践的に学ぶことによって、心の痛みを共有することを目的とする。
到達目標	本科目では、以下の３点を達成目標とする。 ・臨床心理学的な理解を援助活動に活かすことができる ・他者を尊重できるコミュニケーション力を向上する ・自身の課題を把握できる

授業計画		
	第１回	Ⅰ 臨床心理学とは何か
	第２回	Ⅱ 自他を認めるグループワーク
	第３回	Ⅲ 心の発達　社会心理的発達
	第４回	Ⅲ 心の発達　親子関係の発達
	第５回	Ⅳ 心理アセスメント　アセスメントとは何か
	第６回	Ⅳ 心理アセスメント　アセスメントの体験
	第７回	Ⅳ 心理アセスメント　自己を分析する
	第８回	Ⅴ 心理的問題　うつ病
	第９回	Ⅴ 心理的問題　不安障害
	第 10 回	Ⅴ 心理的問題　統合失調症
	第 11 回	Ⅵ 心理療法の実際　精神分析
	第 12 回	Ⅵ 心理療法の実際　来談者中心療法
	第 13 回	Ⅵ 心理療法の実際　認知行動療法１　理論
	第 14 回	Ⅵ 心理療法の実際　認知行動療法２　実践
	第 15 回	Ⅵ 心理療法の実際　ストレスマネジメント

授業に対する予習・復習		
	予習：　普段から臨床心理学に関する記事やニュース、話題を意識しておくことが望ましい。	復習：　わからない内容や疑問に思うことは、授業後質問して理解すること。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 筆記試験（５０％）、課題（３０％）、授業態度（２０％）
教科書	適宜、資料を配布する。
参考文献	授業にて適宜紹介する。
注意事項	講義形式の他に、体験的な学習も行う。 援助場面では、人の話に耳を傾け、その心情を理解する謙虚な態度が不可欠である。 その姿勢を身につけるためにも、授業をしっかり聞き、理解するという構えを求める。

科目名	情報機器利用	単位数	1	担当教員	金　宰郁

授業の内容	本科目では、幼児教育における「教育の方法及び技術」について、基礎的な理論と教育の方法を支援する情報機器（コンピュータ）そして教材の活用について理解を図ります。 具体的には、以下のとおりです。 ①教育の方法、指導方法及び教育課程の原則について、その基本を理解すること。 ②情報機器及び教材の活用について、具体的な表計算ソフトの操作を通じて理解すること。
到達目標	表計算ソフトの基本機能及び応用機能を身につけ、今後大学における研究および卒業論文、即ち、幼児教育に関するデータを集計・分析できる。

授業計画		
	第１回	この授業科目に関するガイダンス
	第２回	表計算ソフト「Excel」の基礎(1)：基本操作（文字入力等）、文書の保存・読込み、その他
	第３回	表計算ソフト「Excel」の基礎(2)：ワークシートの編集、ワークシートの書式設定、その他
	第４回	表計算ソフト「Excel」の基礎(3)：簡単な数表の作成、数値データ・文字データの相違、データの編集（挿入・削除・移動）、編集シートの調整（セルの幅・高さの変更、罫線の付加など）、その他
	第５回	表計算ソフト「Excel」の基礎(4)：グラフの作成
	第６回	表計算ソフト「Excel」の基礎(5)：グラフの設定の変更１（絵グラフなど）
	第７回	表計算ソフト「Excel」の基礎(6)：グラフの設定の変更２（複合グラフなど）
	第８回	「Excel」の応用(1)：セル番地の絶対参照と相対参照
	第９回	「Excel」の応用(2)：関数の利用１（IF、AND、OR 関数）
	第 10 回	「Excel」の応用(3)：関数の利用２（VLOOKUP、HLOOKUP、INEDX 関数）
	第 11 回	「Excel」の応用(4)：関数の利用３（DATE、PMT 関数など）
	第 12 回	「Excel」の応用(5)：データ処理の応用１（データベース合計、平均など）
	第 13 回	「Excel」の応用(6)：データ処理の応用２（条件付きデータベースなど）
	第 14 回	「Excel」の応用(7)：データ処理の応用３（データのクロス集計：ピボットテーブル）
	第 15 回	「Excel」の応用(8)：実践データの処理

授業に対する予習・復習		
	予習：　表計算ソフトの基礎知識（定義）を事前に調べてから、教科書の例題および課題を解いてみる。	復習：　教科書の例題および当日の課題をもう一度解いてみて確認する。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 課題（５０％）、発表（１０％）、授業態度（３０％）
教科書	『文科系学生のための情報活用』（立野貴之、共立出版）
参考文献	『知りたい操作がすぐわかる Excel2013 全機能 Bible』（高橋慈子・八木重和、技術評論社）
注意事項	出席時間数が授業時間数の３分の２以上であり、かつ、課題、発表、平常点等の成績を総合して合格と判断された場合、所定の単位が与えられます。

科目名	情報機器利用	単位数	1	担当教員	榎本　功子

授業の内容	パソコンの基本的な操作方法と、よく使われるアプリケーションソフトの使い方は、社会人として必要不可欠なものである。幼児教育の現場においても、園だよりやクラスだよりなど、さまざまな印刷物を作成したり、教育上必要な情報収集などのスキルが求められる。
到達目標	本講ではまず、エクセルによるさまざまな文書や表計算のスキルを習得するとともに、より高度な文書作成スキルを身につける。

授業計画		
	第１回	簡単な表作成。
	第２回	連絡名簿を作る。
	第３回	便利な機能オートフィルを学ぶ。
	第４回	円グラフや棒グラフの作成
	第５回	カレンダーを作る（クリップアート、オートシェイプの活用）
	第６回	デジカメや携帯で写真を撮り、パソコンに取り込み、保存する。
	第７回	パソコンで簡単に写真を修正・加工する。その写真をエクセルに取り込む。
	第８回	シートのコピーを学ぶ。
	第９回	シートをまたいだコピーなどについて学ぶ。
	第 10 回	表計算のしかた。
	第 11 回	引き算、掛け算、割り算など。
	第 12 回	簡単な関数の使い方。　課題を使って学ぶ。
	第 13 回	If 関数を使う。
	第 14 回	複雑な関数を使う。
	第 15 回	機能を使った課題に取り組む。

授業に対する予習・復習	予習：	実践的な授業なので、未経験者も経験者も、スキルアップを目指して積極的に取り組むこと。	復習：

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 課題（７０％）、授業態度（３０％）
教科書	授業に合わせたプリントを配布予定。
参考文献	必要に応じて随時紹介する。
注意事項	毎回課題を出します。課題に取り組むことでスキルアップできるようにします。

科目名	障害児保育	単位数	2	担当教員	佐藤　千代子

授業の内容

この講義では、知的障害、身体障害（聴覚・視覚・肢体不自由）等に加え、昨今、殊に保育現場で注目され、適切な支援が求められている発達障害を取り上げ、その特性や支援のあり方、技法を学ぶこととする。また、保育の場で行われている障害児保育の実際、小学校や地域の専門機関との連携、保護者や家庭に対する支援の大切さについても学ぶこととする。

到達目標

・障害児保育の歴史的変遷、制度や法律を学ぶ。
・障害児保育の対象となるさまざまな障害を理解し、保育現場で活用できる力を身につける。
・障害のある子どもが生活や遊び、適切な保育環境によって成長・発達することを理解する。
・地域の専門機関や小学校との連携、保護者に対する支援について学ぶ。

授業計画

第１回	ガイダンス　障害があるということ	第 16 回	自閉症スペクトラムの理解と援助① 診断基準と特性
第２回	障害の概念と種別	第 17 回	自閉症スペクトラムの理解と援助② 支援方法
第３回	障害児保育の対象としての障害児	第 18 回	発達をうながす生活や遊びの指導① 保育の環境
第４回	障害児保育の歴史的変遷	第 19 回	発達をうながす生活や遊びの指導② 保育者の援助
第５回	障害児保育の現状と課題	第 20 回	障害児保育の形態と育ちの過程
第６回	視覚障害児の理解と援助	第 21 回	障害のある子の指導計画
第７回	聴覚障害児の理解と援助	第 22 回	障害のある子の個別の支援計画① 個別の支援計画とは
第８回	肢体不自由児の理解と援助	第 23 回	障害のある子の個別の支援計画② 記載内容と様式
第９回	知的障害児の理解と援助① 診断基準と原因・特徴	第 24 回	保護者や家庭に対する支援　－「障害受容」と子育て
第 10 回	知的障害児の理解と援助② 子どもへの支援	第 25 回	保護者や家庭に対する支援　－きょうだいへの支援
第 11 回	注意欠陥／多動性障害の理解と援助① 行動の特性	第 26 回	地域の専門機関との連携
第 12 回	注意欠陥／多動性障害の理解と援助② 支援方法	第 27 回	幼稚園・保育所と小学校との連携
第 13 回	学習障害児（LD）の理解と援助① 定義と特性	第 28 回	福祉・教育における現状と課題
第 14 回	学習障害児（LD）の理解と援助② 支援方法	第 29 回	障害のある子どもの保育関連施策
第 15 回	発達障害と２次障害	第 30 回	保護者の声から学ぶ

授業に対する予習・復習

予習：　専門用語がたくさん出てくるので混乱しないように予習をきちんとすること。

復習：　１つひとつのことが身につくようしっかり復習すること。

成績評価の方法

試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない

筆記試験（５０％）、レポート（２０％）、授業態度（３０％）

教科書

『基本保育シリーズ　障害児保育』
（監修：公益財団法人　児童育成協会　編集：西村重稀・水田敏郎　中央法規）

参考文献

適宜紹介する

注意事項

分からない点については、そのままにしないで積極的に質問すること。
複数回、レポートの提出を求める。
ボランティア等に参加し、日ごろから障害児（者）に関わり障害について理解を深めること。
授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁。

科目名	障害児保育	単位数	2	担当教員	齋藤　新一

授業の内容	障害児保育とはどのようなものか、ＩＤＤ、ＡＳＤ、ＡＤＨＤ、ＳＬＤ等の障害児の障害特性・行動特性の理解、基本的身辺自立技能の獲得方法、ＴＥＡＣＣＨプログラムの考え方による障害児療育支援の実際、問題行動の捉え方やその解決方法、家族支援の在り方、障害児療育に於ける関係機関との連携・協力について学ぶ。
到達目標	・知的発達症、自閉症スペクトラム、限局性学習症等の発達障害についてその特性と指導法を理解する。 ・視覚的構造化・物理的構造化・時間的構造化・活動の構造化等について理解する。 ・障害児の問題行動をどのように捉え、どのように対応していくか、その支援方法を理解する。 ・障害児支援は家族との一貫した支援が不可欠であり、どのように家族支援を行っていくかを理解する。 ・障害児支援を行うための関係機関の種類と業務内容について理解する。

授業計画

第１回	ガイダンス（学習の狙い、学ぶべき内容）	第 16 回	ダウン症の理解（ビデオ）
第２回	現在の障害児者問題の現状	第 17 回	ダウン症の理解と保育
第３回	障害児保育の仕組み①（保育園に於ける障害児種別の動向・障害児支援制度の理解）	第 18 回	注意欠如・多動性障害児の理解と保育
第４回	障害児保育の仕組み②（乳幼児期に教えておくべきこと）	第 19 回	限局性学習症児の理解と保育
第５回	知的障害児の理解と保育	第 20 回	演習：問題行動の理解
第６回	演習：基本的身辺自立技能習得支援の実際①（排泄方法))	第 21 回	演習：問題行動に対する対処方法①（オペラント原理による対処方法・トークンシステム等の理解）
第７回	演習：基本的身辺自立技能習得支援の実際②（食事・着脱・靴の履き方・整姿・礼儀の習得方法）	第 22 回	演習：問題行動に対する対処方法②（問題行動の機能の見つけ方・ＡＢＣ分析法の習得）
第８回	自閉症児の理解と保育（ビデオ）	第 23 回	演習：問題行動の捉えと支援方法の立案の仕方
第９回	ＤＳＭ－５に於けるＮＤ	第 24 回	障害を持っていきることを考える
第 10 回	演習：自閉症児の理解と保育①（ＮＤとＡＳＤ）	第 25 回	演習：総合的事例演習
第 11 回	演習：自閉症児の理解と保育②（ＡＳＤの特性とＡＳＤの歴史的変遷の理解）	第 26 回	学校教育への引き継ぎ
第 12 回	演習：自閉症児の理解と保育、構造化①（物理的構造化・時間的構造化）	第 27 回	関係専門機関との連携の意義とその連携先①（児童相談所・保健所・保健センター・福祉事務所・社協）
第 13 回	演習：自閉症児の理解と保育、構造化②（活動の構造化・視覚的構造化）	第 28 回	関係専門機関との連携の意義とその連携先②（子家セン・子育て支援センター児童家庭支援センター・児童委員・母子自立支援員等)
第 14 回	演習：自閉症児の事例検討①（アセスメント方法）	第 29 回	家族支援
第 15 回	演習：自閉症児の事例検討②（目標立案の方法）	第 30 回	族支援の方法

授業に対する予習・復習	予習：　現在の社会の中で起きている、さまざまな障害児問題について、学生自身があらかじめ、新聞や雑誌等により、事前調査を行い、その実態について学ぶ。	復習：

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 筆記試験（５０％）、レポート（２０％）、授業態度（３０％）
教科書	特に指定しない。
参考文献	『よくわかる障害児保育』（尾崎康子他、ミネルヴェア書房）、『発達障害白書』（日本発達障害連盟）、『保育白書』（全国保育団体連絡会）、その他の文献・資料等を参考・引用とする場合はその都度紹介していく。
注意事項	授業を妨げる行為（私語・携帯電話等）については、本人確認の上、最前列への席替え、その他の処置を講ずる。このような行為を行なう学生の成績評価は、授業態度の評価となる。 尚、授業の各回の内容は、授業の進捗状況等により、順番が前後・教授内容を変更する場合もありうる。

科目名	社会的養護内容	単位数	1	担当教員	志濃原　亜美

授業の内容	施設養護や里親など社会的養護の実際について学び、社会的養護における児童の権利擁護や保育士等社会福祉施設従事者の倫理について、また、ソーシャルワークの技術など専門的技術などを体系的に理解する。 さらに、個々に応じた支援計画の作成、記録の書き方、自己評価についても具体的に学ぶ。
到達目標	・今まで学んできた社会福祉関連の知識や施設実習で学んだ施設の実態などを話し合いや発表等の方法で体系的に理解することができる。 ・自ら考え、発表し、問題意識を持つことができる。 ・社会的養護に関わる人や施設利用者について総合的に考えることができる。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション
	第２回	施設実習を振り返って
	第３回	障害をもつ人の生活実態（ＶＴＲ）
	第４回	ＶＴＲの内容についてディスカッション
	第５回	グループ決め、グループディスカッション
	第６回	テーマ選定
	第７回	グループレポート作成
	第８回	グループ発表内容の決定
	第９回	グループ活動①（調査）
	第 10 回	グループ活動②（調査及び発表準備）
	第 11 回	グループ活動③（発表準備）
	第 12 回	発表レジメ提出
	第 13 回	発表準備確認
	第 14 回	グループ発表①及び質疑応答（前半）
	第 15 回	グループ発表②及び質疑応答（後半）

授業に対する予習・復習		
	予習：　グループ活動の時期においては、発表に必要な資料等をあらかじめ調べるなどの予習をすること。	復習：　グループ発表のための準備で分からないことばや今まで習ったことはあるが忘れてしまった用語などを見直す。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 発表（６０％）、レポート（２０％）、授業態度（２０％）
教科書	『保育士養成課程　社会的養護内容』（春見静子他編、光生館）
参考文献	『最新保育資料集 2016』（ミネルヴァ書房） 参考文献は適宜紹介する。
注意事項	演習を中心とする。普段から児童問題に関心を持ち、主体的に授業に参加すること。

科目名	社会的養護内容	単位数	1	担当教員	萬燈　章雄

授業の内容	社会的養護を必要としている子どもたちの現状と支援について学ぶ。実践力を学習できるよう事例によるグループ討議を通して支援の方法を考えていきたい。また、支援するスタッフとしてどのような姿勢で望むことが必要なのか、倫理や責務についても学ぶ。処遇の結論よりもそれを導き出していくプロセスを学習できるようにしたい。
到達目標	1　アセスメントから支援方法まで事例を通してそのプロセスを習得する。 2　様々なケースに応じてどのように対応していくのかを理解する。 3　保育士としての倫理や責務について理解する。

授業計画		
	第1回	オリエンテーション～社会的養護の仕組みについて この授業のねらいについて
	第2回	事例を通して要保護児童について考える アセスメントと支援計画。ジェノグラムとエコマップを作成する
	第3回	演　習Ⅰ　児童養護施設を利用する 「悪いことをすると施設に入れる」と言われていた子
	第4回	演　習Ⅱ　自立支援計画を作成する 養護施設での支援計画について
	第5回	様々な児童福祉施設の利用について学ぶ 児童自立支援施設・障害児施設・情緒障害児短期治療施設など
	第6回	里親制度と児童福祉施設 施設の規模　その特性と目的について
	第7回	演　習Ⅲ　里親委託について 乳児院から里親委託へ　施設での担当保育士として考える
	第8回	児童福祉施設での生活 日常生活支援と専門技術
	第9回	演　習Ⅳ　インケア 養護施設で生じる生活上の問題に対処する
	第10回	障害児施設について　歴史的な経緯と現在のシステム 保護者の思いと障害児の処遇
	第11回	演　習Ⅴ　乳児院への入所事例 面会が遠のく保護者
	第12回	児童虐待の現状と対策 地域での見守り機能と多機関観連携
	第13回	演　習Ⅵ　児童虐待事例について 痣傷をつくって登園してきた子　保育所保育士としてどのように対応するか
	第14回	演　習Ⅶ　子どもの権利と保育士としての倫理 被措置児童虐待について考える
	第15回	まとめ 守秘義務と個人情報保護について

授業に対する予習・復習		
	予習：　事前に資料配布した場合は、課題に沿ってよく読んでおくこと。	復習：　配布した資料を読み返すとともに、メモなども含め管理を徹底すること。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 筆記試験（４０％）、発表（３０％）、授業態度（３０％）
教科書	プリントを配布します。
参考文献	適宜紹介します。
注意事項	どの現場においても個人情報の管理は極めて重要なファクターになります。そのことを踏まえ、配布する事例（実際の事例ではありません）及び資料また授業中のメモなど、その管理について日頃から常に意識し自己管理を徹底してください。この授業においては管理方法も授業態度として評価の対象とします。 受講マナーは守り、積極的な参加を期待します。

科目名	保育課程総論	単位数	2	担当教員	才郷　眞弓

授業の内容	・幼稚園や保育所について、法令から保育の基本を理解し、計画の意義を見出す。また、実習を意識した実際の子どもの姿の読み取り・記録を行い、子どもへの理解を深め、指導に生きる記録を目指す。計画の意義と子どもへの理解を深めながら、指導計画の立案の基礎を身につけていく。
到達目標	・教育課程・保育課程や指導計画の意義と目的を理解する。 ・子どもの姿を読み取りながら、子どもの発達や特徴を理解する。 ・基本的な指導計画の立て方を学び、計画・実行・評価・修正サイクルを理解する。

授業計画		
	第１回	ガイダンス、法令から保育所・幼稚園における保育とは何かを学ぶ。
	第２回	「保育」で重視していることは何かを幼稚園教育要領・保育所保育指針から読み取り、理解する。 ワーク形式で、子どもの姿の読み取り・記録・発表をする。
	第３回	「教育課程」「保育課程」における考え方や編成について理解する。 ワーク形式で、子どもの姿の読み取り・記録・発表をする。
	第４回	指導計画についての基本的な考え方を理解する。 ワーク形式で、子どもの姿の読み取り・記録・発表をする。
	第５回	「幼稚園教育要領」の内容に沿って、幼稚園の役割や幼稚園教育の基本について理解する。 ワーク形式で、子どもの姿の読み取り・記録・発表をする。
	第６回	資料を参考に、幼稚園の指導計画がどのような考え方のもとに作成されているか理解する。 ワーク形式で、子どもの姿の読み取り・記録・発表をする。
	第７回	「保育所保育指針」の内容に沿って、保育所の役割や保育所保育の基本について理解する。 ワーク形式で、子どもの姿の読み取り・記録・発表をする。教育課程・指導計画についての振り返りワークを行う。
	第８回	資料を参考に、保育所の指導計画がどのような考え方のもとに作成されているか理解する。 ワーク形式で、子どもの姿の読み取り・記録・発表をする。
	第９回	保育課程・指導計画についての振り返りワークを行う。 指導計画の作成手順や作成上の留意事項について理解する。
	第 10 回	０～２歳児の特徴を理解して子どもの姿をとらえ、簡単な指導計画のねらいや内容を作成する。
	第 11 回	３～５歳児の特徴を理解して子どもの姿をとらえ、簡単な指導計画のねらいや内容を作成する。
	第 12 回	個々で作成した簡単な指導計画のねらいと内容を使って、グループごとに具体的な指導計画を作成する。
	第 13 回	グループごとに作成した指導計画を基に、実践演習を行う。 実践演習の評価をグループごとにまとめる。
	第 14 回	前回の評価から計画を修正し、再度実践演習を行う。 実践演習の評価をグループごとにまとめる。
	第 15 回	指導計画の PDCA サイクルの理解を再確認する。 個々にまとめと振り返りを行う。

授業に対する予習・復習		
	予習：　「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」に目を通す。	復習：　「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」に目を通す。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない レポート（３０％）、課題（４５％）、発表（２５％）
教科書	
参考文献	『幼稚園教育要領』（文部科学省）、『保育所保育指針』（厚生労働省）、『教育・保育課程論』（岩﨑淳子ほか著、萌文書林）、『流れがわかる幼稚園・保育所実習』（浅川繭子ほか著、萌文書林）
注意事項	・レポートは毎回授業中に出された課題に対してまとめ、提出する。 ・課題は、個々での取り組みとグループワークでの取り組みと両方から評価する。 ・発表は、積極的に行なった場合に評価する。発表を聞く態度も評価に含む。

科目名	保育内容総論	単位数	1	担当教員	井口　正彦

授業の内容	子育てをめぐる社会情勢は、出生率の低下により少子化が加速するなか平成２７年４月より「子ども・子育て支援新制度」が施行された。また、国は幼稚園・保育園の一体型施設「認定こども園」の推進をしている。 このように、子どもに関する状況の変化がめまぐるしくあるが、行政の対応する施策以上に家庭や社会の価値観が多様化しているのが現状である。この授業は、その事を踏まえて保育所保育指針に基づく保育内容等の基礎的学習を通して乳幼児への適切な保育方法を学び、同時に保護者に対する支援について学習する。
到達目標	保育所の役割・保育の目標・保育の方法・保育所の社会的責任を深く理解し、実践できる。 乳幼児の発達の特性を各年齢別に学習し、理解を深め実際の保育現場で実践できる。 保育所における保護者に対する支援の基本を学び柔軟な思考力と豊かな表現力を身につけられる。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション
	第２回	保育現場の現状について
	第３回	保育所と幼稚園について
	第４回	保育所保育指針・総則について
	第５回	保育所保育指針・子どもの発達
	第６回	保育所保育指針・６か月未満児の保育の内容
	第７回	保育所保育指針・６か月から１歳３か月未満児の保育の内容
	第８回	保育所保育指針・１歳３か月から２歳未満児の保育の内容
	第９回	保育所保育指針・２歳児の保育の内容
	第 10 回	保育所保育指針・３歳児の保育の内容
	第 11 回	保育所保育指針・４歳児の保育の内容
	第 12 回	保育所保育指針・５歳児の保育の内容
	第 13 回	保育所保育指針・６歳児の保育の内容
	第 14 回	保育所保育指針・保育のねらい及び内容について
	第 15 回	保育所保育指針・保護者に対する支援について

授業に対する予習・復習		
	予習：	復習：　授業で学んだことを自宅で再度確認すること。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（〇）する／（　）しない 筆記試験（６０％）、レポート（２０％）、授業態度（２０％）
教科書	『認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針』＜原本＞ （発行所　株式会社チャイルド社）
参考文献	
注意事項	配布するプリント、資料等を使用し講義を行う。保育現場での事例を取り入れる。

科目名	保育内容総論	単位数	1	担当教員	石河　信雅

授業の内容	保育内容は「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」そして「養護」の領域があり、専門的にはそれぞれの領域を別々に学んでいる。しかし、保育実践（教育）の場面ではそれらが当然のごとく、遊びや・生活の中で一体的に進められるのである。ですから、保育内容総論は実際の保育場面で、各領域が統合して行われる実際を理解し、保育実践にいかに臨むかを事例に基づきながら学んでいく。
到達目標	1　保育所・幼稚園（幼保連携型認定こども園）に関する基本的事項を理解する。 2　子どもの発達と保育内容との関連について理解する。 3　各領域と保育内容について理解し、実際の保育場面での在り方を理解する。 4　保育の実際を総合的に理解し、今後の学びへの目標設定を再度見直す。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション：保育内容総論の学びの意義を理解する。また、講義についての受講態度や講義内容について理解し各自意欲化を図る。幼稚園・保育園の概要を知る。
	第２回	幼稚園教育要領・保育園保育指針（幼保連携型認定こども園保育要領）に基づく基本的な内容「５領域や養護」などについて概観し、「論」と「実践」の在り方を考察する。
	第３回	保育の実際・遊びを中心とした生活。実際の保育場面を想定し、環境構成の重要性と遊びを通して子供は成長し様々な学びをすることを学ぶ。
	第４回	発達と保育内容。子どもの発達と保育内容との関連性を実践例を通して学ぶ。そのことにより、子どもの発達を認識し実践の場面でどのように活用するかを理解し、認識しておくことの重要性を理解する。
	第５回	年齢相当の保育２・３歳児。各年齢の成長・発達を確認し発達にあった保育内容についてこれまでの学びを統合して考え、理解する。
	第６回	年齢相当の保育４・５歳児。各年齢の成長・発達を確認し発達にあった保育内容についてこれまでの学びを統合して考え、理解する
	第７回	環境と保育について学ぶ。保育は環境をとおして行うことが基本となることを理解し、環境構成の重要性を実際の例を通して学び、理解する。
	第８回	絵本と保育。保育場面での紙芝居や絵本の読み聞かせ・素話の方法などを実体験することにより、その在り方を学び保育場面での活かし方を考察する。
	第９回	望ましい保育者像。保育や保育者の質について考察し、どのような保育者を目指すかを考えていく。その際、共同的な学びを行い学生同士が他のものの考え方などを知り、お互いの学びを深める。
	第 10 回	保育をめぐる最近の動向。特に少子化や地域社会の在り方の変容など子どもが育つ環境は大きく変貌し、今後も社会環境の変化は続いていく。そのような変化の動向を知る方法や変化への対応について考察する。
	第 11 回	多様な保育ニーズ・・特に、気になる子の保育について学ぶ。近年幼児の社会も様々な外的要因から幼児の育ちに大きな影響が見受けられる。気になる子への保育の在り方を実践例をとおして学ぶ。
	第 12 回	保幼小の連携について学ぶ。近年、小１プロブレムなどの課題が見受けられる。子どもたちは育ちの環境の変化に大きな戸惑いを見せている。子どもの育ちの環境や育ちの連続性について再考し、保幼小の連携について考察を深めていく。
	第 13 回	保護者支援・地域との連携について学ぶ。核家族化などにより保護者の子育てへの支援が非常に重要になっている。支援の方法について事例をとおして学ぶ。また、地域社会との連携の在り方について事例をとおして学ぶ。
	第 14 回	これからの保育に求められるもの。未来を生きる子どもたちを想像し、いまどのような保育を行うことが必要なのかをこれまでの学びから考察し、保育の在り方を探求する。
	第 15 回	まとめ・・学び続ける保育者へ・・保育環境は常に流動している。保育者はその流動性を感知し、常に学び、その学びを保育に活かしていかなければならない。今何をなすべきかを考え、行動できる保育者となれるよう自分自身を見直す。

授業に対する予習・復習		
	予習：	復習：　講義内容について再度見直し自身で身に付けるようにする。また、関連内容について様々な方法を駆使して学びを深めるようにすること。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 筆記試験（５０％）、レポート（３０％）、授業態度（２０％）
教科書	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』＜原本＞ （内閣府・文部科学省・厚生労働省、チャイルド本社）
参考文献	講義の中で随時提示する。
注意事項	教科書については、教育・保育要領や教育要領、保育指針の原本を所持していれば、それを使用する。 特にチャイルド本社の物である必要はない。

科目名	保育内容（健康）	単位数	1	担当教員	茗井　香保里

授業の内容	「生涯健康」つまり 元気で活き活きと生きていく喜びに満ちた人生を送るためには、人生の基礎を培う乳幼児期にいかような経験をし、いかような力を養うことが必要なのかを考える。それらをふまえ、乳幼児の心身の健康増進と健やかな生活の確立を目指すための援助や指導、保育者の役割について学ぶことを目的とする。
到達目標	・乳幼児の健全な発育発達について学び、健康生活と運動の重要性について理解する。 ・安全教育について学び、生涯教育としての安全教育と生きる力について理解する。 ・保育における食育について学び、その重要性について理解する。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション 健康とは
	第２回	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の扱う「健康」について
	第３回	乳幼児の身体の発育発達
	第４回	乳幼児の社会的な発育発達
	第５回	健康生活と運動
	第６回	乳幼児期の運動乳幼児期の運動遊び
	第７回	幼児期の遊び、運動遊び
	第８回	乳幼児の基本的生活習慣の獲得
	第９回	前半のまとめ（グループワーク）
	第 10 回	安全教育と生きる力
	第 11 回	防災と危機管理
	第 12 回	食と健康
	第 13 回	病気の予防、衛生管理
	第 14 回	乳幼児の健康に果たす保育者の役割り
	第 15 回	まとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：　教科書を読んでおく。	復習：　授業を受けて興味をもった事柄について、文献を使って調べ理解を深める。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない ①筆記試験（４０％）、レポート（３０％）、課題（３０％） ②授業内容に対する意欲・関心については、プラスポイントとする。 ①を中心に②を考慮して総合的に評価する。
教科書	『[新版] 保育内容健康－遊びと園生活から育む豊かな心とからだ－』（宮下恭子、大学図書出版）
参考文献	『ライフキャリア発達の視点からの生涯健康と運動遊び』（茗井香保里、推敲舎）
注意事項	単位修得：授業回数の 2/3 以上の出席をした上で、授業内容を理解し事前準備や事後の展開などの学修をもって単位を授与する。

科目名	保育内容（健康）	単位数	1	担当教員	北洞　誠一

授業の内容	子ども達の自立を考えたとき、保育者としてどのように考えで子ども達に接して、働きかけたらいいのかという課題に対して、健康面からのアプローチをしていきます。子どものみならず、自分自身についての健康の考え方、健康的な過ごし方、運動の必要性、食の問題等を学びます。
到達目標	自分にとって健康とは何か？、また乳幼児期の健康とは何か？を人間の発育発達の特徴を学ぶことにより理解する。 またそのことによって、保育者の立場として、どのように子ども達に働きかけていくのかを学び理解する。

授業計画		
	第１回	健康の考え方
	第２回	保育内容健康のねらいと内容
	第３回	乳幼児期の発育発達１（身体の発達）
	第４回	乳幼児期の発育発達２（情緒、社会性、パーソナリテイの発達）
	第５回	ビデオ学習（乳児期）
	第６回	乳幼児期の運動の必要性
	第７回	最近の子どもの問題点
	第８回	前半のまとめと小テスト
	第９回	食育
	第 10 回	アレルギーの問題
	第 11 回	ビデオ学習（幼児期）
	第 12 回	健康な生活習慣１（衣服の着脱・排泄）
	第 13 回	健康な生活習慣２（清潔・睡眠）
	第 14 回	ビデオ学習（卒園に向けて）
	第 15 回	後半のまとめと小テスト

授業に対する予習・復習		
	予習：　課題について資料を検索する。	復習：　その日の課題について、関連分野を調べる。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 筆記試験（７０％）、レポート（２０％）、授業態度（１０％）
教科書	『新版保育内容健康』（宮下恭子編、大学図書出版）
参考文献	
注意事項	授業を妨害する行為（私語、無駄話、雰囲気を乱す行為等）やコミュニケーションを取ろうとしない行為に対して、退室もらうことがあります。明らかな授業放棄（他の作業に従事、長時間の居眠りや繰り返しの睡眠）に対しても同様です。指示に従わない場合は、欠席扱いか試験欠格者として扱います。体調が悪く、姿勢を維持できない場合は、いつでも教師に申し出ること。受け身で授業に参加するのではなく、保育の専門家となるべく積極的に知識や考え方を学ぼうとすること。

科目名	保育内容（人間関係）	単位数	1	担当教員	丸橋　聡美

授業の内容	保育内容の領域「人間関係」は、他の人々と親しみ支えあって生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養う観点から設けられている。人とのかかわりは、人と人との心が深く結び合い、豊かなかかわりがもてるような集団が形成されることをめざすことが必要である。 子どもが人とかかわる力を養っていくために保育者はどのような援助や指導を行なっていけばよいのかを学ぶ。
到達目標	子どもの人間関係について理解することができる。 子どもを捉える視点を身につけることができる。 子どもとのかかわり方や援助の仕方を身につけることができる。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション、子どもについて考える
	第２回	人とのかかわりとは
	第３回	保育の基本と人とのかかわり
	第４回	人とのかかわりに関する領域「人間関係」
	第５回	人とのかかわりの発達（0,1,2 歳児）
	第６回	人とのかかわりの発達（3,4,5 歳児）
	第７回	子どもの生活と人とのかかわり
	第８回	遊びのなかで育つ人とのかかわり
	第９回	遊びを通して育つ子どもの基本的な人とのかかわり
	第 10 回	遊びを通して育つ子どもの基本的な人とのかかわり（事例検討）
	第 11 回	人とのかかわりを育てる保育の実践
	第 12 回	人とのかかわりの育ちをみる視点
	第 13 回	人とのかかわりの育ちをみる視点（事例検討）
	第 14 回	人とのかかわりを育てる保育者の視点（事例検討）
	第 15 回	領域「人間関係」をめぐる諸問題

授業に対する予習・復習	予習：	復習：　授業の内容を理解し、実践（実習やボランティア活動等）に活かす。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない レポート（５０％）、課題（３０％）、授業態度（２０％）
教科書	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』・解説書
参考文献	『家庭支援の保育学』（編著　武藤安子・吉川晴美・松永あけみ、建帛社） 『地球市民を育てる―子どもと自然をむすぶ』（森下英美子・豊泉尚美　著、圭文社）
注意事項	講義を中心に行う。 必要に応じてビデオ視聴を取り入れ、資料を配布しながら進める。

科目名	保育内容（環境）	単位数	1	担当教員	中村　陽一

授業の内容	子どもは家庭・保育所・幼稚園・地域社会などの「物的環境」「人的環境」「自然環境」「社会環境」を中で生活し、その体験を通じて、人格形成の基礎となる豊かな心情、思考力や想像力、意欲や態度などが培われる。本講は、子どもの成長にとって望ましい「環境」と、保育者に求められる援助について理解することを目的とする。
到達目標	１．保育内容「環境」のねらいと内容を理解し、説明できる。 ２．子どもの成長に必要な自然体験と保育者の適切な援助について理解している。 ３．「環境を通した保育」の歴史と人物について、その概要を述べることができる。 ４．「環境を通した保育」の意義と、保育者に求められる援助について、自分の考えを述べることができる。

授業計画		
	第１回	保育と環境－「環境を通して行う保育」の特質、子どもの発達と環境との関わり
	第２回	領域「環境」のねらいと内容－「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」のねらいと内容
	第３回	子どもの生活と物的環境①－保育の環境構成（保育室、園舎、園庭など）
	第４回	子どもの生活と物的環境②－活動の展開と保育者の援助
	第５回	子どもの生活と自然環境①－自然体験と子どもの生活、季節を感じる保育
	第６回	子どもの生活と自然環境②－園外保育、年間計画と具体的活動
	第７回	動物の飼育－子どもと動物の関わり、飼育動物の特徴と配慮、実践例
	第８回	植物の栽培－子どもと植物の関わり、栽培植物の特徴と配慮、実践例
	第９回	子どもの生活と人的環境－保育者の役割、異年齢児との関わり、地域との関わり
	第 10 回	子どもの生活と社会環境－情報と生活、行事との関わり、地域や施設との関わり
	第 11 回	数量や文字に関する取り扱い－子どもの生活と数、子どもの生活と文字
	第 12 回	保育内容「環境」に関わる指導計画－長期の計画、短期の計画、見通しを持った環境構成
	第 13 回	保育内容「環境」に関わる教育思想の変遷－ルソー・オウエン・ペスタロッチ・フレーベル・倉橋惣三など
	第 14 回	小学校教育への連続性－保育内容「環境」と小学校教育の「生活科」「総合学習」への連続性
	第 15 回	授業の振り返りとまとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：　授業の終わりに次回の内容と予習の方法について伝える。	復習：　授業中に示す重要事項中心に復習すること。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 課題（７０％）、授業態度（３０％）
教科書	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針（原本）』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、チャイルド本社） 『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館） 『保育所保育指針解説書』（厚生労働省、フレーベル館） 『小学校学習指導要領』（文部科学省、東京書籍）
参考文献	必要に応じて紹介する。
注意事項	保育者を目指す者としての自覚と問題意識をもって講義に臨むこと。

科目名	保育内容（環境）	単位数	1	担当教員	北澤　明子

授業の内容	本講では、様々な環境（人・物・自然・社会の事象など）とかかわる子どもの実際の姿から、身近な環境とのかかわりに関する領域「環境」の基本的な考え方について学ぶ。また、子どもが環境と主体的にかかわっていくための保育者の役割について考えていく。
到達目標	①　環境を通して行う保育（教育）について説明することができる。 ②　幼稚園教育要領、保育所保育指針が示す「環境」のねらいや内容について説明することができる。 ③　身近な環境とのかかわりが子どもにどのような意義があるのかについて考えることができる。 ④　子どもが環境と主体的にかかわっていくための保育者の役割について考えることができる。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション－授業の進め方・参考文献等紹介－
	第２回	保育の基本と保育内容
	第３回	法的に定められた「環境」に関すること・環境を通した保育（教育）について
	第４回	保育における環境について考える①－ビデオ視聴より－
	第５回	保育における環境について考える②－ビデオ視聴より保育環境について班ごとに発表－
	第６回	保育内容・領域について
	第７回	領域『環境』のねらいと内容について
	第８回	身近な環境とのかかわり①－身近な自然とのかかわりについて事例から考える－
	第９回	身近な環境とのかかわり②－身近な自然とのかかわりについて葉っぱのワークから考える－
	第 10 回	身近な環境とのかかわり③－子どもが安心して環境とかかわるための保育者の役割とは－
	第 11 回	身近な環境とのかかわり④－身近なものとのかかわりについて事例から考える－
	第 12 回	身近な環境とのかかわり⑤－身近なものとのかかわりについておもちゃのワークから考える－
	第 13 回	環境構成について①－保育室の環境構成－
	第 14 回	環境構成について②－園庭の環境構成－
	第 15 回	環境とのかかわりについてのまとめ他

授業に対する予習・復習		
	予習：　『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』を読んでくること。	復習：　前回の内容の復習をして授業に臨むこと。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 筆記試験（７０％）、授業態度（３０％）
教科書	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館） 『保育所保育指針解説』（厚生労働省、フレーベル館）
参考文献	『地球市民を育てる～子どもと自然をむすぶ～』（豊泉尚美他、圭文社）
注意事項	・『幼稚園教育要領解説書』『保育所保育指針解説書』を忘れずに持ってきてください。 ・その他、必要な資料やレジュメは適宜、配布します。配布されたものを１冊にファイリングして毎回の授業の際に持参してください。

科目名	保育内容（言葉）	単位数	1	担当教員	浅木　尚実

授業の内容	乳幼児の言語能力の発達が、周囲の大人とのコミュニケーションから多大な影響を受けることを理解する。乳幼児の言語発達の過程を生活や遊びの事例を通して学び、発達を促す保育士の役割や保護者への援助の仕方を知る。また、子どもが楽しくことばを習得するための児童文化財の活用法を知る。
到達目標	・乳幼児のことばの発達過程の流れを理解する。 ・各月齢での発達過程のポイントを習得する。 ・ことばの発達を促す児童文化財についての知識や技術を習得する。

授業計画		
	第１回	ことばの発達と環境① 児童文化と子どもの言葉
	第２回	ことばの発達と環境② 赤ちゃんとのコミュニケーション：いないいないばあ論
	第３回	ことばの発達と環境③ 乳児のことばを育む：わらべうたとマザリーズ
	第４回	ことばの発達と環境④ １，２歳児のことばの発達と保育士の役割
	第５回	ことばの発達と環境⑤ ３，４歳児のことばの発達と保育士の役割・ことばの遅れについて
	第６回	ことばの発達と環境⑥ ５，６歳児のことばの発達と保育士の役割
	第７回	絵本と言葉
	第８回	子育て支援と絵本
	第９回	幼児の聞く力：ストーリーテリングとは？ おはなしの選び方・覚え方・語り方
	第 10 回	小学校準備と国語へのつながり・伝統的言語文化「昔話」の特色を学ぶ
	第 11 回	おはなしを語る　演習①　：おはなしを聞く
	第 12 回	おはなしを語る　演習②　：昔話を学ぶ
	第 13 回	おはなしを語る　演習③　：昔話を語る
	第 14 回	おはなしを語る　演習④　：語った話の振り返りをする
	第 15 回	まとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：　教科書をよく読んでくる。 前回の授業の課題を準備する。 おはなしを覚え、語れるように練習する。	復習：　講義のノートをまとめる。 おはなしの発表後、振り返りシートにまとめる。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない レポート（５０％）発表（４０％）授業態度（１０％）
教科書	『絵本から学ぶ子どもの文化』（浅木尚実編著、同文書院）
参考文献	『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』 『保育内容・言葉』（同文書院） その都度紹介する。
注意事項	

科目名	保育内容（音楽表現Ⅰ）	単位数	1	担当教員	高崎　和子

授業の内容	保育内容の領域「表現」について、子どもの音楽表現に関する内容を中心に、その指導理念の講義と具体的な指導方法の演習を行う。理論的な部分の講義の他に実技演習を十分に行い、保育の実践展開のための基礎的な力を養う。
到達目標	・授業で取りあげた歌やあそびを正確に表現することができる。 ・豊かな表現力をもって子どもと共に表現活動ができる。 ・乳幼児の発達の特徴を理解し、音楽的成長を促すために必要な援助ができる。

授業計画		
	第１回	領域「表現」の捉え方、領域「表現」のねらいと内容について
	第２回	子どもの発達と音楽表現活動について
	第３回	子どもの表現の援助者としての資質について
	第４回	保育における「わらべうた」あそびの意義と音楽的構造について
	第５回	絵かきうたの演習
	第６回	絵かきうたの創作・発表
	第７回	パネルシアター（1）保育の中でのパネルシアターの効果的な活用
	第８回	パネルシアター（2）うたを取り入れたパネルシアターの演習
	第９回	乳児のふれあいうたあそび
	第 10 回	生活のうた、手あそび
	第 11 回	季節のうたあそび
	第 12 回	行事と音楽
	第 13 回	手あそびの創作（1）テーマの設定・作品の制作
	第 14 回	手あそびの創作（2）作品の制作・練習
	第 15 回	発表・まとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：	復習：　毎回の授業内容を復習し、自分のものになっているかを確認すること。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない レポート（２０％）、発表（３０％）、実技（２０％）、授業態度（３０％）
教科書	『実用こどものうた』（田口雅夫・高崎和子共編、カワイ出版）
参考文献	
注意事項	・演習科目であるので出席を重視する。 ・グループによる創作活動は、自主的な態度で積極的に進めてほしい。

科目名	保育内容（造形表現Ⅰ）	単位数	1	担当教員	豊泉　尚美

授業の内容	この授業では、主に造形表現の教材研究を行います。 「音楽表現」や「人間関係」等、関連する教科と連携を図りながら、学生一人ひとりが自己表現力を身につけることができるよう支援していきます。
到達目標	パネルシアターなど、制作した作品を使って発表を行い、実習のさい子どもの前で、明るくのびのびと表現できる。 またその作品を通して子どもたちとよくかかわることができる。

授業計画		
	第１回	「表現」とは　保育者の表現力の必要性について
	第２回	自己紹介グッズ　制作（1）各自準備した素材を使ってデザインする
	第３回	自己紹介グッズ　制作（2）作品を完成する
	第４回	自己紹介グッズ　発表
	第５回	造形表現の教材についてーパネルシアター
	第６回	パネルシアター制作（1）各自制作する作品を決める
	第７回	パネルシアター制作（2）下絵を描く
	第８回	パネルシアター制作（3）彩色する
	第９回	パネルシアター制作（4）彩色する
	第 10 回	パネルシアター制作（5）彩色する・しかけを作る
	第 11 回	パネルシアター制作（6）しかけを作る
	第 12 回	表現のくふう・演出について
	第 13 回	パネルシアター発表（1）
	第 14 回	パネルシアター発表（2）
	第 15 回	パネルシアター発表（3）

授業に対する予習・復習		
	予習：　各自制作したい作品を選び、準備してくること。計画的に制作を進めること。	復習：　決められた時間内に作業が終わらない場合、持ち帰って作品を期限に提出すること。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 作品（４０％）、発表（４０％）、授業態度（２０％）
教科書	
参考文献	授業中に随時紹介する。
注意事項	・制作に要する材料費は自己負担とする。（授業開始後、Ｐペーパー代として約 800 円徴収する。） ・作品の提出期限を厳守すること

科目名	保育内容（音楽表現Ⅱ）	単位数	1	担当教員	高崎　和子

授業の内容	子どもの活動は一つの領域に留まらず、さまざまな領域に関連を持ちながら総合的に展開していくものであり、広い視野に立っての理解と実践が必要となる。 この授業では「音楽表現Ⅰ」で学んだ知識・技能を活かし、他領域と連携させながら総合的な表現活動について学んでいく。
到達目標	・子どもの特性に応じた題材とその展開方法を学び実践に移すことができる。 ・多くの教材と指導内容を身に着け、子どもに的確な援助をすることができる。 ・一つのテーマを他領域と関わりながら工夫して展開することができる。

授業計画		
	第１回	授業のねらいや進め方について
	第２回	新しい子どものうたあそび（1）季節のうたあそび
	第３回	新しい子どものうたあそび（2）じゃんけんあそび
	第４回	新しい子どものうたあそび（3）ふれあいあそび
	第５回	新しい子どものうたあそび（4）身体あそび
	第６回	外国のあそびうた
	第７回	行事と音楽
	第８回	リズミカルなうたあそび
	第９回	保育の中におけるリトミックの活用法
	第 10 回	リズム楽器を用いたあそび
	第 11 回	効果音としての音楽の使い方
	第 12 回	総合的な表現活動の研究（1）表現形態・テーマの設定・イメージづくり
	第 13 回	総合的な表現活動の研究（2）作品の制作
	第 14 回	総合的な表現活動の研究（3）総合練習
	第 15 回	発表・まとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：	復習：　毎回の授業内容を復習し、自分のものになっているかを確認すること。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない レポート（２０％）、発表（３０％）、実技（２０％）、授業態度（３０％）
教科書	『実用こどものうた』（田口雅夫・高崎和子共編、カワイ出版）
参考文献	
注意事項	・演習科目であるので出席を重視する。 ・グループによる創作活動は、自主的な態度で積極的に進めてほしい。

科目名	保育内容（造形表現Ⅱ）	単位数	1	担当教員	豊泉　尚美

授業の内容	この授業では、幼児の造形表現について理解を深め、子どもの表現意欲を高める、望ましい援助のありかたを考えます。 そのために、子どもの興味、関心から出発する「プロジェクト活動」を行いますが、その中でとくに＜子どもと自然をむすぶ＞ことを大切にしていきます。
到達目標	・子どもの発達に即した造形活動の指導計画が立案できる ・子どもの興味・関心から出発したテーマをもとに、グループで共同して制作し、表現することができる ・この授業内容が、ほかの保育内容（健康・人間関係・言葉・環境）と密接につながっていることが理解できる

授業計画		
	第１回	授業のねらいや進め方について
	第２回	造形活動の指導計画（1）　フィンガーペイント
	第３回	造形活動の指導計画（2）　スタンピング
	第４回	造形活動の指導計画（3）　コラージュ
	第５回	子どもの表現について　～絵を中心に～
	第６回	レッジョ・エミリアの幼児教育について　～プロジェクト・アプローチ～
	第７回	プロジェクトのテーマについて（子どもと自然をむすぶ）
	第８回	プロジェクトについてグループで話し合う
	第９回	制作活動（1）各グループで決めたテーマに沿った下描きをする
	第 10 回	制作活動（2）テーマに沿った作品を作っていく
	第 11 回	制作活動（3）　　同上
	第 12 回	制作活動（4）グループごとに作品を完成させる
	第 13 回	ドキュメンテーションを作成（1）　発表の方法について話し合い、プロジェクト活動を振り返る
	第 14 回	ドキュメンテーションを作成（2）　発表に必要な資料をまとめる
	第 15 回	グループでプロジェクトについて発表

授業に対する予習・復習		
	予習：　制作と表現に向かう過程について、グループでよく話し合い、素材や道具、資料等を準備すること	復習：　制作・発表に向けて、できるかぎり準備をしておくこと

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 課題（１０％）、作品（３０％）、発表（３０％）、授業態度（３０％）
教科書	『地球市民を育てる～子どもと自然をむすぶ～』（森下英美子・豊泉尚美　著、圭文社）
参考文献	『センス・オブ・ワンダー』（レイチェル・カースン著、新潮社） 『子どもたちの 100 のことば』（レッジョ・チルドレン編、学習研究社）等
注意事項	・プロジェクト活動のための素材、道具類は、教員の方で一部用意するが、その他は各グループで準備すること。

科目名	保育指導方法	単位数	2	担当教員	阿部　アサミ

授業の内容	・保育実践と理論の結びつきをはかり、保育者としての資質を高めることを目的とする。教育実習に向けて知識や態度を身に付けるだけでなく、社会人としてのマナーも培う。
到達目標	・基本的な幼児期の教育の考え方を学ぶとともに、実習生としての態度を身につける。 ・環境を通した教育や発達に応じた援助の在り方、及び遊びを通しての総合的な指導について理解することができる。

授業計画

第１回	前期オリエンテーション　アクティブラーニング（保育実技）	第 16 回	後期オリエンテーション（保育実技）
第２回	幼児教育の目的・環境を通した教育（保育実技）	第 17 回	「もの」を媒介に人とのかかわりを促す① 年齢や発達に応じた環境（小鳥作り）（保育実技）
第３回	３歳児の発達と遊び　ねらい・内容（保育実技）	第 18 回	「もの」を媒介に人とのかかわりを促す② 年齢や発達に応じた環境（水玉ぼうや作り）（保育実技）
第４回	４歳児の発達と遊び　ねらい・内容（保育実技）	第 19 回	「もの」を媒介に人とのかかわりを促す③ 年齢や発達に応じた環境（電車作り）（保育実技）
第５回	５歳児の発達と遊び　ねらい・内容（保育実技）	第 20 回	「もの」を媒介に人とのかかわりを促す④ 年齢や発達に応じた環境（木の実の製作）（保育実技）
第６回	模擬保育①各グループが毎週交代で発表する。	第 21 回	「もの」を媒介に人とのかかわりを促す⑤ 年齢や発達に応じた環境（ドングリ人形作り）（保育実技）
第７回	模擬保育②各グループが毎週交代で発表する。	第 22 回	保育者の役割
第８回	模擬保育③各グループが毎週交代で発表する。	第 23 回	「もの」を媒介に人とのかかわりを促す⑥（保育実技） 年齢や発達に応じた環境（ロケット作り）
第９回	模擬保育④各グループが毎週交代で発表する。	第 24 回	「もの」を媒介に人とのかかわりを促す⑦（保育実技） 年齢や発達に応じた環境（青い目の子猫作り）
第 10 回	模擬保育⑤各グループが毎週交代で発表する。	第 25 回	「もの」を媒介に人とのかかわりを促す⑧（保育実技） 年齢や発達に応じた環境（紙人人形作り）
第 11 回	模擬保育の振り返り（保育実技）	第 26 回	「もの」を媒介に人とのかかわりを促す⑨（保育実技） 年齢や発達に応じた環境（雪だるま人形作り）
第 12 回	一斉活動と自由遊びについて（保育実技）	第 27 回	劇遊び①グループで相談する。
第 13 回	遊びを通しての総合的な指導（保育実技）	第 28 回	劇遊び②全員で発表を行う。
第 14 回	年齢に応じ心情を育てる絵本の選択（保育実技）	第 29 回	幼児教育の現代的課題（保育実技）
第 15 回	まとめ	第 30 回	これまでのまとめ

授業に対する予習・復習	予習：　授業内で示された箇所を予習しておく。	復習：　シラバスで示された授業内容を復習する。
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない レポート（１０％）、課題（３０％）、発表（１０％）、授業態度（５０％）	
教科書	『子どもの育ちを支える　子どもと言葉』（浅見均、大学図書出版）	
参考文献	『事例で学ぶ保育内容「環境」』（無藤隆監修・福本真由美編集代表、萌文社） 『事例で学ぶ保育内容「人間関係」』（無藤隆監修・岩舘京子編集代表、萌文社） 『事例で学ぶ保育内容「健康」』（無藤隆監修・倉持清美編集代表、萌文社） 『事例で学ぶ保育内容「表現」』（無藤隆監修・浜口順子編集代表、萌文社）	
注意事項	・毎回実技を行う。のり、ハサミ、セロテープ、ホチキスなどを教科書と共に持参すること。 ・実習時期に向けた模擬保育（絵本の選択・製作・言葉かけの具体例・運動遊び他）を行う。 ・ファイリングを一冊用意すること。（授業内でくわしく伝える）	

科目名	乳　児　保　育	単位数	２	担当教員	岡本　良子

授業の内容	地域の子育て支援としての乳児保育の役割と保育の実践とを結びつけて理解できることを目的とする。 授業では、まず、乳児期の成長発達と援助について乳児保育の基礎的知識を習得する。次に、乳児保育の歩みや乳児保育が必要となる背景を理解し、さらに関係機関の役割や連携の必要性について学ぶ。
到達目標	１、乳児期の子どもの成長発達を促すための基礎的な保育方法がわかる。 ２、乳児保育の歴史を学ぶことにより社会保障としての乳児保育の意義がわかる。 ３、現在の子育て社会の問題から乳児保育の必要性がわかる。 ４、様々なソーシャル・サポートとの連携に基づいた子育て支援としての保育士の役割がわかる。

授業計画

第１回	オリエンテーション 乳児保育とは何か	第 16 回	２歳児とそれからの成長発達と援助 （　精神的発達と援助：見立て遊び　）
第２回	乳児の成長発達 保育園の１日	第 17 回	２歳児とそれからの成長発達と援助 （　精神的発達と援助：言葉　）
第３回	遊び 妊娠～誕生	第 18 回	乳児期の基本的生活習慣と援助 （　食事　）
第４回	新生児の成長発達と援助 （　成長発達の特徴　）	第 19 回	乳児期の基本的生活習慣と援助 （　排泄　）
第５回	新生児の成長発達と援助 （　保育内容と適切な援助　）	第 20 回	乳児期の基本的生活習慣と援助 （　健康　）
第６回	１～４か月児の成長発達と援助 （　形態的成長、機能的発達・精神的発達と援助　）	第 21 回	社会保障としての乳児保育の変遷 （　戦後の社会福祉基礎構造の確立　）
第７回	５～１２か月児の成長発達と援助 （　形態的成長　）	第 22 回	社会保障としての乳児保育の変遷 （　高度経済成長、社会福祉基礎構造改革　）
第８回	５～１２か月児の成長発達と援助 （　機能的発達と援助　）	第 23 回	乳児保育の必要性 （　親になるということ　）
第９回	５～１２か月児の成長発達と援助 （　精神的発達と援助　）	第 24 回	乳児保育の必要性 （　母子保健活動：妊娠期　）
第 10 回	１歳児の成長発達と援助 （　形態的成長、機能的発達と援助　）	第 25 回	乳児保育の必要性 （　母子保健活動：産後　）
第 11 回	１歳児の成長発達と援助 （　精神的発達と援助：対人関係　）	第 26 回	乳児保育の必要性 （　虐待の予防：適切なかかわり　）
第 12 回	１歳児の成長発達と援助 （　精神的発達と援助：言葉　）	第 27 回	乳児保育の必要性 （　虐待の予防：育児不安の原因　）
第 13 回	２歳児とそれからの成長発達と援助 （　形態的成長、機能的発達と援助　）	第 28 回	乳児保育の必要性 （　虐待の予防：育児不安への対策　）
第 14 回	２歳児とそれからの成長発達と援助 （　精神的発達と援助：自我の芽生え　）	第 29 回	乳児保育の必要性 （　虐待の予防：要補完　）
第 15 回	前期の振り返りとまとめ	第 30 回	１年間の振り返りとまとめ

授業に対する予習・復習	予習：　日常生活の場やニュース・新聞等で子育てに関する出来事に関心を持ち、問題意識を持って授業にのぞむこと。	復習：
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 筆記試験（７０％）、授業態度（３０％）	
教科書	授業にてプリント配布する。	
参考文献	『新・乳児の生活と保育』（松本園子　編著、ななみ書房）、 『乳児の発達と保育―遊びと育児』（園と家庭を結ぶ「げんき」編集部、エイデル研究所） 『乳児保育』（CHS 子育て文化研究所、萌文書林） 『保育士のための福祉講座　ソーシャルワーク』（保正友子　編著、相川書房）	
注意事項	授業中の私語、携帯電話等の使用、飲食、化粧等講義に支障となる行為は禁止する。	

科目名	乳　児　保　育	単位数	２	担当教員	高根沢　昭

授業の内容	乳児保育に必要な基礎知識・技術を習得し、保育所、他の保育施設における保育の現状について理解する。子ども達の最善の利益を目指す保育者としての資質を身につけるために保育現場の状況を踏まえ、より実践的な授業を行っていく。授業では歌や手遊び・乳児の玩具や遊び方を紹介したり保育現場の事例なども取り入れたりしていく。
到達目標	１．乳児保育の意義と、心身の発育・発達の特徴の基礎を学び、個々に合わせた保育の大切さを理解する。 ２．３歳未満児の発育・発達をふまえ、保育者としての具体的な援助方法を理解する。 ３．集団における保育や子どもを取り巻くより良い環境づくりについて考えることができる。 ４．子どもとその家族に対する支援や地域の子育て支援のあり方について考えることができる。

授業計画

第１回	オリエンテーション 乳児保育とは何か・乳児保育の歴史	第 16 回	乳児の環境１（環境設定） 環境を整える意味と効果
第２回	保育所の役割と保育者の役割 社会の変化と保育者に求められるもの	第 17 回	乳児の環境２（人的環境） 設定するだけの環境では子ども達は育たない
第３回	保育所における乳児保育１ 乳児保育の位置づけとその意味	第 18 回	乳児の遊び１ 年令に適した玩具とその遊び方
第４回	保育所における乳児保育２ 保育所の現状と課題	第 19 回	乳児の遊び２ 歌や手遊び
第５回	その他の乳児保育 乳児保育の場	第 20 回	乳児の遊び３ 保育の引き出しとその中身
第６回	乳児の発達と保育内容１ 誕生～６カ月　６カ月～１歳３カ月	第 21 回	保育課程と指導計画
第７回	乳児の発達と保育内容１ １歳３カ月～２歳　２歳児	第 22 回	指導計画の作成と個別計画の必要性
第８回	身体の発達と保育１ 身体を動かす	第 23 回	乳児保育と記録の考え方１ 児童票と保育日誌
第９回	身体の発達と保育２ 手を使う	第 24 回	乳児保育と記録の考え方２ 連絡帳の書き方・演習１（０歳児）
第 10 回	基本的生活習慣と保育１ 食事１～離乳食について	第 25 回	乳児保育と記録の考え方３ 連絡帳の書き方・演習２（１・２歳児）
第 11 回	基本的生活習慣と保育２ 食事２～乳児の食事の問題点について	第 26 回	乳児保育における連携 発達の連続性の保障・家庭との連携
第 12 回	基本的生活習慣と保育３ 排泄	第 27 回	乳児保育における連携２ 職員間の連携・協働
第 13 回	基本的生活習慣と保育４ 睡眠その他の生活習慣	第 28 回	乳児保育における連携３ 地域や学校との連携・子育て支援の場
第 14 回	対人関係の発達と保育１ ことば	第 29 回	保育現場に立つということ どんな保育者を目指すのか・保育現場の実情と展望
第 15 回	対人関係の発達と保育２ ひととのかかわり	第 30 回	乳児保育のまとめ 子ども達との関係性が支える保育の根幹

授業に対する予習・復習	予習：　次回の授業内容についてテキスト等で事前学習をしてくること。 自分の身の回りの保育に関するニュース等に関心を持ち、まとめておく。	復習：　授業の中で投げかけられた問題や課題について各自が考えてみるようにする。
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 筆記試験（５０％）、レポート（２０％）、課題（２０％）、授業態度（１０％）	
教科書	『乳児の生活と保育』（松本園子　編著、ななみ書房）	
参考文献	『乳児保育』（加藤敏子　編著、萌文書林）、 『乳児保育新版』（増田まゆみ　編著、北大路書房） 『保育所保育指針解説書』（厚生労働省編、フレーベル館）	
注意事項	課題の中に授業の終わりに提出するリフレクションシートの評価も含める。	

科目名	指　導　技　術	単位数	2	担当教員	鹿戸一範・小口偉

授業の内容

保育現場で必要とされる指導技術のうち、特に音楽と造形について実践的に学ぶ。

〈音楽〉：　多くの保育現場で実際に使用されている「生活のうた」を中心に、ピアノ伴奏、及び弾き歌いの技術を学ぶ。また、コードネームの基礎を学び、簡単な伴奏づけを実践する。

〈造形〉：　子どもの実際の活動をもとにした個人・合同・共同制作を行うことを通して、環境づくりのための留意点について考察する。また、保育で取り入れられる造形的表現活動と、他領域や子どもの育ちとの関連性について理解を深める。

到達目標

①幼稚園教諭や保育士として現場で必要となる様々な「生活のうた」の弾き歌いができる。
②コードネームを用いた簡単な伴奏づけができる。
③表現活動や遊びを援助していくための視点（道具や素材といった物的側面と、心的側面から）の獲得と、保育者として知っておきたい指導法のためのポイントを身につける。

授業計画

第１回	オリエンテーション（講義内容・履修上の注意等）	第 16 回	オリエンテーション
第２回	生活のうた「おはよう」 ハ長調の主要三和音とコードネーム①	第 17 回	新聞紙での遊び１ 「つなげる」
第３回	生活のうた「おはようのうた」 ハ長調の主要三和音とコードネーム②	第 18 回	新聞紙での遊び２ 「まとう」
第４回	生活のうた「夜が明けた」 ハ長調の主要三和音とコードネーム③	第 19 回	新聞紙での遊び３ 「まみれる」
第５回	生活のうた「おかたづけ」「おへんじハイ」 ハ長調の主要三和音とコードネーム④	第 20 回	幼児とクレヨン、パス１ 「スクリブル」
第６回	検定①　「おはよう」「おはようのうた」「夜が明けた」「おかたづけ」「おへんじハイ」	第 21 回	幼児とクレヨン、パス２ 「操作する」
第７回	生活のうた「おべんとう」 ヘ長調の主要三和音とコードネーム	第 22 回	幼児とえのぐ えのぐを体験する
第８回	生活のうた「おかえりのうた」 ト長調の主要三和音とコードネーム	第 23 回	幼児と粘土 粘土を体験する
第９回	生活のうた「おむねをはりましょ」 三和音の種類とその他のコードネーム①	第 24 回	幼児とハサミ ハサミを体験する
第 10 回	生活のうた「おやつ」 三和音の種類とその他のコードネーム②	第 25 回	仕掛けを用いた指導教材制作１ 試作から仕組みを理解する
第 11 回	検定②　「おべんとう」「おかえりのうた」「おむねをはりましょ」「おやつ」	第 26 回	仕掛けを用いた指導教材制作２ 本制作開始
第 12 回	生活のうた「さよならのうた」 コードネームを用いた伴奏づけ①	第 27 回	仕掛けを用いた指導教材制作３ 本制作仕上げ
第 13 回	生活のうた「おててをあらいましょう」「歯をみがきましょう」　コードネームを用いた伴奏づけ②	第 28 回	指導教材制作４ 工作　「まわる」をテーマとしたおもちゃ作り
第 14 回	生活のうた「こもりうた」 コードネームを用いた伴奏づけ③	第 29 回	季節を通した制作
第 15 回	検定③　「「さよならのうた」「おててをあらいましょう」「歯をみがきましょう」「こもりうた」	第 30 回	まとめ　振り返り

授業に対する予習・復習

予習：　〈音楽〉実習や将来の現場での活動をイメージして、授業時間以外での個人練習は必ず行い、課題曲の弾き歌いを確実にできるようにしておく。

復習：　〈造形〉授業中の制作物について振り返り、ねらいや制作手順に関することなどをノートにまとめておく。

成績評価の方法

試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない

〈音楽〉：レポート（２０％）、実技（６０％）、授業態度（２０％）
〈造形〉：レポート（２０％）、課題（４０％）、授業態度（４０％）

教科書

〈音楽〉：授業時にプリントを配布する
〈造形〉：『保育園・幼稚園の造形あそび』（鮫島良一・馬場千晶、成美堂出版）

参考文献

〈造形〉：『楽しい造形表現』（子ども造形表現研究会、圭文社）
『造形と子ども 子どもの造形表現ドキュメント』（加藤裕之・鮫島良一・菅原順一、すずき出版）

注意事項

〈造形〉：作品の出来栄えは重視しません。誠実に、積極的に取り組むこと。

科目名	指　導　技　術	単位数	２	担当教員	宮林　佳子

授業の内容	幼児の発達段階に沿った、興味・関心を引き出せるような活動方法を身につける。各教科で培った知識を総合的に活用し、保育者として必要な心構えや専門性を高め、保育現場をイメージしながら指導技術を習得する。 未分化な子ども達にとって園生活は関係性と連続性が求められる。子ども達の感性を広げていけるよう、物を作る描くということを中心に様々な保育技術を習得する。 子ども達一人ひとりの気持ちに寄り添える言葉や態度を身につけていく。
到達目標	・　子どもの発達の特徴を知り、興味・関心を探れるようになる。 ・　子どもに適した絵本やおはなしを選ぶ力をつける。 ・　子どもの気持ちや表現に寄り添う力をつける。 ・　保育者としての資質を理解し協力しながら立案・実践・発表を進めることができる。

授業計画

第１回	授業の概要説明（構成、展開、目的、成績評価など）	第 16 回	授業の概要説明（構成、展開、目的、成績評価など）
第２回	保育園の基本的な生活と一日の活動	第 17 回	幼児の造形表現の活動のねらいと指導上の留意点
第３回	絵本の世界を楽しみながら想像を広げる	第 18 回	乳児期の活動　手作りオモチャ　１ （音のするオモチャ）
第４回	季節別・年齢別教材の作成　１ （３歳児の発達や興味・関心に沿った実践）	第 19 回	乳児期の活動　手作りオモチャ　２ （手の発達を促すオモチャ）
第５回	第４回の活動を基に計画を立てる	第 20 回	季節別・年齢別教材の作成　４　（指人形）
第６回	第５回の計画を基に実践を発表し自己評価する	第 21 回	季節別・年齢別教材の作成　５　（絵の具と感覚遊び）
第７回	絵本の選び方	第 22 回	季節別・年齢別教材の作成　６　（幼児期の特徴的表現）
第８回	季節別・年齢別教材の作成　２ （４歳児の発達や興味・関心に沿った実践）	第 23 回	実習に向けて第１７回～２３回の授業を基に考え、指導案を作成する
第９回	第８回の活動を基に計画を立てる	第 24 回	第２３回の計画を基に実践を発表し自己評価する
第 10 回	第９回の計画を基に実践を発表し自己評価する	第 25 回	季節別・年齢別教材の作成 まとめ （線と面と立体を組み合わせた表現）
第 11 回	季節別・年齢別教材の作成　３ （５歳児の発達や興味・関心に沿った実践）	第 26 回	第２５回の活動を基に計画を立てる
第 12 回	第１１回の活動を基に計画を立てる	第 27 回	第２６回の計画を基に実践を発表し自己評価する
第 13 回	第１２回の計画を基に実践を発表し自己評価する	第 28 回	みんなでつくる造形表現
第 14 回	子ども達の気持ちに寄り添う保育とは（言葉かけ）	第 29 回	子ども達の気持ちに寄り添う保育とは　（資質向上）
第 15 回	前期の振り返りとまとめ	第 30 回	一年間の振り返りとまとめ

授業に対する予習・復習	予習：　授業の終わりに次回の内容と予習の方法について伝える。	復習：　毎回授業後、内容をまとめ自分の課題を見つけるようにする。
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない レポート（３０％）、課題（２０％）、発表（２０％）、授業態度（３０％）	
教科書	『絵の具大好き　絶対描きたくなる！幼児の回が活動季節別・年齢別題材５０』（宮林佳子、明治図書）	
参考文献	必要に応じて紹介する	
注意事項		

科目名	教　育　相　談	単位数	2	担当教員	大熊　美佳子
授業の内容	教育相談は，家庭や幼稚園における子どものさまざまな問題について，その望ましい解決に向けて助言や援助指導を行う実践活動です。本講義では，保育者として，子どもや周囲の人々に適切な支援を行うために必要な基礎知識，技法，心得の習得を目的とします。				
到達目標	①子どもの発達にともない変化するさまざまな問題を理解する ②教育相談の基礎知識を習得する ③相談実践に必要な援助技術を学ぶ				

授業計画		
	第１回	教育相談とは
	第２回	子どもの発達にともなう問題①（新生児期～タドラー期）
	第３回	子どもの発達にともなう問題②（幼児期）
	第４回	子どもの発達にともなう問題③（児童期以降）
	第５回	子どもの心と親子関係①（子どものリスク，親のリスク）
	第６回	子どもの心と親子関係②（子育てに関する親の有能性）
	第７回	保育者の思いと保護者の思い
	第８回	子どもの気になる行動①（発達障害の特徴）
	第９回	子どもの気になる行動②（発達障害に気づくポイント，配慮すべきポイント）
	第 10 回	子どもの気になる行動③（発達検査と知能検査）
	第 11 回	子どもの気になる行動④（子どもへの支援の事例より）
	第 12 回	カウンセリングの技法①（ロジャーズの理論から）
	第 13 回	カウンセリングの技法②（相談現場での対応）
	第 14 回	保護者への支援①（支援の実態）
	第 15 回	保護者への支援②（相談の具体的事例より）

授業に対する予習・復習	予習：	復習：　授業ノート，プリントを中心に，各回の授業内容を復習し，疑問点は次回に確認すること。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（〇）する／（　）しない 筆記試験（６０％）、課題（２０％）、授業態度（２０％）
教科書	特になし
参考文献	講義の中で適宜紹介します。
注意事項	講義形式で行います。 相手の話に耳を傾けること，相手の心に寄り添うことなど教育相談において必要な心得を身につけ，将来に役立てるためにも，自分が相談を受ける立場であったら，どのように対応するかをイメージしながら授業に参加する態度を望みます。

科目名	教　育　相　談	単位数	2	担当教員	加賀谷　崇文

授業の内容	教育相談は,家庭や幼稚園における子どものさまざまな問題について、その望ましい解決に向けて助言や援助指導を行なう実践活動である。昨今子どもの成長過程を認識せずに親になっている大人が少なからずいて解決困難な場合が生じており、教育相談活動は複雑な様相を呈してきた。 授業では、援助の前提となる子どもの発達とよく起こりえる問題を紹介していく。また、相談の実践に必要な援助技術として、心理カウンセリングなどの技法を紹介していく。
到達目標	1. 相談の方法を知ることができる。 2. 教育場面での相談のイメージを具体的に持つことができる。 3. 子どもの心の問題に対して共感的理解を持つことができる。

授業計画		
	第１回	教育相談とは何か？
	第２回	教育相談の意義と歴史的背景
	第３回	教育相談とカウンセリング
	第４回	カウンセリングの技法（クライエント中心療法の理論）
	第５回	カウンセリングの技法（ロジャースのカウンセリングを学ぶ）
	第６回	カウンセリングの技法（その他の技法）
	第７回	子どもの発達
	第８回	子どもに多く見られる心理的問題の基本的な考え方
	第９回	子どもに多く見られる心理的問題の援助法
	第 10 回	子どもに多く見られる心理的問題の事例
	第 11 回	発達の問題（言語障害、自閉症、知的障害）
	第 12 回	発達の問題（ＡＤＨＤ　、ＬＤ）
	第 13 回	保護者の悩み
	第 14 回	保護者との手紙
	第 15 回	まとめ

授業に対する予習・復習	予習：　幼稚園教育要領を読んでおく。	復習：　授業内容を振り返る。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない レポート（９０％）、授業態度（１０％）
教科書	
参考文献	
注意事項	自分自身が将来現場に出ることを想定して、当事者意識を持って授業に臨むこと。

科目名	教　育　相　談	単位数	2	担当教員	伊藤　明芳

授業の内容	教育相談は、保育者が相談者（主に保護者）に対して、家庭や幼稚園における子どもの教育上の問題について、その望ましい解決に向けて助言や援助指導をおこなう実践活動である。背景に発達や環境の要因があると推測される子どもの問題行動から保護者の養育不安まで、相談内容は多岐にわたる。これからの保育者には保護者の心へのサポートもより意識的に求められるようになると考えられる。 本講義では、教育相談の基礎的知識の習得と現場で活きる教育相談の実践的能力の育成を図る。さらに、保育者自身の心の安定と成長にもアプローチしたいと考えている。
到達目標	カウンセリング等相談の基本を学び、それを保育現場での教育相談の実践に活かすことを考えられる。そして、保育者として多様な子どもや保護者の問題を理解し、相談者の心に寄り添う相談実践を勇気を持っておこなえるようになる。 ①相談の意義、方法等の基本の習得。 ②保育者として、相談者の心に寄り添う教育相談の実践をおこなう心を養う。

授業計画		
	第１回	１．イントロダクション 教育相談とは何か
	第２回	２．体験から学ぶ相談に必要なこと ロールプレイ(1)［相談を受ける時の基本姿勢］
	第３回	ロールプレイ(2)［意思を通じあうこと］
	第４回	３．相談実践の基本と応用 教育相談の基礎(1)［概要］
	第５回	教育相談の基礎(2)［実践へのヒント］
	第６回	教育相談のためのカウンセリング活用
	第７回	教育相談のための心理アセスメント
	第８回	教育相談のプロセス
	第９回	教育相談の技法
	第 10 回	４．事例から学ぶ教育相談 子どもの心の発達・心の問題(1)［登園渋り］
	第 11 回	子どもの心の発達・心の問題(2)［逸脱行動］
	第 12 回	子どもの心の発達・心の問題(3)［保護者の心］
	第 13 回	５．保育者の心の健康を育む カウンセリングの理論
	第 14 回	エンカウンター実習
	第 15 回	まとめと今後へのアドバイス

授業に対する予習・復習		
	予習：	復習：　知識の定着をおこない、学んだことを実際の場面でどう活かすか考えること。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（〇）する／（　）しない 筆記試験（８０％）、課題（２０％）
教科書	特に指定しない
参考文献	講義の中で必要に応じて適宜紹介する
注意事項	講義を中心におこなう。実際の事例などをあげ、受講生にわかりやすい内容を心がけたい。その他、ロールプレイ、エンカウンター等も取り入れ、相談やカウンセリング等の体験的な学習もおこないたい。 相談を受けて人に関わるとき、保育者には人間的かつ専門的な総合力が必要になる。そこで、受講者には積極的に授業に参加し、自ら学び考える意欲を持つことが求められる。

科目名	教　育　相　談	単位数	2	担当教員	今水　豊

授業の内容	教育相談は、家庭や幼稚園における子どものさまざまな問題について、その望ましい解決に向けて助言や援助を行う実践活動である。もちろんその有用性は保育園においても同様である。 授業ではまず援助の前提となる子どもの発達の総まとめをする。次に子どもに起こりうる問題と相談場面の実際を紹介していく。
到達目標	本科目では、以下の３点を達成目標とする。 ・発達を多角的にとらえることができる ・発達の知識と臨床心理学的な知識を援助活動に活かすことができる ・相談に必要な臨床心理学的な見立てについて理解する

授業計画		
	第１回	Ⅰ 教育相談とは何か　相談の必要性
	第２回	Ⅰ 教育相談とは何か　相談のながれ
	第３回	Ⅱ 子どもの発達の特徴　発達の表の作成（身体・運動・言語の発達）
	第４回	Ⅱ 子どもの発達の特徴　発達の表の作成（認知・親子関係の発達）
	第５回	Ⅱ 子どもの発達の特徴　発達の表の作成（親子関係の発達）
	第６回	Ⅱ 子どもの発達の特徴　発達の表の作成（社会心理的発達）
	第７回	Ⅲ 子どもに見られる発達・心理的問題　A. 発達障害の実際
	第８回	Ⅲ 子どもに見られる発達・心理的問題　A. 特別支援教育
	第９回	Ⅲ 子どもに見られる発達・心理的問題　A. 養育者の実際
	第 10 回	Ⅲ 子どもに見られる発達・心理的問題　B. 虐待
	第 11 回	Ⅲ 子どもに見られる発達・心理的問題　C. 大震災と PTSD
	第 12 回	Ⅲ 子どもに見られる発達・心理的問題　C. 心のケアの実際
	第 13 回	Ⅳ 相談の実際　教育相談の意義
	第 14 回	Ⅳ 相談の実際　遊戯療法
	第 15 回	Ⅳ 相談の実際　遊戯療法の実際

授業に対する予習・復習		
	予習：　普段から上記のキーワードに関する記事やニュース、話題を意識しておくことが望ましい。	復習：　わからない内容や疑問に思うことは、授業後質問して理解すること。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 筆記試験（５０％）、課題（３０％）、授業態度（２０％）
教科書	適宜、資料を配布する。
参考文献	授業にて適宜紹介する。
注意事項	講義形式で行う。 教育相談では、保護者の相談ごとに耳を傾け、その心情を理解する謙虚な態度が不可欠である。 その姿勢を身につけるためにも、授業をしっかり聞き理解するという構えを求める。

科目名	教　育　実　習	単位数	4	担当教員	大熊・阿部・北澤
授業の内容	教育実習は、幼稚園教諭の免許状を取得するための必須科目である。既に学習した講義、演習等の専門教育科目を総合的に整理して、幼稚園教育現場での園児、教職員等とのかかわりと実践活動を通して幼稚園教諭（保育者）としての資質を習得していくことを目的とする。				
到達目標	・教育実習の意義を理解し、課題をしっかり持ち実習に臨むことができる。 ・学校で学んだことと保育者としての能力や資質をしっかり身に付けることができる。 ・実習日数 2 週間（うち実質 10 日間以上）を最後まで行う。				
授業計画	○前期：見学、観察実習・参加実習 実際の教育現場で、園児、教諭（保育者）の実践活動の状況を見学、観察したり、参加することにより幼稚園教育の意義、教職員の職務内容や、人的、物的環境が、実際の教育の中で、どのように活かされているかを理解する。また、 （1）一週間と一日の教育の流れを理解する。 （2）園児の活動の様子を理解する。 （3）教諭（保育者）の職務内容と教育活動を理解する。 （4）教諭（保育者）としての自覚を確認する。 ○後期：参加実習・指導実習 前期実習での体験を基に、園児と積極的に関わり、指導の実地経験を積む。学校で学んだ理論や技術を実際の現場での指導体験と結びつけ、自らの保育観、目標を確立する。 （1）幼稚園教育の実際を体験し、教諭（保育者）としての指導力、技能を身につける。 （2）教諭（保育者）の立場に立って指導計画を立案し、その指導を体験する。 （3）園児の安全、衛生面に対する配慮と措置について習得する。 （4）一人一人の園児についての理解を深め、適切な対応と指導を体験する。 （5）教諭（保育者）としての責任感、使命感を学び、園児のための環境づくりを考える。				
授業に対する予習・復習	予習：　実習に必要な教材研究を行う。 ピアノの練習をしっかり行う。	復習：　実習後に自分の振り返りを行い、自己課題を明確にする。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない レポート（３０％）、課題（３０％）、授業態度（３０％）、諸手続き（１０％）				
教科書	『実習の手引き』（実習委員会）				
参考文献	必要に応じて紹介する。				
注意事項	各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また、実習提出書類の遅延、授業態度の怠惰等は「実習派遣規制基準」によって禁じられており、実習派遣ができなくなるので十分に留意すること。				

科目名	幼児教育研究	単位数	1	担当教員	大熊・阿部・北澤

授業の内容	教育実習の準備を行う。教育実習と平行して行われる授業で、実習の目的、幼稚園の機能、幼稚園教諭の職務内容や実習手続き書類の作成について学習をする。また、幼稚園教育要領の内容を理解し、実習生として幼稚園生活に参加することをイメージする。子どもを理解し、援助の仕方に関する理解を深め、観察、参加、責任実習の段階における実習内容、実習記録、指導計画について学習することを目的とする。
到達目標	・教育実習の事前準備としての心構えをしっかり理解し、態度や意欲を持つようにする。 ・積極的に授業に参加をし、実習の課題を明確できる。 ・保育者としての能力・資質を身に付けつることがどういうことか理解をし、実習で生かせるようになる。

授業計画

第１回	幼稚園教育実習の意義、目的、心得	第 16 回	後期実習の目的（参加、責任指導実習）
第２回	教育実習の目的理解	第 17 回	後期実習参加の心得
第３回	前期実習の目的（参加、観察実習）	第 18 回	部分、責任指導実習の留意点
第４回	前期実習参加の心得	第 19 回	実習日誌の作成指導①
第５回	実習手続き書類の作成指導①	第 20 回	実習日誌の作成指導②
第６回	実習手続き書類の作成指導②	第 21 回	実習日誌の作成指導③
第７回	オリエンテーションについて	第 22 回	指導計画案の作成指導①
第８回	持ち物、身だしなみについて	第 23 回	指導計画案の作成指導②
第９回	幼稚園の一日の流れと実習日誌の書き方	第 24 回	指導計画案の作成指導③
第 10 回	参加、観察実習の留意点	第 25 回	指導計画案の作成指導④
第 11 回	実習日誌の作成指導①	第 26 回	実習課題と準備の説明
第 12 回	実習日誌の作成指導②	第 27 回	オリエンテーション報告書、実習報告の作成
第 13 回	実習課題と準備の説明①	第 28 回	実習評価と反省
第 14 回	実習課題と準備の説明②	第 29 回	教育実習全体を通しての反省
第 15 回	実習評価と反省	第 30 回	まとめ

授業に対する予習・復習	予習：　手遊び・絵本の教材研究をする。保育技術・方法等の知識を増やし。実践できるようにする。	復習：　授業を通し、足りない部分の補足をしっかり行う。	

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない レポート（３０％）、課題（３０％）、授業態度（３０％）、諸手続き（１０％）
教科書	『実習の手引き』(実習委員会)
参考文献	
注意事項	各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また、実習提出書類の遅延、授業態度の怠惰等は「実習派遣規制基準」によって禁じられており、実習派遣ができなくなるので十分に留意すること。

科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）	単位数	2	担当教員	豊泉・丸橋・大熊・阿部

授業の内容	これまでの教科に関する科目及び教職に関する科目の学修や実習経験を踏まえ、保育士・幼稚園教諭として必要な以下の４つの事項を中心に、学びを振り返り、将来の教職生活のために自己課題を見つける。 ①　使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項　②　社会性や対人関係能力に関する事項 ③　幼児理解や学級経営等に関する事項　④　教科・保育内容等の指導力に関する事項 尚、学生が主体的に学ぶことを基本とし、これまで履修してきた科目や実習のつながりを理解し、総合的に保育をとらえることができるよう演習を展開する。
到達目標	幼児教育学科のディプロマ・ポリシーに照らして、本演習を通して保育士・幼稚園教諭として必要な以下の資質能力を身につける。 (1)保育者としての幅広い専門知識を身につける (2)柔軟な思考力と豊かな自己表現力を身につける (3)他者を尊重できるコミュニケーションの力を身につける (4)子どもの最善の利益のために働くことができる (5)誠実で責任感が強く、社会人としての良識をわきまえた言動ができる

授業計画		
	第１回	保育・教職実践演習（幼稚園）の授業の進め方について・これまでの学修の振り返りについて
	第２回	保育者の役割、職務内容、子どもに対する責任等について①（講義・レポート）
	第３回	保育者の役割、職務内容、子どもに対する責任等について②（グループ討議）
	第４回	学級経営、学級経営案の作成について（講義・レポート）
	第５回	幼児の理解について（講義・グループ討議）
	第６回	組織の一員としての自覚（講義・レポート）
	第７回	保護者や地域の関係者との人間関係の構築について（グループ討議・ロールプレイング）
	第８回	現職幼稚園教諭との意見交換
	第９回	感性と認識についてのフィールドワーク
	第 10 回	保育内容「表現」のグループワーク
	第 11 回	総合的表現活動の発表・鑑賞
	第 12 回	子どもの興味・関心から出発する活動の理解（グループ討議・ロールプレイング）
	第 13 回	子どもの興味・関心から出発する活動のドキュメンテーション（グループワーク）
	第 14 回	ドキュメンテーショをもとにした発表
	第 15 回	授業全体の振り返り・資質能力の確認、まとめ

授業に対する予習・復習	予習：　授業前に課される事前課題に取り組んでおくこと。	復習：　継続性のある課題を行っていくので、授業内容を確実に理解しておくこと。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 実践活動（制作や発表などを含む）（３０％）、ドキュメンテーション（２０％）、授業態度（５０％）
教科書	必要に応じて資料を配布する。
参考文献	必要に応じて随時紹介する。
注意事項	テーマに沿って、グループ討議やドキュメンテーション、制作、発表等を行い、協同して学ぶことを大切にするため、各自が積極的に演習に取り組むこと。 毎回の内容を積み上げながら進めていくので、欠席しないこと。

科目名	保育所実習Ⅰ	単位数	2	担当教員	丸橋・富山・小口

授業の内容	保育士証取得を目的とする保育実習は、保育に関する講義や演習で学んできた内容を保育所及び保育所以外の児童福祉施設等で実践するものである。保育所実習のうち前期実習が保育所実習Ⅰとなる。（後期実習は、保育所実習Ⅱとして実施）
到達目標	保育所の生活に参加し、観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。保育所の役割や機能、職務倫理について学び理解することができる。日々の保育の展開、保育の計画や記録の仕方を体験し、実践できるようにする。自己評価をする。保育士としての業務内容を体験する。 第１学年（二部は第２学年）に１２日間実施。

授業計画		
	第１回	実習施設について理解する
	第２回	保育の一日の流れを理解し、参加する
	第３回	子どもの観察とその記録より子どもを理解する
	第４回	子どもの発達過程を理解し、子どもへの援助やかかわりを学ぶ
	第５回	保育の計画や子どもの発達過程に応じた保育内容を学ぶ
	第６回	子どもの生活や遊びと保育環境を学ぶ
	第７回	子どもの安全及び疾病予防への配慮について理解する
	第８回	保育課程の意義を理解しそれに基づく指導計画を学ぶ
	第９回	記録に基づく省察や自己評価を行う
	第10回	子どもの最善の利益を具現化する方法について学ぶ
	第11回	保育士の業務内容や職員間の役割分担と連携について理解する
	第12回	保育士の役割と職業倫理を学ぶ
	第13回	
	第14回	
	第15回	

授業に対する予習・復習		
予習：	実習で必要とされる保育技術の習得に励むこと。子どもを理解するための発達など知識やかかわり体験を増やすこと。	復習：　実習後に自身を振り返り、次の実習に向けて自己課題の達成に努める。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 実習課題（２０％）、実習日誌（３０％）、実習施設による評価（５０％）
教科書	『実習の手引き』（実習委員会）、『保育所保育指針』・解説書
参考文献	
注意事項	「保育所実習研究Ⅰ」で履修した内容を実践すると同時に、保育所の指導を受け、実習生としてふさわしい言動がとれるように、日常生活において十分に留意すること。また、実習関係報告書類の提出遅延、実習中の怠惰、非行等があった場合は、本学の「実習派遣規制」によって、実習の停止、中止等が行なわれる場合があり、保育士証取得が出来ないことになるので厳重に注意すること。

科目名	施　設　実　習	単位数	2	担当教員	志濃原亜美・三好力

授業の内容	施設実習を通して、施設の役割や機能、日々の生活の展開、利用者の理解と関係の形成、保育者としての職務内容等について実際的に学習する。 保育士証を取得するため、保育実習（必修）の中に施設実習を行なうことが定められており、保育に関する講義や演習で学んできた内容を児童福祉施設、知的障害者施設等で実践するものである。
到達目標	・居住型及び通所型児童福祉施設等の利用者の生活が理解できる。 ・居住型及び通所型児童福祉施設等の保育士の役割について理解できる。 ・居住型及び通所型児童福祉施設等の機能が理解できる。

授業計画		
	第１回	実習施設の目的・機能の理解①（一日の生活の理解）
	第２回	実習施設の目的・機能の理解②（利用児・者についての理解）
	第３回	実習施設の人的・物的環境の理解①　（施設職員の役割・協働について）
	第４回	実習施設の人的・物的環境の理解②　（施設の物的環境について）
	第５回	施設の利用者の生活実態の把握と援助技術の習得①（利用者の生活実態の把握）
	第６回	施設の利用者の生活実態の把握と援助技術の習得②（利用者への援助）
	第７回	施設の利用者の生活実態の把握と援助技術の習得③（利用者への援助のための間接業務）
	第８回	保育士の職務内容・役割・他職種との連携の理解①（施設で働く保育士の役割）
	第９回	保育士の職務内容・役割・他職種との連携の理解②（保育士と他職種との連携）
	第 10 回	施設と地域・家庭・関係機関等との連携についての理解
	第 11 回	反省会・まとめ①
	第 12 回	実習施設の役割
	第 13 回	実習施設の社会的機能
	第 14 回	これからの施設の在り方
	第 15 回	反省会・まとめ②

授業に対する予習・復習	予習：　毎日提出する実習日誌の目標を考える	復習：　日々の実習の記録及び反省

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 実習（８０％）、レポート（１０％）、実習課題（１０％）
教科書	『最新保育資料集 2016』（ミネルヴァ書房）
参考文献	施設種別毎の「実習園資料」（本学実習資料室のもの）等を、数多く参照すること。
注意事項	「福祉施設実習研究」で履修した内容を理解して実践すると同時に、施設の指導を受け、実習生としてふさわしい言動がとれるように、十分に留意すること。 また、実習関係報告書類の提出遅延、実習中の怠惰、非行等があった場合は、本学の「実習派遣規制基準」によって、実習の停止、中止等が行なわれる場合があり、保育士証取得ができないことになるので注意すること。

科目名	保育所実習Ⅱ	単位数	2	担当教員	丸橋・富山・小口

授業の内容	保育士証取得を目的とする保育実習は、保育に関する講義や演習で学んできた内容を保育所及び保育所以外の児童福祉施設等で実践するものである。保育所実習のうち後期実習が保育所実習Ⅱとなる。
到達目標	保育所実習Ⅱの目標は、保育所の保育を実際に実践し、子ども理解、かかわりの視点の明確化、指導計画の作成・実践など保育士としての資質・能力・技術を修得する。また、子どもの保育及び保護者支援、地域の子育て家庭への支援について総合的に学び、保育所の役割や機能について理解を深めることができる。 後期実習は、主に参加・責任実習である。前期実習で学んだ基本的内容を踏まえ、積極的に保育活動に参加し、保育の理論と技能を総合的に体験し実践できるようにする。自らの保育観や目標を確立する。 第２学年（二部は第３学年）に１２日間実施。

授業計画		
	第１回	保育所の社会的役割と責任を学ぶ
	第２回	養護と教育が一体となって行なわれる保育を学ぶ
	第３回	子どもの心身の状態や活動の観察をする
	第４回	保育士等の動きや実践の観察をする
	第５回	保育所の生活の流れや展開の把握を学ぶ
	第６回	環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育を理解する
	第７回	入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援を学ぶ
	第８回	地域社会との連携を学ぶ
	第９回	保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程を理解する
	第 10 回	作成した指導計画に基づく保育実践と評価を行う
	第 11 回	多様な保育の展開と保育士としての業務、職業倫理を理解する
	第 12 回	保育士としての自己の課題を明確化する
	第 13 回	
	第 14 回	
	第 15 回	

授業に対する予習・復習			
	予習：	保育所実習Ⅰ後に自身を振り返り、保育所実習Ⅱまでに自己課題の達成に努める。	復習： 保育者に必要な保育技術の習得に励むこと。子どもを理解するための発達など知識やかかわり体験を増やすこと。

成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 実習課題（２０％）、実習日誌（３０％）、施設による評価（５０％）
教科書	『実習の手引き』(実習委員会)、『保育所保育指針』・解説書
参考文献	
注意事項	「保育所実習研究Ⅱ」で履修した内容を実践すると同時に、保育所の指導を受け、実習生としてふさわしい言動がとれるように、日常生活において十分に留意すること。また、実習関係報告書類の提出遅延、実習中の怠惰、非行等があった場合は、本学の「実習派遣規制」によって、実習の停止、中止等が行なわれる場合があり、保育士証取得が出来ないことになるので厳重に注意すること。

科目名	保育所実習研究Ⅰ	単位数	1	担当教員	丸橋・富山・小口

授業の内容	この保育所実習研究Ⅰは、保育所実習に並行して行われる授業であり、実習の目的、実習施設の機能、保育者の職務内容や、実習手続書類の作成について学習し、実習参加意識の高揚、各自の実習課題と事後の学習目標を立てる等、保育所実習の意義を高めるものである。
到達目標	保育所実習の意義・目的・内容を理解し、自らの課題を明確にする。子どもの人権と最善の利益の考慮などを理解し、実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法について学び実践できるようにする。実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や目標を明確にし、実行できるようにする。

授業計画		
	第１回	保育実習、保育所実習について
	第２回	保育所実習の目的理解
	第３回	前期実習の目的（参加、観察実習）
	第４回	前期実習参加の心得
	第５回	実習手続き書類の作成指導（配当資料）
	第６回	実習手続き書類の作成指導（調査書）
	第７回	オリエンテーションについて
	第８回	持ち物、身だしなみについて
	第９回	保育園の一日の流れ、実習中の注意事項
	第 10 回	参加、観察実習の留意点
	第 11 回	実習日誌の作成指導
	第 12 回	実習日誌の作成
	第 13 回	実習課題と準備の説明
	第 14 回	部分実習指導計画案について
	第 15 回	実習の総括と自己評価

授業に対する予習・復習		
	予習：　実習で必要とされる保育の知識や保育技術を学び、習得に励む。ボランティア活動などの実践の中で子どもとのかかわり体験をするように努める。	復習：　保育所実習Ⅰを振り返り、自己課題を明確にする。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない レポート・課題（６０％）、授業態度（３０％）、諸手続き（１０％）
教科書	『実習の手引き』(実習委員会)、『保育所保育指針』・解説書
参考文献	
注意事項	各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また、実習提出書類の遅延、授業態度の怠惰等は、「実習派遣規制」によって禁じられており、実習派遣ができなくなるので十分に留意すること。

科目名	保育所実習研究Ⅱ	単位数	1	担当教員	丸橋・富山・小口

授業の内容	この保育所実習研究Ⅱは、保育所実習に並行して行われる授業であり、実習の目的、実習施設の機能、保育者の職務内容や、実習手続書類の作成について学習し、実習参加意識の高揚、各自の実習課題と事後の学習目標を立てる等、保育実習の意義を高めるものである。
到達目標	保育実習の意義・目的を理解し、総合的に学ぶ。実習や既習の教科の内容や関連性を踏まえ、保育の全体的計画に基づく具体的な計画や保育実践力を身につける。保育士の専門性と職業倫理を理解する。実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

授業計画		
	第１回	後期実習の目的（参加、責任指導実習）
	第２回	後期実習参加の心得
	第３回	部分、責任指導実習の留意点
	第４回	実習日誌の作成指導
	第５回	実習日誌の作成（乳児クラス）
	第６回	実習日誌の作成（幼児クラス）
	第７回	指導計画案の作成指導
	第８回	指導計画案の作成（乳児クラス）
	第９回	指導計画案の作成（3 歳児クラス）
	第 10 回	指導計画案の作成（4・5 歳児クラス）
	第 11 回	実習課題と準備の説明・作成
	第 12 回	オリエンテーション報告書、実習報告書の作成
	第 13 回	実習の総括と自己評価
	第 14 回	子ども観、保育観の確立と職業倫理について
	第 15 回	課題の明確化

授業に対する予習・復習		
	予習：　保育所実習Ⅰを振り返り、次の実習で必要とされる保育の知識や保育技術を学び、習得に努める。	復習：　自己課題を明確にし、達成できるよう努力する。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 課題・レポート（６０％）、授業態度（３０％）、諸手続き（１０％）
教科書	『実習の手引き』(実習委員会)、『保育所保育指針』・解説書
参考文献	
注意事項	各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また、実習提出書類の遅延、授業態度の怠惰等は、「実習派遣規制」によって禁じられており、実習派遣ができなくなるので十分に留意すること。

科目名	福祉施設実習研究	単位数	1	担当教員	志濃原亜美・三好力

授業の内容	この授業は、施設実習の前後に行なわれるものである。事前授業では実習の目的、実習施設の機能、保育者の職務内容、および実習手続き書類の作成等について学習し、実習心得を身に付け、実習参加意欲の高揚を図るとともに、各自の実習課題を確立する。 実習後授業は、実習報告会の参加、実習報告書と実習アンケートの作成等を通して、自己の適性を見直し、保育者としての使命感や人権意識等を考え今後の学習課題を設定する。
到達目標	・実習施設について理解を深めることができる ・実習課題が設定できる ・自己の適性を知ることができる

授業計画

第１回	オリエンテーション（履修上の諸注意）	第 16 回	提出書類の説明・確認
第２回	施設実習の意義の理解	第 17 回	実習報告書作成（前半）
第３回	実習施設の配当発表及び各実習施設の理解	第 18 回	実習報告書作成（後半）
第４回	居住型福祉施設の生活実態を知る（乳児院）	第 19 回	実習日誌提出と確認
第５回	実習生調書の作成	第 20 回	実習評価と反省（個別面談）
第６回	居住型福祉施設の生活実態を知る（児童養護施設）	第 21 回	実習評価と反省（個別面談）
第７回	居住型福祉施設の生活実態を知る（障害児関連施設）	第 22 回	実習評価と反省（個別面談）
第８回	居住型福祉施設の生活実態を知る（障害者支援施設）	第 23 回	実習評価と反省（個別面談）
第９回	各施設への実習前訪問	第 24 回	実習評価と反省（個別面談）
第 10 回	外部講師の話	第 25 回	実習評価と反省（個別面談）
第 11 回	実習の日誌の書き方	第 26 回	実習評価と反省（個別面談）
第 12 回	実習の各種手続き	第 27 回	実習報告会への出席
第 13 回	施設実習の内容	第 28 回	実習日誌返却と講評
第 14 回	実習に向けての心構え	第 29 回	今後の学習課題について
第 15 回	最終確認	第 30 回	まとめと課題

授業に対する予習・復習	予習：	復習：　復習シートを配布する 感想文等、その都度指示する
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 課題（３０％）、レポート（２０％）、授業態度（５０％）	
教科書	『保育士をめざす人の福祉施設実習』（伊藤貴啓編集代表、みらい）	
参考文献	『最新保育資料集 2016』（ミネルヴァ書房）	
注意事項	各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また、実習提出書類の遅延、非行・怠惰等は、「実習派遣規制基準」によって禁じられているので十分に留意すること。 ◎派遣施設が決まったら、自主的にその施設機能や利用者について予備学習を行うこと。	